

326  
290



始



326-290



橫濱稅關新設備報告

大正  
6. 11. 24  
内交

横濱税關新設備ハ第一期工事トシテ明治三十二年五月工ヲ起シ同三十八年十二月一旦其ノ功ヲ竣ヘ更ニ第二期工事トシテ同三十九年四月工ヲ起シ本年十一月全ク其ノ功ヲ竣フ歳ヲ閱スルコト前後十有九年施行機關ヲ代フルコト三タビニシテ第一期工費貳百參拾萬圓第二期工費八百拾五萬圓總計壹千四拾五萬圓ヲ要セリ

第二期工事ハ横濱市ニ於テ其ノ速成ヲ希望シ工費ノ約三分ノ一即チ金貳百七拾萬圓ヲ負擔スルコト、爲リ明治三十九年度以降六箇年ニ之ヲ納付セリ蓋政府ト地方團體ト事業ノ經費ヲ分擔シ共同經營ヲ爲セルハ本港ヲ以テ嚆矢トス因リテ政府ハ明治三十九年六月特ニ官市ノ關係者ヨリ成レル横

濱港設備委員會ナルモノヲ組織シ重要ノ事項ヲ審議セシメ  
施行上遺憾ナカラムコトヲ期セラレタリ

本工事ハ明治三十二年臨時稅關工事部ヲ置キ之ヲ管掌セシ  
メラレ其ノ部長ハ目賀田若槻櫻井ノ各主稅局長之ヲ兼攝シ  
明治三十九年大藏省臨時建築部ノ併掌ニ屬シ故妻木技師之  
カ部長ト爲リ大正二年更ニ大藏大臣官房臨時建築課ノ管理  
ニ歸シ以テ今日ニ至レリ

本工事ハ曩ニ日清、日露ノ兩役ニ於ケル戰後經營ノ最緊急ナ  
ル一事業トシテ企畫セラレ起工後財政ノ都合等ニ依リ再三  
工事年限ヲ變更シ遂ニ數年間竣功ヲ遲延スルノ已ムヲ得サ  
ルニ至リタルモ今ヤ世界ノ大戰ニ際シ船舶ノ出入、貨物ノ集

散最頻繁ヲ極ムルノ時ニ方リ其ノ設備ヲ竣成セルハ洵ニ國  
家ノ幸慶ナリト謂フヘシ

小官終始本工事ニ從事シ幸ニ上司ノ懇篤ナル指導ト設備委  
員ノ適切ナル助力トヲ得加フルニ部下諸職員ノ熱誠ナル努  
力ト周到ナル注意トニ依リ豫定ノ工程ヲ遂行シ茲ニ閣下ニ  
復命スルコトヲ得ルハ小官ノ光榮トスル所ナリ其ノ工事ニ  
關スル事蹟ノ梗概ハ載セテ別冊ニ在リ冀クハ劉覽ヲ賜ハラ  
ムコトヲ

終リニ臨ミ商港設備ノ整否ハ管理ノ適否ト相俟ツテ其ノ盛  
衰ニ重大ナル關係ヲ有スルハ歐米各國ノ例ニ徵シ明ナリト  
ス而シテ本工事ハ橫濱港改良ノ第一著歩タルニ過キサレハ

更ニ臨港設備ノ改良及管理經營ノ方法ニ關シ充分ノ講究ヲ  
遂ケラレ戰後世界的貿易ノ變遷ニ伴フ國運ノ發展ニ遺算ナ  
カラムコトハ切ニ小官ノ希望ニ堪ヘサル所ナリ

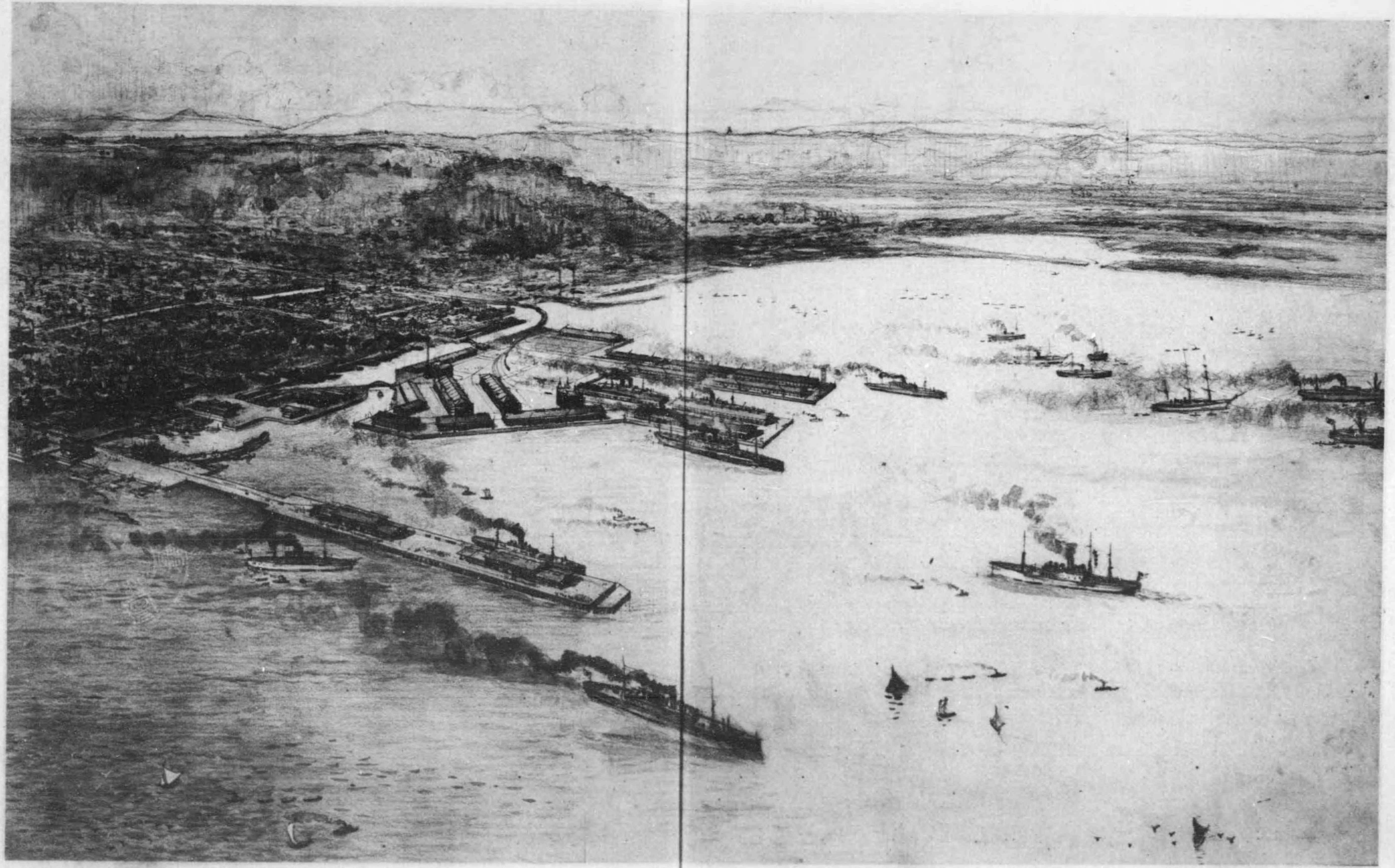
四

大正六年十一月

大藏大臣官房臨時建築課長

工學博士 丹 羽 鋤 彦

大藏大臣 勝田主計殿



新設備全景

# 橫濱稅關新設備報告

## 目次

第一章 橫濱港及稅關設備ノ改良	一頁
第二章 工事計畫工費豫算及決算	一二
第一節 工事計畫	一二
第二節 工費豫算及決算	二六
第三章 海面埋立	四二
第一節 埋立	四二
第二節 岸壁及物揚場	四三
第一款 岸壁	四三
第二款 物揚場及護岸石垣	五六
第三節 橋梁	五八
第一款 萬國橋	五八

第二款 新港橋及鐵道橋

第四章 陸上設備

第一節 上屋

第一款 木造上屋

第二款 鐵造上屋

第二節 倉庫

第三節 道路及排水設備

第一款 道路

第二款 構内石敷

第三款 弧光燈

第四款 下水渠

第四節 鐵道

第五節 發電及配電設備

第一款 發電所

六〇

六四

六四

六六

六八

七〇

七五

七五

七八

八〇

八一

八三

八六

八七

第二款 發電及蓄電裝置

第三款 電線路

第六節 起重機及轆轤

第一款 起重機

第二款 豎軸轆轤

第七節 雜設備

第一款 事務所

第二款 見張所其他

第三款 水道

第八節 曳船用汽船

第五章 棧橋改築

第一節 棧橋

第二節 上屋

第三節 埋立及陸上雜設備

八九

九三

九五

九五

九九

一〇一

一〇一

一〇四

一〇五

一〇六

一〇九

一〇九

一一六

一二〇



第一款 埋立、護岸及浮棧橋……………一三〇

第二款 道路、鐵道、弧光燈及水道……………一三三

第六章 工事用機械船舶……………一三八

第七章 工事施行機關及諮問機關……………一三六

第八章 設備ノ利用……………一四四

附圖

一 橫濱港全圖

一 橫濱稅關新設備圖

一 突堤及岸壁斷面圖

一 鐵造及木造上屋之圖

一 煉瓦造倉庫之圖

一 五十噸電氣定置起重機之圖

一 一噸半電氣可動起重機、十噸堅軸轆轤及鋪石道路斷面圖

一 煉瓦造事務所之圖

一 棧橋之圖

一 棧橋上屋之圖

一 貿易品輸出入總價格及噸數

# 橫濱稅關新設備報告

## 第一章 橫濱港及稅關設備ノ改良

橫濱港、安政六年開港以來累年増進長足ノ進歩ヲ爲シ神戸港ト相對シテ帝國ノ二大門戶タリ今左ニ數表ヲ掲ケテ本港發展ノ狀況ヲ示サムトス

年	航 港		船 港		外 國 貿 易 貨 物 價 格	
	入	出	入	出	輸 入	輸 出
明治元年	三九	二九四、四一六	三九四	二九九、八七〇	七六八、〇三三	二〇、九九一、三三四
同五年	三八	三五五、六七二	二八五	三四七、七〇三	一九〇、四〇五	三〇、七五三、六八七
同十年	三六	四四七、七一〇	三五五	四四〇、三七三	二一〇、三八七、七八八	三六、九四五、一五六
同十五年	三五	四九七、六一六	三四一	四八六、六七八	二〇、三五三、四二七	四七、二七七、九三九
同二十年	四三	六四七、三五〇	四三四	六五三、四七九	二七、一七四、九三八	六〇、九五〇、一五〇
同二十五年	四七	八五六、七三五	四六五	八四四、二七六	三一、三二八、九〇四	九三、八八一、一〇八

第一章 橫濱港及稅關設備ノ改良

年次	内航船		外航船		合計		外國貿易貨物噸數	
	隻數	登簿噸數	隻數	登簿噸數	隻數	登簿噸數	輸出	入
明治三十年	七〇三	一,四四五,六〇一	六九〇	一,四一一,三二三	一,三九〇,七〇〇	九八五	八六,八三六,八五五	一七七,五三七,八四〇
同三十五年	八四四	二,一三八,〇三〇	七八六	二,一三三,七六五	一三九,〇一五,六七六	一,三三〇,四六五	八九,二九三,五〇六	三三八,三〇八,一八三
同四十年	一,二七六	三,四三五,一六三	一,一三九	三,三八九,六九五	二〇五,八八八,五三四	一,〇六六,七三八	一七三,四八五,六三三	三七八,三七四,一六七
大正元年	一,二五〇	三,九〇一,七三五	一,一四〇	三,七七八,七五〇	二六〇,八九七,四九二	一,〇六六,七三八	二二七,二七七,一〇六	四七八,一四四,五九八
同五年	一,二四六	三,一八九,七八一	一,〇五二	三,一三六,二二三	五〇二,一六〇,一〇六	一,〇六六,七三八	二六,九二一,〇六九	七一九,〇七一,一七五
明治三十八年	二,〇六三	一,七五一,三三三	九二四	二,八四七,〇三一	二,九八七	四,五九八,三五四	二二八,八五九	一,三〇〇,四六五
同三十九年	二,一五五	一,九五二,七六三	一,〇六二	三,一七六,九四九	三,二七	五,二二八,七二二	三三七,七〇三	一,〇六六,七三八
同四十年	二,五六〇	一,八一,三四五	一,一七八	三,四二五,一六三	三,七三六	五,二四六,五〇八	三三三,六六四	一,三三九,八一九
同四十一年	二,一六〇	二,二五,八七八	一,一九三	三,五六七,三八一	三,三三三	五,七八三,二五九	四三〇,〇一四	一,三二五,九五〇
同四十二年	一,八〇一	二,〇四〇,五六六	一,一三九	三,三九三,二八九	二,九三〇	五,四三三,八一五	四〇四,五八五	一,一八二,三六一
同四十三年	一,七八五	二,一五四,〇六三	一,一四八	三,四六一,五〇三	二,九三三	五,六二九,五六五	四七一,三三三	一,二一八,八〇〇
同四十四年	一,七九二	二,三八九,七三六	一,一三〇	三,六六四,九四四	三,〇二二	六,〇五四,六八〇	五〇六,八七三	一,三三六,六三五
計								

年次	横濱	神戶	大阪	門司	其他	計
大正元年	一,九四一	二,四七八,九八八	一,二五〇	三,九〇一,七三五	三,一九一	六,三八〇,七二三
同二年	一,八四四	二,五五六,二八六	一,四四六	四,五六一,二三三	三,二九〇	七,一七五,一九一
同三年	一,八一四	二,四九八,九八六	一,二四五	四,〇〇八,七四三	三,〇五九	六,五〇七,七二九
同四年	一,七五三	二,一九六,八六六	一,〇七八	三,〇五三,二三三	二,八三〇	五,二五〇,〇八九
同五年	一,八八九	二,〇六七,四五四	一,一四六	三,一九八,〇七六	三,〇三五	五,二六五,五三〇
計						

貿易品輸出價格

年次	港別	横濱		神戶		大阪		門司		其他		計
		隻數	登簿噸數	隻數	登簿噸數	隻數	登簿噸數	隻數	登簿噸數	隻數	登簿噸數	
明治四十年		二〇五	一〇,六六八,二六五	〇	〇	〇	〇	〇	一,九〇九,八四五	〇	〇	一,九〇九,八四五
同四十一年		〇	〇	八	一,四七五	〇	〇	〇	一,九〇九,八四五	〇	〇	一,九〇九,八四五
同四十二年		〇	〇	一〇〇	一,〇六六,五五五	〇	〇	一〇	一,〇六六,五五五	〇	〇	一,〇六六,五五五
同四十三年		〇	〇	一三三	一,〇九二,二二六	〇	〇	一	一,〇九二,二二六	〇	〇	一,〇九二,二二六
同四十四年		〇	〇	一三三	一,〇九二,二二六	〇	〇	一	一,〇九二,二二六	〇	〇	一,〇九二,二二六
大正元年		〇	〇	一五三	一,〇九二,二二六	〇	〇	一	一,〇九二,二二六	〇	〇	一,〇九二,二二六
計												

123

第一章 横濱港及税關設備ノ改良

年次	横濱	神戶	大阪	門司	其他	計
大正二年	三〇〇,五九六	〇〇七,一七三	九七,七二九	三三,七〇九	六,一五五	六七三,二六六
同三年	三〇〇,三〇〇	〇〇七,〇〇〇	九〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	七,〇〇〇	六三四,三〇〇
同四年	三〇〇,〇〇〇	〇〇六,〇〇〇	八〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	五,〇〇〇	五〇五,〇〇〇
同五年	三〇〇,〇〇〇	〇〇五,〇〇〇	七〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	四,〇〇〇	四八〇,〇〇〇

貿易品輸入價格

年次	横濱	神戶	大阪	門司	其他	計
明治四十年	一七五,八八五	二三五,七五七	三〇〇,〇〇〇	二六,〇〇〇	三三,九九九	四九一,六四一
同四十一年	一七五,八八五	二三五,七五七	三〇〇,〇〇〇	二六,〇〇〇	三三,九九九	四九一,六四一
同四十二年	一七五,八八五	二三五,七五七	三〇〇,〇〇〇	二六,〇〇〇	三三,九九九	四九一,六四一
同四十三年	一七五,八八五	二三五,七五七	三〇〇,〇〇〇	二六,〇〇〇	三三,九九九	四九一,六四一
同四十四年	一七五,八八五	二三五,七五七	三〇〇,〇〇〇	二六,〇〇〇	三三,九九九	四九一,六四一
大正元年	二七三,七三〇	三三三,三三三	三三三,三三三	三三三,三三三	三三三,三三三	一,六〇〇,〇〇〇
同二年	三三三,三三三	三三三,三三三	三三三,三三三	三三三,三三三	三三三,三三三	一,六〇〇,〇〇〇

貿易品輸出總價格

年次	横濱	神戶	大阪	門司	其他	計
明治四十年	三七八,五五五	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一,五〇〇,〇〇〇
同四十一年	三七八,五五五	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一,五〇〇,〇〇〇
同四十二年	三七八,五五五	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一,五〇〇,〇〇〇
同四十三年	三七八,五五五	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一,五〇〇,〇〇〇
同四十四年	三七八,五五五	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一,五〇〇,〇〇〇
大正元年	四七,二四四	四七,二四四	四七,二四四	四七,二四四	四七,二四四	一八八,〇〇〇
同二年	四七,二四四	四七,二四四	四七,二四四	四七,二四四	四七,二四四	一八八,〇〇〇
同三年	四七,二四四	四七,二四四	四七,二四四	四七,二四四	四七,二四四	一八八,〇〇〇

第一章 横濱港及税關設備ノ改良

年次	横濱	神戶	大阪	門司	其他	計
大正四年	四七,七〇七,七三三 円	四七,〇〇七,七三五 円	一八五,一六三,一八三 円	四三,二七六,一六六 円	一六六,〇八七,一六七 円	四七〇,〇〇一,〇〇九 円
同五年	四七,〇〇七,七三三 円	四七,〇〇七,七三五 円	一八五,一六三,一八三 円	四三,二七六,一六六 円	一六六,〇八七,一六七 円	四七〇,〇〇一,〇〇九 円

貿易品輸出噸數

年次	横濱	神戶	大阪	門司	其他	計
明治四十年	三,四〇〇,〇〇〇	三,九〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇
同四十一年	三,四〇〇,〇〇〇	三,九〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇
同四十二年	三,四〇〇,〇〇〇	三,九〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇
同四十三年	三,四〇〇,〇〇〇	三,九〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇
同四十四年	三,四〇〇,〇〇〇	三,九〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇
大正元年	三,四〇〇,〇〇〇	三,九〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇
同二年	三,四〇〇,〇〇〇	三,九〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇
同三年	三,四〇〇,〇〇〇	三,九〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇
同四年	三,四〇〇,〇〇〇	三,九〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇

同五年	三,四〇〇,〇〇〇	三,九〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇
-----	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	------------

貿易品輸入噸數

年次	横濱	神戶	大阪	門司	其他	計
明治四十年	一,一〇〇,〇〇〇	一,二〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇
同四十一年	一,一〇〇,〇〇〇	一,二〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇
同四十二年	一,一〇〇,〇〇〇	一,二〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇
同四十四年	一,一〇〇,〇〇〇	一,二〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇
大正元年	一,一〇〇,〇〇〇	一,二〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇
同二年	一,一〇〇,〇〇〇	一,二〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇
同三年	一,一〇〇,〇〇〇	一,二〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇
同四年	一,一〇〇,〇〇〇	一,二〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇
同五年	一,一〇〇,〇〇〇	一,二〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇

貿易品輸出入總噸數

年次	港別	橫濱	步合	神戶	步合	大阪	步合	門司	步合	其他	步合	計
明治四十年		1,548,083	0.15	2,289,555	0.22	622,211	0.06	1,677,433	0.16	5,576,000	0.56	9,993,282
同四十一年		1,709,619	0.18	2,111,415	0.21	616,099	0.06	1,668,569	0.16	5,345,970	0.54	9,561,662
同四十二年		1,566,986	0.16	2,133,921	0.21	600,599	0.06	1,585,677	0.16	5,169,389	0.52	9,066,572
同四十三年		1,592,133	0.16	2,054,645	0.20	674,912	0.07	1,535,399	0.15	5,006,383	0.50	8,873,472
同四十四年		1,818,508	0.18	2,085,733	0.21	754,523	0.07	1,555,123	0.16	5,087,721	0.51	9,299,613
大正元年		2,181,333	0.22	2,255,910	0.23	847,749	0.08	1,500,288	0.15	5,066,939	0.51	11,852,219
同二年		2,877,926	0.29	2,595,516	0.26	1,170,153	0.12	1,871,215	0.19	5,675,333	0.57	14,160,143
同三年		3,129,114	0.32	2,888,066	0.29	1,061,071	0.11	1,871,918	0.19	5,756,645	0.58	14,007,818
同四年		3,216,879	0.33	2,999,584	0.30	1,161,071	0.12	1,871,918	0.19	5,880,125	0.59	14,109,587
同五年		3,000,714	0.31	2,910,010	0.29	1,383,527	0.14	1,766,379	0.18	5,331,719	0.54	13,492,359

斯ク顯著ナル發達ヲ爲シタル橫濱港ハ當初寂寞タル漁村ニシテ橫濱稅關ノ前身

タル神奈川運上所モ亦此ノ沿岸ニ設ケラレタル一小官衙タリシカ爾來海岸沼澤ヲ埋築シ市街地ヲ形成シ内外商估ノ移住商業機關ノ發展ハ相俟テ貿易設備ヲ促進シ運上所ハ橫濱稅關ト改稱シ明治十八年ニハ西波止場ノ現位置ニ廳舎上屋倉庫等ヲ建設スルニ至レリ然ルニ貿易港トシテ港内何等ノ施設ヲ見ルコトナク船舶ハ灣内ニ假泊シ海岸ニハ數個不完全ナル物揚場ヲ有スルニ過キス明治二十二年ニ至リ政府ハ始テ本港修築ノ議ヲ決シ二條ノ防波堤ヲ築キ港内波浪ノ侵入ヲ防キ馴導堤ヲ設ケテ帷子川ノ濁流ヲ港外ニ導キ港内西波止場ノ前面ニ幅六十三呎延長二千四百二十餘呎ノ鐵棧橋ヲ架設シ工費總額金貳百參拾四萬七千參百餘圓ヲ支出シ同二十九年其ノ工ヲ竣ヘタリ

此ノ防波堤ニ依リ包圍セラレタル船舶錨地ハ百五十餘萬坪ニ及ヒ其ノ面積ニ於テハ歐米各港ニ比シ敢テ遜色ナシト雖岸接荷役ノ不備港内水深ノ不足等未タ以テ偉大ナル本港外國貿易ノ發展ニ伴フ能ハス當時大藏省主稅局長目賀田種太郎ハ夙ニ本港ニ對シ稅關擴張ト同時ニ海陸運輸聯絡設備ヲ爲スノ急務ナルヲ認メ橫濱稅關長水上浩躬ノ稟申ト相俟テ企畫周旋終ニ政府ノ容ルル所トナリ工學博

士古市公威ニ其ノ計畫ヲ囑託シ第一著手トシテ明治三十二年度以降五箇年繼續事業トシテ海面埋立工事豫算ヲ第十三回帝國議會ニ提出シ經費金貳百參拾四萬五千五百九拾圓餘ノ協賛ヲ得タリ同三十二年五月本工事施行機關トシテ臨時税關工事部ヲ設置シ其ノ後繼續年限ヲ二箇年延長シ明治三十八年十二月第一期埋立工事ヲ竣功セリ

此ノ第一期埋立工事ハ單ニ既定計畫ノ一部ヲ施行シタルニ過キス進ンテ埋立地ノ殘部及其ノ陸上設備ヲ完成スルニ非サレハ本港貿易ノ増進ニ應スル能ハス加フルニ日露戰役後一層海外貿易ノ發展ヲ必要トスルノ氣運ニ際シ本工事中止ノ不利益ヲ認メ引續キ第二期工事施行ノ議アリ當時横濱市ニ於テモ其ノ必要ヲ感スルコト最痛切ナリシヲ以テ臨時税關工事部長若槻禮次郎ハ横濱市長市原盛宏ト協議斡旋ニ勉メ終ニ明治三十八年九月横濱市ハ之カ速成ヲ期スル爲メ進ンテ其ノ工費三分ノ一ヲ負擔セムコトヲ稟請セシヲ以テ政府ハ其ノ提議ヲ容レ同三十九年以降六箇年繼續事業トシテ其ノ豫算ヲ第二十二回帝國議會ニ提出シ經費金八百拾八萬圓ノ協賛ヲ得同三十九年二月大藏大臣法學博士阪谷芳郎ハ横濱市

ニ對シ工費金貳百七拾萬圓分擔ニ關スル命令ヲ發セリ同年三月臨時税關工事部ヲ廢止シ本工事ニ關スル一切ノ事務ヲ大藏省臨時建築部ニ移シ更ニ本設備施行ニ關スル諮問機關トシテ同年六月臨時横濱港設備委員會ヲ設置シ其ノ審議ヲ經工事ヲ進行シ來リシカ明治四十四年第二十八回帝國議會ノ協賛ヲ經テ倉庫起重機及軌轆ノ數ヲ減シ其ノ廢止ニ依リ生シタル工費ト竣功部分ノ殘餘金トヲ轉用シ繼續年限ヲ延長シ棧橋改築工事ヲ起シタリ此ノ間大正二年六月大藏省臨時建築部ハ廢止セラレ同時ニ其ノ事務ヲ大藏大臣官房臨時建築課ニ移シ以テ今日ニ至レリ

此ノ第二期工事ノ内海面埋立ハ明治四十四年三月陸上設備ハ大正三年六月棧橋改築ハ同六年十一月全部完成セリ

### 第二章 工事計畫工費豫算及決算

#### 第一節 工事計畫

明治三十一年横濱税關擴張ニ關スル計畫ノ大要左ノ如シ

横濱港ハ曩ニ東北兩水堤ノ築設アリシヨリ以來平穩ノ碇繫水面ヲ得テ解荷役ノ如キハ之カ爲メ著シキ便利ヲ得タルコト疑ナシト雖亦一方ニ於テハ水堤ヲ以テ碇繫水面ヲ界限シタルカ爲メニ貿易ノ發達ニ伴ヒ近來頻リニ其ノ狹隘ヲ訴フルニ至レリ蓋シ水堤ナルモノハ固ヨリ築港工事ノ一部タルニ過キサレハ兩水堤ノ築設ハ横濱築港ノ第一著手タルニ外ナラス而シテ目下ノ形勢ヲ見ルニ其ノ第二著手ノ工事ヲ起スヘキ時期ハ已ニ切迫シタルカ如シ築港第二著手ノ工事トシテ横濱商業會議所ノ希望スル所ハ大ニ港内ヲ浚深シテ碇繫區域ヲ擴張スルト共ニ沿岸適宜ノ地ヲ埋築シテ倉庫敷ヲ設ケムトスルニ在リ碇繫區域ノ擴張ハ勿論必要ナリト雖抑碇繫ナルモノハ徒ニ大ナル水面ヲ占用スルノ不利アリ且解荷役ノ不便アルヲ以テ繁盛ナル貿易港ノ設備トシテハ到底之ヲ

以テ満足スヘキニアラス必ス同時ニ右ノ不利不便ヲ避クヘキ施設ナカルヘカラス棧橋増架ノ如キハ此ノ目的ヲ達スル一ノ簡便法ナレトモ未タ完全ナル設備ト稱スヘカラス且己ニ倉庫敷埋築ノ必要アリ宜シク之ト同時ニ岸接繫船所ヲ設クルノ策ヲ講スヘシ岸接繫船所ハ其ノ沿岸ニ上屋倉庫ノ設アルヲ以テ稅關ノ便宜ヨリ一般運輸ノ利益マテ得ル所棧橋ノ比ニアラサルコト疑ヲ容レサルナリ

岸接繫船所ハ沿岸到ル所之ヲ設クルヲ得ヘキモ工事ノ難易交通ノ便否ヨリ其ノ規模甚大ナラサルヲ得ハ稅關附近ヲ可トス將來ニ要スヘキ大規模ノ計畫ハ東京灣築港其ノ他ニ關聯スルヲ以テ之ヲ他日ニ譲リ差當リ三十年ニ於ケル輸出入總額ノ内東京行貨物及石油ヲ除キタル殘額二十五萬噸ヲ計畫ノ基礎ト爲シ將來ノ増加ヲ考慮シテ之ヲ設ケ其ノ他ハ碇繫區域ヲ擴張シ解荷役ヲ繼續シテ一時岸接荷役ノ不足ヲ補ハントス

繫船所ノ位置形狀ハ適度ノ深ニ在ル土丹盤ノ視形線ヲ求メ略之ニ沿フテ岸壁ヲ築キ之ヨリ淺キ部分ヲ埋築スルノ方針ヲ以テ之ヲ定メタリ他日精密ナル鑽

總  
淺  
水  
船  
所

視  
形  
線



穿測量ヲ爲シタル上其ノ結果ニ依リ或ハ繫船所ノ位置形狀ニ多少ノ變更ヲ來スナキヲ保セス茲ニ豫メ之ヲ明言シ置クノ必要アリト認ム

**岸壁** 總延長千間有效延長九百間ニシテ大船十艘ヲ繫留スヘク有效延長一間ニ對スル荷役ノ能力ヲ一年五百噸ト假定スルモ尙四十五萬噸ニ達スヘシ岸壁ノ水深ハ干潮面以下二十八尺ト爲シ水深維持ニ困難ナル一部ハ干潮面以下二十尺乃至二十四尺トス

**埋築及浚渫** 埋築地ノ總面積ハ約八萬坪ニシテ上屋倉庫ノ敷地トシテ充分ナルヘク埋築ニ要スル土量ハ浚渫ニ依リ得タル土量ヲ以テ之ニ充テムトス

**上屋倉庫** 配置並其ノ坪數ハ稅關處務ノ實況ニ依リ計畫スヘキモノニシテ新關稅實施ト共ニ其ノ實況ニ變更ヲ來セハ自ラ計畫モ變更セサルヘカラス然レトモ明治三十一年五月ニ於ケル輸出入貨物一日平均五千噸ハ前年ニ於ケル月割平均數ニ比スレハ二倍餘ナルヲ以テ之ヲ標準トシ三日間ノ停滯ヲ見込ミ面一坪ノ積載量ヲ二噸トセハ七千五百坪ノ上屋ヲ要スヘシ上屋ハ岸壁ニ沿フテ之ヲ設ケ其ノ背後ニ二千六百四十六坪二階建倉庫ヲ置キ階上ヲ收容倉庫ニ

階下ヲ保稅倉庫ニ充テムトス

**鐵道** 橫濱停車場ヨリノ聯絡線ヲ除キ構内ニ約六哩半ヲ敷設シ少クモ上屋ニ沿ヒ四線倉庫ニ一線ヲ設ケ各線ノ聯絡ハ可成轉轍器ヲ使用シ又岸壁ニ沿ヒ可動起重機用廣軌鐵道一哩餘ヲ敷設スルモノトス

**道路** 上屋及倉庫ニ沿ヘルモノ面積一萬四千四百坪ニシテ路面ハ敷石ト爲シ又市街ニ聯絡スルモノノ面積七千二百坪ハ一時碎石ヲ用フルモ可トス

**起重機** 固定ノ大起重機及一噸ノ可動起重機數基ヲ沿岸ニ配置シ原動力ハ埋立地内便宜ノ場所ニ機關室及蓄壓槽ヲ設ケ水管ニ依リ配付スルモノトス

**工費概算** 工費ハ岸壁ノ建造ト埋築トニ係ルモノノミニテ金參百萬圓ヲ要ス此ノ計畫ノ趣旨ニ基キ第一期工事トシテ海面埋立工事ニ著手シ更ニ精細ナル地質調査ヲ爲セシカ海底土丹岩起伏ノ狀況當初ノ豫想ト聊カ其ノ趣ヲ異ニスルモノアリ埋立地ヲ凹字形ト爲シ繫船壁ノ一部水深ヲ三十二尺ニ増シ且現在海岸トノ間ニ汽艇及解船ノ碇泊地ヲ存スルノ必要ヲ認メ審議ノ結果明治三十四年十月埋立地ノ形狀ヲ變更セリ

此ノ工事ノ變更ハ同時ニ工費ノ増加ヲ來シ且其ノ分割施行ヲ不利ト認メシモ財政ノ關係上之レカ増額ヲ許サス既定豫算ヲ以テ工事ノ一部ヲ遂行スルコトナリ明治三十八年十二月第一期工事ヲ竣功セリ其ノ計畫ノ沿革左ノ如シ

第一期海面埋立工事計畫ノ沿革

名 稱	常初計畫	變更計畫	竣功數量	備 考
	(三十三年)	(三十四年)	沿海岸長	
岸壁延長	一、〇〇〇〇	一、一二二五	五一七〇	
水深三十二尺以下		一一一〇	一二七〇	
同二十八尺	五九〇〇	六三〇〇	二七九〇	
同二十四尺	一五〇〇	一六八五	五一〇	
同二十尺	二六〇〇	一五五〇	六〇〇	
同十六尺以下		四八〇		
岸壁有效延長	九三〇〇	九五一五	四四五〇	
物 揚 場		二三八〇	一五六五	

護 埋 橋 工	護 埋 橋 工	護 埋 橋 工	護 埋 橋 工
立 面 積	立 面 積	立 面 積	立 面 積
岸 岸	岸 岸	岸 岸	岸 岸
費 梁	費 梁	費 梁	費 梁
七五、〇八四坪	一九九・五	五二二・七	三、〇〇〇、〇〇〇円
六八、六〇〇坪	四八、一五〇坪	四八、一五〇坪	三、二九六、四三二円
	二、〇四八、七三六円		

内萬國橋接續道路護岸延長三十間及假護岸延長三百四十二間二分ヲ含ム  
萬國橋南北橋臺及接續道路數三百四十四坪六一ヲ含ム

第二期工事ハ既定海面埋立ノ完成及其ノ陸上設備ニシテ計畫ノ概要左ノ如シ

海面埋立

既定計畫ノ殘部即チ面積二萬七百九十九坪ノ埋立及總長六百二十間ノ岸壁ヲ築造シ内有效延長五百六間ハ航洋船七隻ヲ繫留シ外ニ突堤ノ一邊六十間ハ重量貨物揚卸ノ爲メ臨時繫船ニ適セシム又兩突堤間凹部及稅關ニ面スル既成護岸中ニ舢舨物揚場ヲ設ク

上屋

岸壁沿繫船岸ニハ繫留船一隻ニ對シ各一棟宛ノ鐵造上屋物揚場ニハ二棟ノ木造上屋ヲ設ケ其ノ總數十五棟面積一萬二千七百二十四坪ニシテ梁間ハ各十四間(内木造一棟ハ十二間)ト爲シ輸出入貨物ノ類別假置用ニ供ス

倉庫 三階建煉瓦造保稅倉庫四棟面積三千九十七坪附屬棚架四百八十一坪六

合昇降機室四十坪ヲ設ケ耐震耐火的構造ト爲シ防火壁ヲ以テ各室百坪以内ニ區劃シ階上ニ水道ヲ導キ電力昇降機、起重機、直進階段及滑板ヲ備ヘ棚架並倉庫内ニ輕便鐵軌ヲ敷設ス

**鐵道** 幹線ハ橫濱停車場ヨリ埋立地ヲ直通シテ右突堤頭部ニ達シ構内ニテ支線ヲ分岐シ税關構内ニ通セシム而シテ繫船岸ニハ二線上屋倉庫ト道路トノ間ニハ二線若ハ三線ヲ敷設シ埋立地中央部ニハ貨車入換用側線ヲ設ケ各幹支線相互聯絡セシメ其ノ延長十一哩トス又電氣起重機ヲ運轉セシムヘキ廣軌鐵道ハ繫船岸全部ニ沿ヒ敷設シ延長一哩八鎖トス其ノ他附屬設備トシテ轉車臺、遷車臺、秤量機ヲ設置ス

**道路及構内敷石** 兩突堤中央ヲ貫キ萬國橋又ハ新港橋ヲ經テ市内ニ通スルモノ及倉庫上屋沿主要道路ハ花崗石敷其ノ他ハ碎石敷ニシテ幅員ハ十二間十間及八間ト爲シ十間以上ノ道路ハ左右各一間ヲ步道ニ充テ其ノ總延長千九百七十四間トス又繫船岸幅六間乃至六間半ハ敷石ト爲シ野天ノ貨物收容區域及上屋倉庫沿空地ハ碎石敷又ハ砂利敷トス

**橋梁** 既成埋立地ヨリ税關構内ニ架スヘキ橋梁ハ水路中央ニ橋脚一個ヲ設ケ左右各長十間ノ鋼桁ヲ架シ幅八間ノ公道橋及鐵道單線ヲ通スル鐵道橋ヲ併架ス

**給水及排水設備** 萬國橋ヲ經テ埋立地ニ四吋乃至八吋ノ鐵管ヲ敷設シ橫濱市ヨリ淨水ノ供給ヲ受ケ繫留船ノ給水營造物ノ防火及公衆衛生ノ爲メ給水栓、消火栓等ヲ備ヘ構内下水暗渠ハ鐵筋混凝土管及普通土管ヲ併用シ溜樹其ノ他必要ノ設備ヲ爲シ雨水及汚水ヲ排除セシム

**電氣起重機** 右突堤頭部ニ三十噸左突堤頭部ニ二十噸定置起重機ヲ設ケ繫船岸ニハ一噸半乃至五噸ノ可動起重機三十臺ヲ配置ス又貨車操縱用一噸電氣豎軸轆轤三十臺ヲ構内必要ノ箇所ニ配備シ兩突堤凹部ニハ船舶繫留用十噸轆轤ヲ設ク

**發電所及電燈** 構内電力供給ノ爲メ發電所ヲ設ケ二百四十馬力發電機四臺汽鐘六臺其ノ他附屬諸機關ヲ設備シ地下ニ埋設セル鍍製地中電纜ニ依リ電力ヲ配給ス又電燈ハ屋内白熱燈ノ外埠頭及道路ニ弧光燈ヲ配備ス

明治三十九年七月第一回臨時橫濱港設備委員會ハ此ノ計畫ヲ審議セシ結果第二期埋立地ニ於ケル上屋道路及岸壁沿鐵道ノ決定ヲ延期シ實施ニ際シ成ルヘク起重機輾軸及電燈ノ數ヲ増加シ鐵道側線ヲ整理シ上屋及倉庫沿鐵道軌間ハ敷石又ハ碎石敷ト爲スヘシトノ條件ヲ以テ其ノ他ノ設計ヲ可決シ同四十一年四月第二回委員會ニ於テ更ニ新埋立地ニ對スル陸上設備計畫ヲ決定シ物價騰貴及繼續年限延長ニ伴フ設計變更ヲ可決セリ

然ルニ近時繫船數及其喫水増加セルヲ以テ稅關棧橋ハ幅員ノ狹少水深ノ不足ニ制セラレ其ノ效用ヲ完ウシ難ク加フルニ經年ノ久シキ改築ノ必要ニ迫レリ之ニ反シ民間倉庫設備ハ著シク増加シ既定計畫ノ一部ヲ廢止スルモ貨物收容上差支ナク又起重機及輾軸ノ如キハ將來必要ニ應シ増設スルモ荷役上支障ナキヲ以テ倉庫二棟起重機十二臺輾軸十五臺ヲ廢止シ棧橋改築費ニ充當スルノ急務ナルヲ認メ同四十四年十一月第三回委員會ニ於テ其ノ計畫變更ヲ可決セリ勿論本棧橋ニ對シ大型船舶ニ必要ナル各種設備ヲ完全ナラシムルハ全部ノ改築補強ヲ要シ其ノ工費鉅額ニ上リ到底既定經費ノ殘餘ヲ以テ支辨シ得サルヲ以テ已ムヲ得ス

既成棧橋ハ單ニ普通修繕ノ程度ニ止メ橋上一部ニ旅客及貨物用上屋ヲ設ケ更ニ棧橋兩側ヲ擴張シテ比較的堅牢ノ構造ト爲シ水深ヲ増加シ巨船ノ繫留ニ適應セシメタリ

棧橋改築計畫ノ概要左ノ如シ

### 棧橋改築

繫船用棧橋ハ兩側水深ヲ干潮面以下三十五尺ニ浚深シ其ノ長ヲ二百二間ニ短縮シ兩側各幅六間半宛ヲ増シ全幅ヲ二十三間トシ外側橋面ハ鐵筋混凝土構造ト爲シ陸地聯絡用棧橋延長七十間ハ幅六十二呎半ト爲シ必要ノ位置ニ繫船柱及防舷工ヲ配置ス

### 上屋

棧橋上ニ幅十間長五十五間ノ木造上屋二棟ヲ建設シ其ノ一部長各二十五間ヲ二階建ト爲シ階下ヲ貨物置場ニ用ヒ階上ニ旅客用各種設備ヲ施シ前面ニ可動有蓋渡橋ヲ設ク

### 陸接部埋立

舊棧橋ノ陸接部長幅各三十六間及橫濱稅關監視部前面幅十二間餘ヲ埋立テ汽艇及舢船上陸場物揚場等ノ用ニ供ス其ノ埋立面積千九百五十坪トス

**道路及鐵道** 埋立地ニハ幅十二間ノ道路ヲ設ケ棧橋通路區域ニ於テハ全幅六十二呎半棧橋上屋兩側ニ於テハ幅各六間半ヲ車馬ノ通路ニ充テ棧橋西側ニハ鐵道二線ヲ敷設シ稅關構内鐵道ト聯絡ヲ保タシム  
爾來工事ヲ續行シ大正六年十一月第二期工事全部完成セリ其ノ計畫ノ沿革左ノ如シ

第二期海面埋立及陸上設備計畫ノ沿革

名	稱	當初計畫	第一次更正計畫 (四十二年)	第二次更正計畫 (四十五年)	竣功數量	備考
海面埋立	岸壁	三四二間	三四二〇		三四八〇間 <small>沿港延長</small>	
	干潮面以下水深二十八尺	一一四	一一四〇		一一四〇	
	同上二十四尺	一一六	一一六〇		一一二一	
	同上二十尺	四二	四二〇		三一	
	同上十六尺以下	一一〇	一〇七五		一七四〇	内新港橋接續道路護岸延長七十三間ヲ含ム

埋立	陸上設備	倉庫	鐵道上屋	木造上屋	煉瓦造倉庫	倉庫附屬棚架	倉庫内昇降機	同起重機	雜設備	事務所	構内水道	鐵道及附屬設備
二〇、七九七 <small>坪</small>	二〇、七九七 <small>坪</small>	三、〇九七 <small>坪</small>	一〇、七二〇 <small>坪</small>	二、〇一四 <small>坪</small>	三、〇九七 <small>坪</small>	四八一 <small>坪</small>	一〇 <small>坪</small>	一一	一一	三六〇 <small>坪</small>	一、六八〇 <small>坪</small>	
二〇、七九七 <small>坪</small>	二〇、七九七 <small>坪</small>	三、一〇一 <small>坪</small>	九、八二八 <small>坪</small>	二、八九六 <small>坪</small>	三、一〇一 <small>坪</small>	四六四 <small>坪</small>	九 <small>坪</small>	一一	一一	三四九 <small>坪</small>	二、五七八 <small>坪</small>	
		一、九二七 <small>坪</small>	九、八二八 <small>坪</small>	二、八九六 <small>坪</small>	一、九二七 <small>坪</small>	二八四 <small>坪</small>	五 <small>坪</small>	八	八	三四五 <small>坪</small>	二、五九〇 <small>坪</small>	
二一、五七七 <small>坪</small>	二一、五七七 <small>坪</small>	一、九二七 <small>坪</small>	九、八二八 <small>坪</small>	二、八九六 <small>坪</small>	一、九二七 <small>坪</small>	二八四 <small>坪</small>	五 <small>坪</small>	八	八	三二八 <small>坪</small>	二、五九〇 <small>坪</small>	

新港橋南北橋臺及接續道路敷七百七十七坪ニ含ム

發電所	起重機及附屬設備	弧光燈	構內下水	碎石及砂利敷	構內花崗石敷	砂利道路	碎石道路	敷石道路	道	計重機	轉車臺及遷車臺	起重機用鐵道	列車用鐵道
二六三	一	一六	一、九七四	一五、二八一	六、八一六	四二五	一、五四九	四二五	四	一〇八	八八	八八〇	八八〇
三〇〇・六二	一	三五	一、八〇〇	五、八八〇	四、一八〇	三二〇	九九五	四八三	四	一五	八〇	七四〇	七四〇
三〇〇・六二	一	三九	一、八〇〇	六、七二七	六、一〇九	二八六	九九一	四八三	六	一六	七八	七四七	七四七
三〇〇・六二	一	三九	一、六八四・七	六、七二六・五四	五、六六二・一四	三〇三・〇三	一、〇六〇・四四	四八一・九五	六	一六	七七・六七	七四二・八五	七四二・八五

〔内六十九間三三八新港  
橋接續道路トス〕

發電機	蓄電池	電氣配付線	五十噸電氣定置起重機	三十噸同上	二十噸同上	五噸電氣可動起重機	三噸同上	一噸半同上	堅軸轆轤	橋梁	公道橋	鐵道橋	曳船
一式	一式	三六〇〇	一	一	一	五	三	二	三	三	二	二	二
一式	一式	三六〇〇	一	一	一	八	三	二	三	三	二	二	二
一式	一式	三、八二〇	一	一	一	六	一	三	一	一	二	二	二
一式	一式	三、八〇四・五	一	一	一	六	一	三	一	一	二	二	二



名 稱	第十三議會(三十二年度)		第十六議會(三十五年度)		精 算 額
	豫算決定額	決算決定額	豫算決定額	決算決定額	
岸壁費	1,133,000.00	888,394.00	873,674.91	873,674.91	
埋立費	454,680.00	393,330.72	326,128.31	326,128.31	
橋梁費	-	62,794.00	57,319.08	57,319.08	
器械費	270,000.00	580,000.00	656,370.35	656,370.35	
雜工費	270,034.38	185,520.38	135,243.36	135,243.36	
事務費	117,876.00	235,551.92	250,955.62	250,955.62	
計	2,134,590.38	2,134,590.38	2,299,691.64	2,299,691.64	

備考 本表精算額ノ各年度別決算額ニ對シ金四千九百五拾七圓九拾錢貳厘ノ減差アルハ工事材料ノ使用殘品ヲ生シタルニ由ル此ノ殘品ハ第二期海面埋立工事ニ使用ノ際毛位四拾五入ノ結果金四千九百六拾貳圓四拾六錢七厘ト爲レリ

第二期海面埋立、陸上設備及棧橋改築費ニ關スル各年度別豫算、決算及橫濱市工費分擔額左ノ如シ

豫算年度割額表

名 稱	當初決定額		第三回改定額		第四回改定額		總費額
	海面埋立	陸上設備	海面埋立	陸上設備	海面埋立	陸上設備	
總費額	1,133,333.00	6,496,496.00	1,133,333.00	6,496,496.00	1,133,333.00	6,496,496.00	1,133,333.00
明治三十一年度	31,559.00	588,731.00	31,559.00	588,731.00	31,559.00	588,731.00	31,559.00
三十二年度	597,779.00	1,742,331.00	597,779.00	1,742,331.00	597,779.00	1,742,331.00	597,779.00
三十三年度	331,100.00	1,181,497.00	331,100.00	1,181,497.00	331,100.00	1,181,497.00	331,100.00
三十四年度	101,199.00	777,880.00	101,199.00	777,880.00	101,199.00	777,880.00	101,199.00
三十五年度	96,700.00	777,880.00	96,700.00	777,880.00	96,700.00	777,880.00	96,700.00
三十六年度	322,883.00	777,880.00	322,883.00	777,880.00	322,883.00	777,880.00	322,883.00
三十七年度	330,733.00	777,880.00	330,733.00	777,880.00	330,733.00	777,880.00	330,733.00
三十八年度	330,733.00	777,880.00	330,733.00	777,880.00	330,733.00	777,880.00	330,733.00
三十九年度	330,733.00	777,880.00	330,733.00	777,880.00	330,733.00	777,880.00	330,733.00
四十年度	330,733.00	777,880.00	330,733.00	777,880.00	330,733.00	777,880.00	330,733.00
大正元年度	330,733.00	777,880.00	330,733.00	777,880.00	330,733.00	777,880.00	330,733.00
二年同	330,733.00	777,880.00	330,733.00	777,880.00	330,733.00	777,880.00	330,733.00
三年同	330,733.00	777,880.00	330,733.00	777,880.00	330,733.00	777,880.00	330,733.00
四年同	330,733.00	777,880.00	330,733.00	777,880.00	330,733.00	777,880.00	330,733.00
五年同	330,733.00	777,880.00	330,733.00	777,880.00	330,733.00	777,880.00	330,733.00



計	第五回改定額			計
	海面埋立	陸上設備	棧橋改築	
事務費	六八、五〇〇	九八、七〇〇	七七、八五〇	六八、五〇〇
陸上設備	八、一八〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、三三九,〇七〇	八、一八〇,〇〇〇
海面埋立	一、三三〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	五九七,七五九	一、三三〇,〇〇〇
棧橋改築	一、三三〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	五九七,七五九	一、三三〇,〇〇〇
事務給費	一、三三〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	五九七,七五九	一、三三〇,〇〇〇
計	八、三三〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	八,三三〇,〇〇〇

備考 一、表中第一回及第二回改定ハ事業繰延ノ爲メ繼續年限各一箇年延長

シ總費額ニ増減ナキヲ以テ省略ス

二、第五回改定ハ大正二年度ヨリ大正四年度ニ至ル間事業繰延、經費節減ノ爲メ決算上不用額ニ立テタル金額拾九萬四千八百七拾參圓ニ相當スル額ヲ大正五年度ニ追加使用スルコト、ナリタルニ由リ總費額ニ變更ヲ來シタルモ實額ニ於テハ増減ナシ

橫濱市工費分擔額表

總費額	三十九年度	四十年年度	四十一年年度	四十二年年度	四十三年年度	四十四年度
二、七〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇

各年度別決算額表

科目	年度					
	明治三十九年度	同四十年年度	同四十一年年度	同四十二年年度	同四十三年年度	同四十四年度
海面埋立	一七二,四八三,七六三	三三八,四七〇,二九〇	三九〇,九四四,〇四〇	三二一,九二一,二〇〇	八五,二六九,七三〇	—
陸上設備	一九,三四三,三三〇	七五六,六三八,九六〇	一,三〇三,六九五,七一〇	九四二,七〇七,七六〇	七九八,二九〇,四一〇	四三八,六九七,二四〇
棧橋改築	—	—	—	—	—	—
事務費	四九,七四八,四二四	六三,七三一,一八〇	六三,九九三,三五〇	六五,一九四,〇九七	六四,六八二,六七〇	七〇,九九一,一九〇
計	三四一,五七四,四〇六	一,一三八,八四〇,四三〇	一,七七八,六三三,一〇〇	一,二二九,八三三,〇五七	九四八,二四三,八一〇	五〇九,六八六,四三〇
海面埋立	—	—	—	—	—	一,一八九〇,八九〇三
陸上設備	三一三,九七六,七三〇	三三三,一六四,五四〇	三四一,五九二,六〇〇	—	—	—
計	三一三,九七六,七三〇	三三三,一六四,五四〇	三四一,五九二,六〇〇	—	—	一,一八九〇,八九〇三

名	稱	第二十二議會豫算決 定額(三十九年度)	第二十六議會豫算改 定額(四十三年度)	第二十八議會豫算改 定額(四十五年度)	精 算 額
上屋	費	一,七七七,六五一〇〇〇	一,五八二,四五四,八二〇	一,四六七,八九六,〇〇〇	一,四五八,五四七,三九七
倉庫	費	一,七六七,六八〇,二〇〇	二,一七二,三四三,五六〇	一,〇七七,九三四,五二〇	一,〇〇一,四八二,二一一
起重機	費	一,〇七一,八一七,〇〇〇	一,〇一五,六九八,三二〇	八八七,四三三,三二〇	八五三,五〇三,一〇一
鐵道	費	三〇八,六〇二,〇〇〇	二二一,五六〇,〇〇〇	三五四,六三九,〇〇〇	二二〇,三六六,四五〇
道路	費	八二〇,五六六,〇〇〇	七〇八,四五〇,〇〇〇	六六六,三三二,〇〇〇	六〇八,一九四,五三四
雜設	費	一,一四一,九二〇,〇〇〇	九三,四二五,〇〇〇	二六二,七八〇,〇〇〇	三三九,三四七,一〇九
橋梁	費	九三,四〇〇,〇〇〇	一一七,〇〇〇,〇〇〇	一三〇,二五三,〇〇〇	一三二,三六六,四三八
曳船	費	二七五,〇〇〇,〇〇〇	九〇,〇〇〇,〇〇〇	一四一,二〇〇,〇〇〇	一六二,八一五,五〇〇
器械	費	二三八,五七八,〇〇〇	一四八,五五五,〇〇〇	八三,七六六,〇〇〇	七二,九三九,九三九
雜工	費	二二九,五三八,〇〇〇	二一九,五三八,〇〇〇	一七三,九〇六,一八〇	一四九,一五四,一七七
棧橋	費	—	—	一,一三七,五〇〇,〇〇〇	一,三二七,六二九,八一八
埋立	費	—	—	七六三,一四〇,〇〇〇	九四一,六六四,四三三
上屋	費	—	—	七四,九四二,〇〇〇	八七,九八四,五二七
上屋	費	—	—	一四八,二五〇,〇〇〇	一七五,六二七,九五二

各工種別豫算及精算額表

備考 大正六年度分ハ目下殘務整理中ナルヲ以テ多少ノ増減ヲ生スヘキ見込ナリ

名	稱	第二十二議會豫算決 定額(三十九年度)	第二十六議會豫算改 定額(四十三年度)	第二十八議會豫算改 定額(四十五年度)	精 算 額
海面	費	一,三三三,五三三,〇〇〇	一,三三四,九五八,〇〇〇	一,三三四,九五八,〇〇〇	一,一八六,三三六,三四九
岸壁	費	八五五,三三九,二〇〇	九一九,四六〇,六〇〇	八八二,六六〇,三三三	八三六,七七七,〇四五
埋立	費	一,四二二,五六二,四〇〇	一,〇六六,三五四,〇〇〇	一一八,七九三,三三三	一一八,七九三,三三三
器械	費	一〇九,七八二,〇〇〇	一一七,二九四,〇〇〇	一二四,四三三,八六九	一二四,四三三,八六九
雜工	費	一一五,九三九,四〇〇	九一,五七八,〇〇〇	一〇九,一〇三,八〇五	一〇六,三五二,一三三
陸上	費	六四六,七四九,七〇〇〇	六,三七九,〇四二,〇〇〇	五,一三九,〇四二,〇〇〇	四,九〇八,八一六,八四六

第二章 工事計畫工費豫算及決算

器械及雜費	四八八,九八〇,〇〇〇	五六六,〇〇〇,〇〇〇	一五二,一六八,〇〇〇	一三三,五二九,七
事務費	八,一八〇,〇〇〇,〇〇〇	八,一八〇,〇〇〇,〇〇〇	六六八,五〇〇,〇〇〇	七二五,二〇〇,〇〇〇
計	八,一八〇,〇〇〇,〇〇〇	八,一八〇,〇〇〇,〇〇〇	八,一八〇,〇〇〇,〇〇〇	八,一三七,九八三,〇一三

三四

備考 本表精算額ノ各年度別決算額ニ對シ金九千參百五圓六拾壹錢六厘ノ減差アルハ本工事材料ノ使用殘品代價壹萬四千貳百六拾八圓八錢參厘アルモ第一期埋立工事材料使用殘品代價四千九百六拾貳圓四拾六錢七厘ヲ包含セルヲ以テ差引前記ノ減差ヲ生セリ

今第一期第二期工事ヲ通計シ重要工事ノ竣功數量精算工費及單價ヲ掲クレハ左ノ如シ

名稱	金額	細目	數量	平均單價	工費
埋立費	四四四,九二一,六一五	埋立	六九七,三七七	六四九	四五二,五七五,九六五
		水深三十二尺岸壁	一三七〇〇	一,六八八,一二六	二四,三九三,〇〇九
		同二十八尺岸壁	六二七〇〇	一,四四八,八三四	九〇八,四一八,七〇六

名稱	金額	細目	數量	平均單價	工費
岸壁費	一,七〇三,一九〇〇	同二十四尺岸壁	一六五〇〇	一,一九五,四一〇	一,九七,二四三,六一三
		同二十尺岸壁	一八一〇	一,〇八九,一〇八	一,九七,三七七,五〇三
橋梁費	五七,三九〇,七八	萬國橋	一		四八,九八八,二六六
器械費	七八〇,八〇五,三三三	諸器械新調及修繕			七八〇,八〇五,三三三
雜工事費	二四一,五九四,四九六	工場設備其他			二一五,四〇〇,五八〇
海面埋立費小計	三,三三五,〇七三,三七一				三,三五七,三四八,七〇四
上屋費	一,四五八,五四七,三九七	木造上屋	二,八九六,〇〇〇	八八,一二五	二五五,一七九,六一一
		鐵造上屋	九,八三八,〇〇〇	一三,三四三	一,二〇三,三六七,七八六
倉庫費	一,〇〇一,四八二,二一一	同附屬設備	一,九二七,六三	四七八,〇三三	九二一,四四五,六四〇
		鋪石道	一,〇六〇,四四	三〇二,六三六	三三〇,九二七,七四六
		碎石道	四八一,九五	九〇,九一四	四三,八一五,九一六
		砂利道	三〇三,〇三	四二〇,五三	一二七,四二九,六八

第二章 工事計畫工費豫算及決算

三五

道路費			鐵道費			起重機費			橋梁費				
碎石敷	其他敷	渠	下水	起重機用鐵道	列車用鐵道	轉車臺其他	發電及蓄電裝置	發電線	電氣起重機	同	同	同	新
敷	敷	敷	敷	敷	敷	敷	敷	敷	敷	敷	敷	敷	敷
五,五三,五〇一	二,二七,三五	一,六八,四〇七	七,七,六七	七,七,六七	七,四〇,九一	三,〇〇,六三	三,八〇,四五	三,八〇,四五	八五,五〇,三一一	一,一	一,一	一,一	一,一
二,二七,三五	二,二七,三五	二,八八,五五	三,六七,三五	三,六七,三五	二,三三,一一	五〇,九〇,一四	二,四,二四五	二,四,二四五	一,三〇,七,三八六	一,三	一,三	一,三	一,三
一,二五,八三八	七,六七,三〇八	四,八六,一三五	二,八,五三,三〇四	一,六五,三〇,六四三	三,九四,七二,二二五	一,五三,〇一九,六六五	二,七〇,七六,九四〇	九,二,四〇,九〇〇	一〇,八,〇〇,三三〇	七,八,四二,三三三	一〇,九,三〇,一四三	四,一,九八,八八四	七,一,七三,五二七

曳船費			雜設備費			器械費			雜工事費			陸上設備小計			棧橋費			上屋費			
鐵道	船	橋	水	事務	所	萬國橋事務所其他	諸器械新調及修繕	工場設備其他	橋脚	上部	繫船部	水道	屋	橋	上部	渡橋及昇降臺	屋	橋	上部		
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
八,四〇,七七五〇	二,五九〇	二,五九〇	二,七〇,五二	二,七〇,五二	二,七〇,五二	二,七〇,五二	二,七〇,五二	二,七〇,五二	五,三八,一〇八	五,三八,一〇八	五,三八,一〇八	五,三八,一〇八	一,〇五,四,七三七	一,〇五,四,七三七	一,〇五,四,七三七	一,〇五,四,七三七	一,〇五,四,七三七	一,〇五,四,七三七	一,〇五,四,七三七	一,〇五,四,七三七	
一六,二,八五,五〇〇	一六,三,八二	一六,三,八二	一六,一,三三七	一六,一,三三七	一六,一,三三七	一六,一,三三七	一六,一,三三七	一六,一,三三七	四,八八,六四〇	四,八八,六四〇	四,八八,六四〇	四,八八,六四〇	四,八八,六四〇	四,八八,六四〇	四,八八,六四〇	四,八八,六四〇	四,八八,六四〇	四,八八,六四〇	四,八八,六四〇	四,八八,六四〇	四,八八,六四〇
一九,三〇,四七一九	四,二,四八,五九三	四,二,四八,五九三	一六,五,三七〇,〇〇	一六,五,三七〇,〇〇	一六,五,三七〇,〇〇	一六,五,三七〇,〇〇	一六,五,三七〇,〇〇	一六,五,三七〇,〇〇	五,六七,六三八	五,六七,六三八	五,六七,六三八	五,六七,六三八	五,六七,六三八	五,六七,六三八	五,六七,六三八	五,六七,六三八	五,六七,六三八	五,六七,六三八	五,六七,六三八	五,六七,六三八	五,六七,六三八

埋立費	八七、九四五七	埋	弧光燈及電線	一、九六〇、九五	二五、六〇、九九〇
		護岸石垣及浮棧橋	一、四七二	六五一〇	一三、七六一、八一三
器械及雜費	一三、三五三、九一七	道路及鐵道	八四三、四七	三八〇、四四七	六三、七四八、八九八
		諸器械新調修繕及工場設備	七四六	一、六四八	一〇、六一〇、六九五
棧橋改築小計	一、三三七、六三九、八一八				一三、二六〇、三八
合計	九、四七一、五一九〇、三五				一、三三七、六三九、八一八
					九、四七一、五一九〇、三五

備考 各細目工費精算ハ豫算科目ニ依ラス同一種類ノ工事ヲ彼是組換ヘタル結果各工種別精算ト符合セス  
 本表工費中ニハ再使用ノ物品推定價格ヲ含マス又器械費及雜工事費中ニハ器具機械船舶及工事用假設物ノ現存セルモノハ勿論賣却セシ分ノ原價ヲモ包含ス

明治三十二年第一期海面埋立工事起工ノ日ヨリ大正六年九月迄ニ於ケル歲入總額金拾參萬千拾壹圓拾壹錢壹厘ニシテ其ノ各年度歲入種別左ノ如シ

歲入種別年度別表

年種別	違約金	返納金	建下物	物下代	船下代	物下代	船下代	計
明治三十二年	一三、九六四			一九〇〇				一五、八六四
同三十三年	一五、七八八			二七七八				一八、〇五六
同三十四年	一、四〇一、四三二	四、一九七七		二九、八八〇				一、四七三、二八八
同三十五年	九七八、六一			一九六、七〇〇				一、一七五、三一一
同三十六年	一、〇六四、三六三			六三、二〇〇				一、一三、七五三
同三十七年				一八七、三七七				一八七、三七七
同三十八年	四三八、五〇〇			七、二八〇				五〇九、七八〇
小計	四、〇五五、六七七	四、一九七七		五七二、〇七五				四、六六九、七三九
同三十九年	一四、五六一九			一九三、九九九				三三、九六〇、八
同四十年	二八、五九五〇			一九四、〇一七				四七、九九九、七
同四十一年	四、三四七九〇			九四、〇二〇				一三、三八八、一〇
同四十二年	七、六五四〇			二〇〇、八〇四				二、一八七、三四四
同四十三年				八九五、〇六四				二、三〇〇、八四六

同四十四年度	九三九,七九〇					四,〇八四,〇四七
大正元年度	一,二〇五,六〇〇					三,五九一,四二二
同二年度	二八一,八八〇					二,九〇八,七三三
同三年度	一,〇四九,三五六					六,二八二,一八一
同四年度	二七七,六六三					三,二九九,四三五
同五年度	八〇,七九〇					四,二九四,三五三
同六年度						五八,三二四,六五六
小計	五,四九二,八三八					一三六,三四一,三八二
合計	九,五四八,五一五	四一九,七七九	九,〇五三,〇〇〇	八三,二六四,〇八三	三,九九四,七〇〇	五,四四五,九六二
		九,〇五三,〇〇〇	八三,二六四,〇八三	三,九九四,七〇〇	五,四四五,九六二	二,六九〇,七九九
			八三,二六四,〇八三	三,九九四,七〇〇	五,四四五,九六二	六,九〇,七九九
				三,九九四,七〇〇	五,四四五,九六二	一三,〇二二,一一一

備考 本表ノ外拂下手續未済ノ不用物品推定價格ハ概算金拾萬貳千貳百四圓八拾七錢五厘トス

横濱港維持費其ノ他ニ組替ヘ又ハ横濱税關ニ保管轉換ヲ爲スヘキ見込ノ工事用船舶器具機械及雜品ノ推定價格ハ概算金拾四萬七千百六拾五圓六拾參錢貳厘トス

明治三十二年年度以降大正六年度ニ涉リ第一期及第二期ヲ通シテ本工事施行ノ爲メ支出セシ(大正六年十月以降ノ分ハ見込額)工費總額金千四拾五萬千九百參拾八圓拾七錢五厘ニ達セリ然レトモ同期間機械船舶其ノ他ノ賣却代金、賃貨料、工事違約金等直接本工事ノ爲メ收入セシ臨時及經常歲入合計ハ金拾參萬千拾壹圓拾壹錢壹厘ニシテ外ニ拂下手續未済ノ不用物品及横濱税關其ノ他ニ保管轉換ヲ爲スヘキ機械船舶其ノ他ノ推定價格概算金貳拾五萬參千七百拾圓八拾九錢貳厘アルヲ以テ差引本工事精算額ハ金千六萬七千貳百拾六圓拾七錢貳厘トス

### 第三章 海面埋立

#### 第一節 埋立

埋立地ハ港内ニ一孤島ヲ形成シ其ノ高ハ朔望干潮面以上十二尺五寸ニ位シ施工區域海底ノ深ハ干潮面以下六尺乃至二十一尺平均約九尺八寸ニシテ總面積六萬九千七百餘坪ニ對シ埋立實積二十四萬九百餘坪ニ上リ本工事ヲ完成スル爲メ運搬セシ土量即チ船坪三十二萬千六百餘坪ニ達セリ

本工事ハ明治三十三年一月著手以來岸壁其ノ他ノ工事ト關聯シテ緩急ニ應シ幾多ノ區域ニ分割シ直管及請負ヲ以テ施行シ同四十四年三月全部完成セリ而シテ埋立地ノ下層ニハ主トシテ岸壁基礎床掘及港内浚渫ノ土砂ヲ利用シ上層ニハ多ク横濱市根岸附近ヨリ採掘セル土砂及土丹岩ヲ使用セシモ亦之ヲ混用セル場合尠カラズ埋立工事ニ要セシ總工費ハ金四拾五萬參千參百貳圓餘ニシテ埋立地面一坪ニ對シ平均金六圓五拾錢壹厘ニ相當シ其ノ立積一坪ニ對スル工費ハ平均金

壹圓八拾八錢壹厘トス其ノ内譯左ノ如シ

#### 埋立工事費

種別	第一期 <small>自明治三十三年一月至三十八年三月</small>	第二期 <small>自明治三十九年七月至四十四年三月</small>	計	總工費	面積及實積一坪當リ平均工費
埋立面積	四八、一五〇〇〇	二一、五七七七〇	六九、七二七七〇	四五三、三〇二、一九五	六五〇二
運搬土量	二三四、六五三三〇	八七、〇三三〇一	三三一、六八六三二	七三六、三三〇	一九三三
埋立實積	一七三、〇一七三七	六七、九三二七九	二四〇、九四〇、一六	內 一四一、二六九三三二	一八八一
直管ノ分	六四、九四六九五	五〇、六〇一七九	一一五、五四八七四	內 七三六、三三〇	一三三三
請負ノ分	一〇八、〇七〇四三	一七三、三一一〇〇	二八一、四四一、四三	三二二、〇三二、八六三	二四八八

備考 工費欄内内書ハ再使用ニ係ル物品ノ推定價格ナリ(以下倣之)

#### 第二節 岸壁及物揚場

##### 第一款 岸壁

岸壁ハ航洋船舶ノ用ニ供スル繫船岸擁壁ニシテ頂點ハ埋立地面ト相均シク朔望干潮面以上十二尺五寸ニ位シ其ノ水深ハ護岸石垣接續部分ヲ除クノ外干潮面以下二十尺乃至三十二尺ト爲シ大小各種船舶ノ繫留ニ適セシム其ノ總延長千百三

十一間二分ニシテ水深別内譯ヲ掲クレハ左ノ如シ

水深別繫船岸壁延長及繫船數表

水 深 別	第一期工事		第二期工事		合		繫留シ得 ヘキ船型	繫留シ得 ヘキ船數
	總延長	有效延長	總延長	有效延長	總延長	有效延長		
三十二尺岸壁	一三七	一〇七	—	—	一三七	一〇七	天洋丸型	一
二十八尺岸壁	二七九	三三九	三三八	—	六三七	五三七	加茂丸型	六
二十四尺岸壁	五二	四六	二四	—	一六五	一六〇	八幡丸型	三
二十尺岸壁	—	—	—	—	—	—	博愛丸型	三
十六尺以下岸壁	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	五二七	四四五	六四二	五〇六	一、一三三	九五二	—	一三隻

岸壁ノ構造ハ頂點笠石ヨリ干潮面以上約二尺迄ハ外面切石積内部場所詰混凝土ノ壁ニシテ其ノ以下水中ノ部分ハ基礎斜面上ニ重量十噸半及十三噸七分ノ混凝土方塊ヲ水深ニ應シ二列數層ニ積疊シ岩盤ヲ利用セシ區域ハ方塊一列ヲ沈置シ背部岩盤トノ間ニ水中混凝土ヲ施シ又ハ幅六尺ノ場所詰混凝土ヲ岩盤前面ニ施

行シテ高四尺若ハ八尺ノ岸壁實體ヲ形成セシム岸壁外面ハ二十分ノ一ノ勾配ヲ保タシメ最下層方塊及場所詰混凝土壁體ノミハ特ニ其ノ位置ヲ進メ又ハ其ノ勾配ヲ變シ壁脚ヲ一尺前進セシメ岸壁裏ニハ割栗石ヲ填充シ埋立地隅角ヲ除クノ外延長六間毎ニ區劃ヲ設ケ隣區ト全ク絶縁セシメタリ而シテ岸壁基礎ノ大部分ハ土丹岩盤ヲ利用シ碎岩、浚深ノ後場所詰又ハ袋詰混凝土ヲ施行シ其ノ一部延長九十四間ハ海底泥土深キヲ以テ捨石堤上ニ袋詰混凝土ヲ重ネ岸壁基礎ヲ設ケタリ本工事ニ於ケル袋詰及水中混凝土ハ潜水夫ヲ使用セシモ場所詰混凝土ハ可動潜水函内ニ於テ施行シ工事ノ安全ト精確トヲ期シタリ

本工事ハ明治三十三年十一月碎岩、浚深ニ著手シ順次基礎工事ヲ進メ方塊ヲ沈積シ上部石積及繫船諸設備ヲ施シ同三十八年十一月第一期工事ヲ竣功シ同三十九年六月更ニ第二期工事ニ著手シ同四十四年三月全部完成セルモノニシテ上部石積其ノ他一部ヲ除クノ外直營ニ依リ施工セリ之ニ要シタル總工費金百五拾八萬貳千七百五拾參圓六拾八錢壹厘ニシテ其ノ内譯左ノ如シ

岸壁工事費



種別	第一期工事	第二期工事	合計	摘要
基礎並外部浚渫費	五三、五〇、九三五	二一、六四一、二二一	七五、一四二、一五六	一期自明治三十三年十一月至同三十八年九月 二期自明治三十九年六月至同四十四年三月
基礎砕岩費	一五、一〇三、四七四	七、五六四、七三三	二二、六六八、二〇六	一期自明治三十四年六月至同三十七年九月 二期自明治三十九年六月至同四十四年三月
基礎工事費	一四、八三三、二二一	一三六、九九二、六八八	一五一、八二五、九〇九	一期自明治三十五年五月至同三十八年七月 二期自明治三十九年十月至同四十二年八月
方塊沈積工事費	四〇、六、五七〇、一三四	内 四、四四、五二五、〇〇八 三、七七三、七三三	八七、〇九五、一四三	一期自明治三十五年八月至同三十八年九月 二期自明治三十九年三月至同四十四年三月
上部工事費	一三、三、六三、七三三	内 一、八〇、七五七、七三三 六、四四〇、八七三	三〇、四、三九五、四四六	一期自明治三十九年七月至同四十四年三月 二期自明治四十四年三月至同四十四年三月
曳船用汽艇費	一四、八、一三、一四六	一、七、六四、七九六	一六、五七、九四二	工 事 期 間 中
合計	七五、九、〇七、五三三	内 八、三三、二四六、一六八 一、〇、一、七六、一六八	一、五八、二、七五三、六八一	

今岸壁築造ニ直接使用セシ工費ヲ綜合シテ各種岸壁ノ沿海延長ニ割當テ其ノ一  
間ニ要セシ工費ヲ示セハ左ノ如シ

岸壁一間當リ工費

種別	延長	基礎工事	方塊沈積工事	上部工事	合計	基礎並外部浚渫砕岩工事
三十二尺岸壁	一、二七〇	三、八六一、七七七	八七〇、四一〇	二、七五四、七三三	一、五三三、〇五九	一、五、六、二四九

種別	延長	基礎工事	方塊沈積工事	上部工事	合計	基礎並外部浚渫砕岩工事
二十八尺岸壁	六二・〇	二、七九三、三七	七九二、五六八	二、六八一、二三	一、三三九、九一八	八、五、四、七五
甲種	一、五六〇	一、八六三、九八	八三三、六六九	二、四六二、六四	一、二五六、三三一	一、三〇、七八六
乙種	九〇・〇	一、八七九、七七	七五九、九六八	二、四八五、六七	一、一九六、五二二	一一、一、八六
丙種	六九〇	一、五〇九、九五	九八〇、七六三	二、八四〇、一〇	一、四一五、七六八	二、九、七、四四
丁種	二、六四〇	三、七一一、二一	七二〇、三七〇	二、八六一、八六	一、三六七、八六七	六〇、六、九〇
戊種	四二〇	四、五一、五四七	九五四、三九八	二、五、四、四一	一、六五七、三八六	一、四、六、五六五
己種	六〇	一、五〇九、九五	四、四一三、六五六	二、八四〇、七一	四、八四八、七三二	二、九、七、四四
二十四尺岸壁	一、六五〇	一、二四七、六〇	七、三五三、八〇	二、七九三、九五	一、二、九、五、三五	七、三、一、六〇
甲種	一、二四〇	一、〇八八、五四	七、四九三、二七	二、八六九、〇三	一、一、四、五、〇八三	五、四、五、九四
乙種	五・〇	一、六〇三、三四	六、七二八、五三	二、六三六、一五	一、〇、九、四、七八一	一一、四、六、六一
二十尺岸壁	一、八一	一、八三三、八三	五、九三七、七五	二、六三六、〇	一、〇、三、七、四、五八	六、四、九、七〇
十六尺以下岸壁	三・二	一、八七九、三九	四、七一九、三一	二、五〇〇、三	九〇、九、八、六三	二、九、九、〇七

備考 二十八尺岸壁己種ハ五十噸定置起重機基礎ニ該當シ特殊ノ工事ヲ施  
セシヲ以テ其ノ延長及工費ヲ除キ二十八尺岸壁平均工費ヲ算出セリ

(一) 基礎碎岩及浚渫 岸壁施工區域ノ水深ハ七尺乃至二十一尺ニシテ海底ハ沖積層、洪積層、第三紀層逐次不整合的ニ下層ヲ被覆シ或ハ洪積層ヲ缺キ或ハ沖積層、洪積層共ニ之ヲ缺キ直ニ第三紀層ヲ露出セルモノアリ第三紀層ハ砂質凝灰岩(土丹岩)ニシテ三寸乃至五尺ニ達スル厚不定ノ層ヲ爲シ各層ノ間隔ニハ厚五分乃至三尺ノ砂ヲ挟ミタリ故ニ基礎工法ニ應シ岸壁法線ニ沿ヒ内側幅約五間外側幅約十四間ノ範圍内ニ於テ其ノ幅ヲ定メ浚渫碎岩交互ニ施工シテ豫定ノ岸壁水深ニ達セシメタリ

浚渫工事ニハ主トシテぶりすとまん式D型浚渫機四臺ヲ使用シ一部ハ鋤籬式浚渫船椿號ヲ用ヒ碎岩工事ニハるぶにっつ式十噸碎岩機二臺ヲ使用セリ又岸壁前面基礎ニ接續セル一部ハ潛水夫ヲ用ヒ或ハ潛水函内ニ於テ特ニ掘鑿地均シヲ施工セシモノアリ此ノ浚渫總量三萬七千五百九十一立坪ニシテ立一坪ノ平均工費ハ金貳圓壹厘ニ相當シ碎岩總量ハ浚渫ノ速成ヲ期スル爲メ各層重複碎岩ノ結果四萬二千百三十三坪ニ達シ一立坪ノ平均工費金五拾參錢八厘ニ過キササルモ區域内實積ニ割當レハ立一坪平均金壹圓貳錢壹厘ニ相當ス

## (二) 岸壁基礎

海底岩盤上ノ基礎ハ碎岩浚渫ノ後其ノ不陸ヲ均シ厚一尺乃至二尺ノ場所詰混凝土或ハ袋詰混凝土ヲ以テ規定ノ斜平面ヲ設ケタリ又背部岩盤ヲ利用シ潛水函内ニ於テ場所詰混凝土ヲ施シ或ハ方塊一列一層若ハ二層ヲ沈置シ岸壁實體ヲ構成セシ區域ハ更ニ其ノ上面ニ倣ヒ後方岩盤ヲ鑿平シ小段ヲ造リ袋詰混凝土ヲ敷キ前後ヲ通シテ幅十五尺ノ斜平面ト爲シ方塊二列ヲ沈置シ得ヘキ基礎ヲ造レリ而シテ此ノ岩盤利用ノ高ハ其ノ實質ト地形ニ應シ適宜之ヲ取捨シ一定セスト雖水深三十二尺壁二十四尺壁及二十尺壁ハ高四尺水深二十八尺壁ハ高八尺ト爲セシモノ多シ又岩盤ノ位置深ク基礎ニ利用シ能ハサル區域ハ泥土浚渫後馬踏幅三十九尺ノ捨石堤ヲ設ケ充分沈壓セシメタル後袋詰混凝土ヲ敷キ基礎斜平面ヲ造レリ而シテ各基礎面ハ埋立地各隅角ハ水平ト爲セシモ其ノ他ハ總テ一ニ對スル、二十ノ勾配ヲ以テ背後ニ傾ケル斜平面ト爲シ各基礎混凝土ノ配合ハ全部せめんと一、川砂二、砂利四トセリ

本工事ノ内延長七百四十三間ハ潛水函ニ依リ延長三百八十八間二分ハ潛水夫ヲ用ヒ施工セリ其工種及施行法區分左ノ如シ

基礎工種區分表

區別	岸三十二尺壁	岸二十八尺壁	岸二十四尺壁	二十尺岸壁	岸十六尺以下壁	計
潛水面内施工場所詰混凝土基礎	一二七	四九五	一一四	七〇	七四三	一二七
岩盤上袋詰混凝土基礎		九〇	五一	一一四	二八六	二八六
捨石基礎		四二		五〇	九二〇	九二〇
直接岩盤ヲ利用セルモノ				一〇〇	一〇〇	一〇〇
合計	一二七	六二七	一六五	一八一	一一三一	一一三一

基礎施行法區分表

區別	潛水面内施工		潛水面外施工	
	場所詰混凝土	岸壁實體	岸壁外掘鑿	袋詰混凝土
三十二尺岸壁	厚幅 二八尺	厚幅 二八尺	深幅 三間 四尺半	幅六尺一層 高四尺乃至八尺
二十八尺岸壁甲種	厚幅 一十尺	厚幅 一十尺	深幅 二二尺間	幅六尺一層 高四尺乃至八尺
乙種			幅十尺一層	幅六尺一層 高四尺乃至八尺

區別	潛水面内施工		潛水面外施工	
	場所詰混凝土	岸壁實體	岸壁外掘鑿	袋詰混凝土
同 丙種	厚幅 一十尺	厚幅 一十尺	深幅 二二尺間	幅十尺一層
同 丁種	厚幅 一七尺	厚幅 一七尺	深幅 二二尺間	幅十尺一層
同 戊種	厚幅 一十尺	厚幅 一十尺	深幅 二二尺間	幅十尺一層
同 乙種	厚幅 一十尺	厚幅 一十尺	深幅 二二尺間	幅十尺一層
同 甲種	厚幅 一十尺	厚幅 一十尺	深幅 二二尺間	幅十尺一層
同 丙種	厚幅 一十尺	厚幅 一十尺	深幅 二二尺間	幅十尺一層

備考 二十八尺岸壁戊種基礎捨石堤ハ馬踏幅三十九尺高七尺外法二割内法

一割五分ニシテ岸壁基礎ノ外更ニ其ノ前面幅九尺ノ部分ニ袋詰混凝土ヲ施シ又二十尺岸壁ノ一部ハ岩盤位置下降セルヲ以テ其ノ表面ヲ階段状ニ掘鑿シ上幅三十二尺ノ捨石堤上ニ直接方塊ヲ据付タリ

(三) 混凝土方塊 方塊製造場ハ起工當時長住町ニ假工場ヲ設ケシカ明治三十四年四月埋立地内ニ移シ規模ヲ擴張シ同三十八年十月第一期工事完成ト共ニ其ノ設備ノ大部ヲ撤去セリ後同三十九年四月更ニ擴築改造ヲ加ヘ第二期工事及水

堤修築工事ニ使用シ大正二年十月全部撤廢セリ本工場ニ於テハ容積半立方碼め  
 っせんと式混合機ヲ用ヒ方塊及各工事用混凝土ヲ混和シ特ニ現場調合ヲ要スル  
 工事ノミ人力混合ノ方法ニ依レリ  
 方塊製造ハ明治三十三年六月護岸用方塊ヨリ著手シ同三十八年七月第一期工事  
 用ノ分ヲ了リ更ニ同三十九年十一月第二期工事用方塊ノ製造ヲ開始シ同四十三年  
 七月全部ノ製造ヲ終了セリ今護岸用其ノ他ヲ除キ岸壁ノミニ使用セシモノ、  
 種別個數工費等ヲ掲クレハ左ノ如シ

岸壁用混凝土方塊種別表

種類	形状寸法(尺)			一個ノ容積	製造個數		一個當平均工費	摘要
	長	幅	高		第一期工事	第二期工事		
甲號塊	八九六	五九六	四〇	二〇・四	一九二七	一、二八八	三、五五	岸壁用
乙號塊	七二六	五〇〇	四五	一六・一五八	三、六五三	四、〇五三	七、七〇六	
特種塊				平均 一五八・五四	四七	一三三	一六九	岸壁用
石張塊	七二六	五〇〇	四五	平均 一五八・五四	四〇八	四七〇	一六九	
計								
丁號塊	一四七	一三〇	一三	二・二六	一〇、六三四	二、五五三	三、一八六	岸壁上部工事用

石張特種塊

計	形状寸法(尺)			一個ノ容積	製造個數		一個當平均工費	摘要
	長	幅	高		第一期工事	第二期工事		
計								
丁號塊	一四七	一三〇	一三	二・二六	一〇、六三四	二、五五三	三、一八六	岸壁上部工事用

せめんとハ淺野せめんと會社製品ヲ用キ砂ハ粒徑平均五厘ノ荒目砂、砂利ハ粒徑  
 二分以上一寸七分以下ノ川砂利ニシテ重ニ多摩川筋ヨリ採取セルモノヲ使用シ  
 混凝土ノ水量ハ砂利ノ量ニ對シ百分ノ九乃至十一ト爲セリ  
 方塊ニ使用セシ混凝土ハ總テせめんと八十封度約一立方尺川砂二立方尺砂利五  
 立方尺ノ配合トシ平均六寸ノ層毎ニ型詰搗固メヲ爲シ製造後一週間ヲ經テ側板  
 ヲ解放シ三週間ヲ經テ貯積場ニ轉置シ二箇月ヲ經過シタル後海中ニ沈下セリ又  
 石張方塊ハ其ノ側面ニ相州堅石ヲ張詰メ石材据付後水量ヲ一割五分トシ練込法  
 ニ依リ混凝土ヲ填充シ丁號塊ハ岸壁用型枠又ハ切石代用トシテ使用シ型詰ハ總  
 テ練込法ニ依レリ

方塊ノ搬出ハ方塊製造及貯積場ニ敷設セル軌間十三尺ノ軌道上ニ進退スル二十  
 噸手動起重機ニ依リ軌間三呎六吋方塊送出線上ノ運搬車ニ移シ小機關車ニテ海

岸ニ搬出シ二十噸汽力定置起重機ヲ以テ運搬船ニ積卸ヲ爲セリ此ノ搬出ニ要セシ一個當平均工費金九拾參錢四厘ニ相當ス

(四)方塊沈積 竣功セシ基礎斜面上ニハ水深ニ應シ二列數層ノ方塊ヲ積疊シ朔望干潮面以上二尺ニ達セシメ背部岩盤ヲ利用シ基礎小段ヲ設ケシ區域ハ小段以下前面ニ方塊一列ヲ沈置セリ又岸壁外面ハ一般ニ二十ニ對スル一ノ勾配ヲ付シ埋立地各隅角ノミハ各層所定ノ小段ヲ存シテ水平ニ積上ケタリ此ノ岸壁用方塊ハ上部四層水深十六尺マテ重量十噸七分(乙號塊其ノ以下重量十三噸半(甲號塊)ニシテ最下層ニハ特殊基礎ノ外異形塊ヲ用ヒ最上層前面ハ石張塊ヲ用ヒ各方塊ノ積疊ニハ二十噸浮裝起重機ヲ使用セリ又岸壁ハ延長六間毎ニ設ケタル區劃線ヲ除キ各塊間隙ニせめんとして一川砂二ノ膠泥ヲ填充シ岸壁裏ニハ幅三尺乃至七尺一割法ノ割栗石裏詰ヲ施セリ

方塊配列區分表

區別	三十二尺岸壁	二十八尺岸壁 甲種及乙種	二十八尺岸壁 丙種及戊種	二十八尺岸壁 丁種	二十四尺岸壁 甲種及乙種	二十尺岸壁
第一層 水深二尺五寸	乙號塊二列 幅三尺三寸四分	乙號塊二列 幅三尺三寸四分	同	同	同	同
第二層 水深七尺	乙號塊二列 幅三尺三寸四分	同	同	同	同	同
第三層 水深十二尺五寸	乙號塊二列 幅三尺三寸四分	同	同	同	同	同
第四層 水深十六尺	乙號塊二列 幅三尺三寸四分	同	同	同	同	同
第五層 水深二十尺	甲號塊二列 幅十五尺	同	同	同	同	同
第六層 水深二十四尺	甲號塊二列 幅十五尺	同	同	同	同	同
第七層 水深二十八尺	甲號塊二列 幅十五尺	同	同	同	同	同
備考	背部岩盤ヲ利用スルモノハ第七層ノ幅九尺又ハ十五尺トス	背部岩盤高八尺ヲ利用スルモノハ第六層ノ幅九尺トス	丙種基礎ニ於テ岩盤ヲ利用スルモノハ第七層ノ幅十五尺トス	甲種基礎ニ接續スル箇所ハ第六層ヲ置ク	背部岩盤高八尺ヲ利用スルモノハ第五層ノ幅九尺トス	背部岩盤ヲ利用スルモノハ第五層ノ幅九尺トス

(五)上部工事 朔望干潮面以上二尺ヨリ同十二尺五寸ニ達スル岸壁上部ハ外

側ニ厚一尺三寸七層ノ相州産堅石ヲ積ミ二十ニ對スル一ノ勾配ヲ保タシメ内部ハ配合せめんと一川砂二、砂利五ノ場所詰混泥土ヲ施シ其ノ頂點ニ厚一尺五寸笠石ヲ据付ケ六間毎ニ區劃シテ一體ト爲シ裏詰トシテ上幅三尺乃至四尺ニ割栗石

ヲ填充シ突堤頭部ニハ各一個ノ階段ヲ設ケタリ而シテ此ノ上部壁ノ内埋立地右半部第一期施行ノ分及其ノ接續部ハ壁内ニ暗渠ヲ設ケ壁厚ハ三十二尺壁十二尺三寸其ノ他十尺二寸ト爲シ埋立地左半部ハ暗渠ヲ設ケス壁厚ハ二十八尺壁及二十四尺壁九尺四寸其ノ他八尺二寸トシ繫船曲柱取付區域以外ハ小段ヲ設ケ上部四尺八寸ハ其ノ厚ヲ五尺八寸ニ縮少シ背部ハ全部直立ト爲セリ

繫船用設備ハ繫留スヘキ航洋船舶ノ位置ニ應シ繫船柱五十一個繫船曲柱五十二個防舷工五十二個ヲ配備セリ繫船柱ハ鑄鐵製圓柱ニシテ岸壁ヨリ約二十一尺ヲ距テ、埋立地上三尺高ニ建設シ繫船曲柱ハ束子形ニシテ岸壁笠石上一呎八吋高ニ据付ケ防舷工ハ長十二尺十八尺三十六尺及岸壁隅角ニ折廻シタル四種ニシテ防腐劑注入松材或ハ濠洲産れどたーぺんたいんヲ用キ押尺角ノ縱橫材ヲ岸壁ニ定着セシメタリ又舢船繫留用トシテ適當ノ距離ニ繫船環ヲ配置シ必要ノ場所ニハ昇降用鐵梯子ヲ設ケタリ

### 第二款 物揚場及護岸石垣

左突堤起點ノ左右並海岸通り舢溜ニ面セル區域ニハ物揚場護岸石垣及階段ヲ設ケ舢船ノ荷役用ニ供ス其ノ總延長五百二十六間三分ニシテ内譯左ノ如シ

物揚場其ノ他内譯

種別	第一期工事	第二期工事	計	工	費	延長 平均 工費
物揚場	一五六間	九五間	二五五間	内	六、九、五〇、一七	二〇、三五、八
護岸石垣	二九八	一四〇	四三八	内	九、三、六、三三	三、三四、六〇、三
階段	二〇〇	一一〇	三一〇	内	一、一〇、七、七二	四、二、九、二、六、七
合計	二九六三	三三〇〇	五、二六三	内	一、六〇、四、〇、五、九	

備考 第二期工事物揚場ノ内四十五間ハ第一期工事護岸石垣ヲ物揚場ニ改築セルモノナリ

物揚場ノ水深ハ朔望干潮面以下五尺乃至八尺五寸ニシテ海底岩盤上ニ袋詰混凝土ヲ敷キ又ハ捨石堤ヲ基礎トシ方塊二段ヲ積疊シ面一尺五寸控二尺五寸ノ間知石ヲ以テ五層布積ノ石垣ヲ築キ干潮面以上七尺五寸ノ點ニ於テ屈折シテ幅二十

五尺勾配五ニ對スル一ノ緩斜面ヲ造リ面一尺五寸控一尺ノ龜腹石ヲ用ヒ張石ヲ施シ龜腹中央線ニ沿ヒ繫船石柱ヲ配置セリ  
護岸石垣ハ海底岩盤又ハ捨石堤ヲ基礎トシ方塊二層或ハ三層ヲ積疊シ面一尺五寸控二尺乃至二尺五寸ノ間知石ヲ以テ八段布積ト爲シ頂端ニ均石ヲ置キ其ノ高ヲ干潮面以上十二尺五寸ニ達セシム  
本工事ハ明治三十三年六月起工同三十八年十一月第一期工事ヲ竣リ更ニ同三十九年六月第二期工事ニ著手シ同四十四年三月全部完成セリ

### 第三節 橋 梁

埋立地ヨリ横濱市内ニ聯絡スル爲メ二個ノ公道橋ヲ架設セリ一ハ馬車道通りニ直通スル道路ニ架シ萬國橋ト稱シ他ハ税關構内ヲ經テ山下町方面ニ通シ新港橋ト稱ス又新港橋ニ並列シテ棧橋ニ通スル單線鐵道橋ヲ架設ス

#### 第一款 萬國橋

埋立地及新波止場ヨリ各五間ヲ埋立テ水路幅百十五尺ヲ隔テ、二個ノ橋臺ヲ築造シ鋼製桁構ヲ架設セリ其全長百二十呎全幅四十二呎ニシテ中央二十四呎ヲ車道トシ左右各六呎ヲ歩道ニ充テ水面上橋梁ノ高ハ其ノ橫梁最下端ニ於テ朔望干潮面以上十六尺五寸トシ橋下船舶ノ通行ニ不便ナカラシム  
橋臺ハ海底土丹岩盤上ニ袋詰混凝土ヲ敷キ混凝土方塊二段ヲ積疊シ左右翼壁ハ捨石基礎上ニ方塊一段ヲ置キ其ノ上部共通ニ高三尺五寸混凝土壁及高十三尺煉瓦壁ヲ設ケ桁受石、隅石、均石等ハ花崗石ヲ使用セリ橋臺ハ長五十七尺底幅十五尺上幅四尺二寸翼壁ハ底幅九尺上幅二尺五寸トス  
桁構ハばらばら<sup>く</sup>ばうすと<sup>り</sup>んぐ形ニシテ栓釦取付ト爲シ環頭釦ヲ用ヒス徑間百二十呎ヲ十分格ニ分テ兩桁構中心間隔ハ二十六呎六吋中央ニ於ケル桁構ノ高ハ十二呎下弦材ノ反リハ二吋トス而シテ構造設計ニ使用セシ活荷重ハ車道每平方呎百封度人道每平方呎八十封度トシ集合荷重ハ六呎間隔ノ車軸上ニ在ル一萬封度局部荷重ハ三呎直徑ノ十噸修路機ト假想シ風壓ハ露出面一平方呎ニ付四十封度ト推定シ死荷重ハ上部分格點二千八百五十封度下部分格點二萬六千封度ト

シ桁構各部ノ寸法ヲ定メ正確ニ加工構成セシメタリ  
橋上路面ハ車道ニ於テハ幅ノ中心線ヨリ左右ニ各六十分ノ一ノ勾配ヲ付シ厚五  
吋花崗石敷ト爲シ歩道敷板ハ檜材厚二吋及三吋ノ二重板張ト爲シ内側ニ向テ一  
吋ノ勾配ヲ付シタリ

本工事ハ明治三十五年二月著手シ同三十七年三月竣功セリ其ノ總工費金四萬八  
千九百八拾八圓貳拾六錢六厘ニシテ内橋臺及翼壁金壹萬九千九拾壹圓貳拾五錢  
壹厘桁構製作及架渡金貳萬貳千貳百七拾七圓六拾錢路面築造其ノ他金七千六百  
拾九圓四拾壹錢五厘トス

### 第二款 新港橋及鐵道橋

埋立地ヨリ約七間稅關側ヨリ約三間半ヲ埋立テ水路幅九十五尺五寸ヲ隔テ、二  
個ノ橋臺ヲ築造シ公道用及鐵道用鋼製桁構ヲ竝架ス公道橋ハ全長百呎幅員車道  
三十二呎左右歩道各六呎トシ鐵道橋ハ全長百呎幅員十五呎六吋トシ鐵道單線ヲ  
通セシム又水面上橋梁ノ高ハ公道橋中央牀梁最下端ニ於テ朔望干潮面以上十六

尺六寸五分鐵道橋同十六尺七寸六分トシ橋下船舶ノ通行ニ不便ナカラシム  
橋臺及翼壁ハ締切工事ヲ施シ排水後海底土丹岩盤ヲ基礎トシ表面ニ相州堅石ヲ  
積ミ内部ニ場所詰混凝土ヲ施シ朔望干潮面以下一尺ニ達セシメ其ノ上部ハ煉瓦  
積ト爲シ隅石桁受石及均石ニハ花崗石ヲ使用セリ橋臺ハ長八十一尺八寸底幅十  
一尺上幅四尺六寸翼壁ハ底幅十尺上幅二尺二寸乃至三尺トス  
公道橋桁構ハべちと式ヲ用ヒ徑間百呎ヲ六分シ更ニ各分格ヲ長八呎四吋ノ二  
小分格ニ分テ桁構取付ハ全部鉄綴ニシテ兩桁構中心距離ハ三十四呎二吋桁構高  
ハ中央ニ於テ二十四呎下弦材ノ高度ハ桁構中央ニ於テ兩端ヨリ十二吋ヲ高メタ  
リ又各部構造設計ニ使用セシ活荷重ハ車道每平方呎百封度歩道同八十封度ノ等  
布荷重トシ車道ニ在リテハ前後車軸間隔十三呎重量十五噸ノ汽力修路機ヲ任意  
ノ位置ニ載荷シ得ルモノト爲シ死荷重ハ桁構上弦材各分格點ニ於テ七千八百封  
度下弦材各分格點中副縱材ノ下端ニ於テ三萬三千三百封度其ノ他ハ四萬千封  
度トシ風壓ハ橋梁延長一呎ニ付四百五十封度ト假定シ桁構ノ上部上弦材ニハ對  
風綾構材竝橋門構ヲ設ケテ抗風及橫剛性ヲ添加セシメタリ



車道ハ左右各六十分ノ一ノ勾配ト爲シ厚四寸花崗石鋪石ヲ据付ケ步道敷板ハ枿材厚三吋半及二吋ノ二重板張ト爲シ内側ニ向ヒテ六十分ノ一ノ勾配ヲ付シタリ鐵道橋桁構ハわいれん式ヲ用ヒ形狀ハ隣接セル公道橋桁構ニ準シ徑間百呎ヲ六分格ト爲シ更ニ各下弦分格間ヲ二分シテ十二小分格トシ縦材及吊材ヲ設ケ牀梁ヲ取付ケタリ桁構牀材及對風綾構ハ總テ鋸綴ニシテ兩桁構中心距離ハ十五呎六吋桁構高ハ中央ニ於テ十呎七吋四分ノ一下弦材ノ高度ハ桁構中央ニ於テ其ノ兩端ヨリ九吋ヲ高メ又各牀梁ノ間隔ハ八呎四吋トシ其ノ間ニ各五呎ヲ隔テ、縦梁二列ヲ配置シ軌道ヲ支持セシム

軌道ハ鐵道建設規程ニ準據シ各分格ニ六本宛ノ枕木ヲ縦梁上ニ配列シ軌間三呎六吋ノ軌條ヲ敷設シ軌條内側ニハ護輪用軌條外側ニハ護輪木材ヲ取付ケ兩護輪木材間ハ敷板ヲ張詰メタリ

各部構造設計ニ使用セシ死荷重ハ橋梁長每呎千七百六十五封度トシ活荷重ハ主トシテ八十八噸こんそりてしよんゑんじん二臺並其ノ後尾ニ等布荷重每呎一噸二五ヲ連結セルモノト假定セシカ局部ニ對シテハ車軸間隔六呎全重量七萬封

度ノ四輪車輛ヲ假想シ應力ヲ比較シ其ノ大ナルヲ用ヒタリ而シテ橫荷重ハ幹桁構上弦各材上每呎二百封度ノ外橋梁上ニ載荷シ得ヘキ前記最大活荷重ノ二十分ノ一及下弦各材上每二百封度ノ外橋梁上ニ載荷シ得ヘキ最大活荷重十分ノ一ヲ假想セリ

本工事ハ明治四十二年十二月著手シ公道橋ハ同四十四年七月鐵道橋ハ大正元年八月竣功セリ其ノ總工費金八萬七千四百四拾九圓拾壹錢六厘ニシテ内橋臺及翼壁金參萬四千八拾六圓四拾壹錢參厘公道橋桁構製作及架渡金參萬千七百九拾圓路面築造其ノ他五千九百拾七圓拾錢四厘鐵道橋金壹萬五千參百五拾五圓五拾九錢九厘トス

### 第四章 陸上設備

#### 第一節 上屋

上屋ハ木造上屋三棟鐵造上屋十一棟面積總計一萬二千七百二十四坪ニシテ第一號及第二號上屋ハ舢舨物揚場ニ沿ヒ第三號乃至第十四號上屋ハ岸壁ヲ距ル約五間乃至六間半ノ位置ニ於テ各岸壁ト平行ニ建設シ上屋ノ桁行間數ハ岸壁ニ接スルモノハ繫留船舶ノ大小ニ依リ物揚場ニ沿フモノハ其ノ地形ニ應シ適宜之ヲ定メ各梁間ハ陸揚貨物最盛時期ニ於テ其ノ取扱上支障ナキヲ期シ何レモ十四間ト爲シタルモ第二號上屋ハ敷地ノ關係ヨリ桁行ヲ「く」字形トシ梁間ヲ十二間ニ短縮セリ

稅關上屋ニ出入スル陸送貨物ハ汽車扱ノモノ比較的尠キヲ以テ上屋内荷馬車ノ出入ニ便ナラシムル爲メ平地式ノ床ト爲シ第四號上屋ノミ試驗的ニ高二尺五寸ノぶらっとほらむヲ道路側ニ設ケタリ又上屋一隅便宜ノ場所ヲ區劃シテ各一箇所ノ放置貨物置場(第一號、第三號、第六號、第七號、第八號上屋)及事務室(第十一號、第十四號上屋)ヲ設ケ各上屋道路側

ニハ總體大庇ヲ設ケ且夜間貨物ノ出入檢査ニ便ナラシムルカ爲メ上屋ノ内外ニ三十二燭光白熱電燈ヲ適宜取付ケタリ  
上屋床ノ構造ハ比較研究ノ必要アルヲ以テ本工事ニハ四種ノ工法ヲ試驗的ニ實施セリ其ノ成績概要左ノ如シ

種別	上屋別	構造ノ概要	平均坪當 工費	實施後ノ成績
板張床	第三號上屋	割栗地形上ニ松根太ヲ列ヘ根太相互ノ間隔ニ砂利ヲ充填シ厚二寸五分ノ樞材床板ヲ張詰メタリ	一五八三〇	床質ハ彈力ニ富ミ貨物ノ破損程度少キモ貨物ノ爲メ床面ニ浸染ヲ招キ易ク保存上ぐらりのりしつ床ニ比シ多少劣ルカ如シ
混凝土敲床	第一號、第四號、第六號上屋	割栗地形上ニ混凝土厚六寸七分ヲ施シ表面ニハ膠泥厚三分ヲ施行セリ	八二六〇	床質堅實ニシテ表面破壞シ易ク貨物破損ノ程度ト吸収力ニ因リ缺點ハぐらりのりしつ床ト同一ナリ
ぐらりのりしつ床	第七號及第八號上屋	厚五寸五分混凝土上ニ配合せめしつと厚約一寸五分ヲ施行セリ	八三六〇	優レモ收容貨物ノ破損ヲ招キ易ク且吸収力ヲ有スル故ニ床面ニ油蠟、砂糖、肥料其ノ他貨物ノ浸染ヲ招キ之ヲ除去スルニ困難ノ缺點アリ
瀝青混凝土床	第二號、第五號、第九號、第十四號上屋	厚五寸二分混凝土上ニ厚一時ノ瀝青混凝土ヲ施行セリ	九四一〇	床質柔軟ニシテ彈力アリ貨物破損ノ虞少キノミナラス保存上ニ於テモ良好ナリ且吸収力ナキヲ以テ床面ノ汚染ヲ來サス今日迄ノ經過ニヨレハ各床中良好ノ成績ヲ示セリ

本工事ハ混凝土其ノ他一部ノ工事ヲ除クノ外請負ニ依リ施行セシモ鐵材、せめん

と、亞鉛鍍鐵材等ノ主要材料ハ直接購入シテ之ヲ請負人ニ交付シ工事ノ完全ヲ期セリ

### 第一款 木造上屋

木造上屋ハ第一號、第二號及第十四號ノ三棟二千八百九十六坪ニシテ軒高地覆石上端ヨリ桁上端迄二十一尺七寸軒出柱真ヨリ破風外面迄三尺二寸屋根波形鐵板葺勾配三寸六分木骨切妻造外部下見橫板張、窓差物上ハ同豎板張ニシテ室内中央ニ裸柱ヲ樹立シ西洋小屋組ト爲セリ又屋上ニ數個ノ天窗ヲ付シ金網入硝子板ヲ嵌込ミ外部出入口ハ幅十七尺一寸五分高九尺四寸トシ木製扉ヲ釣込ミ欄間明リ取り窓ヲ設ケ内外ペンキ塗ヲ施シ建物周圍ニ排水設備ヲ爲セリ  
建物敷地ハ汽力修路機及大蝟ニテ床固メノ後各柱下壺掘ヲ爲シ松杭九本乃至六本ヲ打込ミ混凝土ヲ施シ柱受鐵杵ヲ据付ケ側廻リハ割栗地形上ニ混凝土ヲ打固メ地覆石及布石ヲ据付ケ土臺ニハ檜、軸部及小屋組ニハ松又ハ米國松ヲ用ヒ鐵杵上ニ軸柱ヲ建テ入口楣及欄間窓上下ノ差物ハ左右柱毎ニ納指シ短冊鐵物ヲ以テ

蔭止ト爲シ間柱、筋違及地廻桁ヲ取付ケ上屋中心線ニ沿ヒ小屋荷受柱ヲ建テ小屋材ヲ架渡シ屋根ハ二十三番亞鉛鍍波形鐵板ヲ使用シ裸柱及豎樋脚部ニハ車除金物ヲ据付ケ上屋内外色ペンキ塗ト爲シ電燈用地中電纜ハ上屋側壁ヨリ引キ登セ屋內架空電線ニ接續シ適當ノ開閉器及安全器ヲ設備セリ  
本工事ハ明治三十九年九月第一號上屋ニ著手シ其ノ後第十四號及第二號ノ順序ニ起工シ明治四十四年十月全部完成セリ總工費金貳拾五萬五千七百七拾九圓六拾壹錢壹厘ニシテ建坪一坪ニ對スル平均單價ハ金八拾八圓拾壹錢四厘トス其ノ内譯左ノ如シ

### 木造上屋工事費

上屋名	坪數	基礎及排水	床	木組及屋根	建具	塗師	電燈	合計	一坪當
第一號上屋	一、三三三	三、三三三	九、五五五	六、五五五	五、五五五	六、二二二	五、八八八	三二、〇〇〇	九、七八七
第二號上屋	八〇〇	一、一〇〇	八、〇〇〇	五、〇〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、六〇〇	二七、〇〇〇	七、六二二
第三號上屋	八〇〇	一、一〇〇	七、九〇〇	四、九〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、六〇〇	二七、〇〇〇	七、六二二
計	二、九三三	五、五三三	二五、三三三	一六、三三三	一二、一三三	一三、八三三	一五、〇三三	八六、〇〇〇	二八、九七二

第二款 鐵造上屋

鐵造上屋ハ第三號乃至第十三號ノ十一棟合計九千八百二十八坪ニシテ軒高地盤ヨリ桁上迄二十一尺鐵骨切妻造西洋小屋組、屋根勾配二十度越屋根付ニシテ採光天窓及大庇ニハ金網入硝子板ヲ用ヒ屋根及側壁ハ亞鉛鍍波形成鐵板ヲ以テ被覆シ屋上ニ數箇ノ避雷針ヲ建設シ外部出入口ハ幅十七尺高十二尺六寸トシ鐵扉ヲ釣込ミ欄間明リ取り窓ヲ設ケ内外べんき塗ヲ施シ建物周圍ニ排水設備ヲ爲セリ敷地床固メ及基礎工事ハ木造上屋ト同シク鐵骨用其ノ他鋼材ハ全部農商務省製鐵所ノ製品ヲ用ヒ柱ハ溝形鋼ヲ脊中合ニ絞綴シ條鋼及山形鋼ノ筋違及繫材ヲ取付ケ入口楣及ヒ胴差ハ丁形鋼軒桁ハ山形鋼ヲ複列ニ架渡シ小屋組とらっすハ英吉利型ニシテ陸梁合掌共ニ山形鋼ヲ用キ組立後柱上部ニ架設シ合掌尻ニ於テ小屋組ノ伸縮ヲ自在ナラシメ母屋及小屋裏筋違ヲ以テ各とらっすヲ聯絡シ側廻リ羽目張及屋根ニハ二十三番亞鉛鍍波形成鐵板ヲ用ヒ堅樋脚部ニハ車除金物ヲ設備

セリ又出入口扉ハ二枚引分戸ニシテ框其ノ他ニハ山形鋼ヲ用ヒ亞鉛鍍波形成鐵板ヲ張リ鐵製釣車ニテ釣込ミ電燈用配線其ノ他ノ設備ハ木造上屋ニ同シ  
 本工程ハ明治三十九年十一月第六號上屋基礎工事ヨリ著手シ順次各上屋ヲ竣功シ明治四十四年十一月全部完成セリ總工費金百貳拾萬參千五百貳拾壹圓拾八錢六厘ニシテ建坪一坪ニ對スル平均單價ハ金百貳拾貳圓四拾五錢八厘トス其ノ内譯左ノ如シ

鐵造上屋工事費

上屋名	坪數	基礎及排水	床	鐵骨及屋根	建具	塗師	電燈	合計	一坪當
第三號上屋	900	9,900	6,000	5,900	11,000	11,000	3,000	62,800	69.8
第四號上屋	1,100	11,000	8,000	7,900	12,000	12,000	3,000	73,800	67.1
第五號上屋	1,000	10,000	7,000	6,900	11,000	11,000	3,000	68,900	68.9
第六號上屋	1,200	12,000	8,000	7,900	12,000	12,000	3,000	74,800	62.3
第七號上屋	1,000	10,000	7,000	6,900	11,000	11,000	3,000	68,900	68.9
第八號上屋	1,000	10,000	7,000	6,900	11,000	11,000	3,000	68,900	68.9

第九號上屋	一〇〇八	一五、六一・五二	九、二六・八七	六、六三・二二	九、五五・七〇	四、〇六・三三	四、五七・五六	一〇、七四・四三	一〇、四九・九五
第十號上屋	一、〇〇〇	一四、三三・二九	九、八四・五九	七、〇一・九〇	九、八七・二七	四、三三・〇〇	七、〇〇・八六	一〇、八〇・〇〇	一〇、五三・七三
第十一號上屋	八八二	一三、二二・六七	七、四四・二一	六、二二・〇九	八、九八・八八	三、八四・〇〇	四、〇六・〇七	九、五二・二九	一〇、八〇・〇〇
第十二號上屋	八〇〇	一三、五〇・五三	七、七三・九七	五、九三・〇五	七、八三・〇三	三、五二・〇〇	三、四七・七三	九、二二・〇〇	一〇、八〇・〇〇
第十三號上屋	七九	一一、四五・六一	七、〇九・五九	五、九三・〇五	七、〇七・五五	三、四九・九八	三、八八・九三	八、五五・〇〇	一〇、五三・七三
計	九、九八	一八、九八・〇一	四四、七七一〇	七、三三・九七	九、九八・七〇	一、八〇・〇〇	六、〇〇・八三	一、〇〇・〇〇	一、〇〇・〇〇

七〇

第二節 倉庫

當初計畫ハ新設備完成後ニ於ケル外國貿易貨物藏置用ニ供スル倉庫ノ不足坪數概算ニ對シ其ノ約二割ヲ模範倉庫トシテ建築スルノ計畫ナリシカ其ノ後民設倉庫激增ノ結果ニ鑑ミ當時施行中ニ係ル第一號及第二號ノ建設ノミニ止メタリ倉庫ハ何レモ煉瓦造三階建瓦葺ニシテ其ノ背面ニ幅十二尺ノ鋼製棚架ヲ附設シ梁間十二間桁行八十一間五分軒高地盤ヨリ軒蛇腹迄三十四尺九寸トシ其ノ面積ハ第一號本家建坪九百七十八坪棚架建坪百五十一坪合計延坪三千三百八十七坪

第二號本家建坪九百四十九坪六合二勺棚架建坪百三十三坪五合合計延坪三千二百四十九坪三合六勺トス而シテ庫内ニ收容スヘキ貨物ハ倉庫面積一坪ニ付平均四噸ヲ容ル、豫定トス

庫内各室ノ大サハ藏置貨物ニ對スル火災保險ノ程度ヲ標準トシ各室ノ面積ヲ七十八坪餘ト定メ防火壁ヲ以テ遮斷シ各階床上端ヨリ天井鐵梁又ハ鐵小屋下端マテノ高ハ九尺乃至十一尺一寸ニシテ各室出入口ハ一階ニ在リテハ兩側ぶらっとぼーむニ各一箇所二階及三階ニ在リテハ棚架ニ面シテ一箇所宛ト爲シ倉庫前面ニ側壁起重機及貨物受臺ヲ設ケ棚架ニ昇降機ヲ備ヘ庫内直進階段ノ中央ニハ滑板ヲ裝置セリぶらっとぼーむノ高ハ路面上二尺五寸ト爲シ火災防備トシテ棚架各階ニ水道管ヲ敷設シ建物周圍ニハ排水設備ヲ施セリ

側壁間仕切壁及荷持柱下ハ杭打地形ト爲シ杭頭ニハ雙盤木及捨木ヲ組合セ混凝土ヲ施シ壁體ハ全部煉瓦積ト爲シ梁受石、地覆石等ニハ石材ヲ使用シ各階窓及入口上部壁眞ニハ平鋼締聯鐵三通各要部ニハ閉止金物ヲ積込ミ柱床梁小屋組等ノ骨組ハ鋼材ヲ組立テ屋根ハ二十番波形亞鉛鍍鐵板上ニしんだあ混凝土ヲ施シ三

州製切込棧瓦ヲ葺重ネ防火壁頂上ニハ避雷針ヲ設ケタリ  
 各出入口ニハ鋼製折戸又ハ引戸ヲ内外二重ニ設備シ外部出入口ハ別ニ腰付金網  
 張戸ヲ建入レ窓建具ハ鋼製扉ノ外金網張及硝子障子ヲ備ヘ階段ハ直進式ニシテ  
 其ノ中央部滑板幅五尺ハ鋼板張ノ斜面ト爲セリ  
 階下各室ノ床ハ割栗地形上ニ混凝土厚六寸五分ぐらのりしっく厚一寸五分ヲ施  
 シ二階及三階ノ床ハ第一號ニハ厚五寸二分鐵筋混凝土上ニ厚八分ノ瀝青ヲ塗リ  
 第二號ハ十八番弧狀波形鐵板上ニ混凝土及瀝青ヲ施セリ此ノ階上床ノ構造ハ死  
 荷重ヲ除キ一平方呎ニ二百七十封度ノ活荷重ニ堪ヘシム  
 棚架ノ柱床梁小屋組等ハ總テ鋼材ヲ使用シ床ハ第二號倉庫ト同一構造ニシテ階  
 上床鋪料ハ瀝青ニ代ユルニ厚一寸五分ノぐらのりしっくヲ用ヒ屋根ハ二十三番  
 亞鉛鍍波形鐵板葺ト爲シ採光天窗ニハ金網入硝子板ヲ葺込タリ  
 起重機ハ臂徑七呎十一吋ニシテ四基宛各倉庫前面側壁ニ裝置シ電力捲揚機ニ依  
 リ最大荷重二英噸ヲ一分間百呎乃至百五十呎ノ速度ヲ以テ捲揚ケ手働ニ依リ該  
 臂ヲ左右約九十度ニ廻轉セシム捲揚機ハ英國すとっさあと、えんど、びつと會社第

二號及同國こゝわんしゑるどん會社第一號ノ製品ニシテ電動機ハ直流直卷三十  
 馬力第二號及二十馬力第一號準密閉式くれいん型トス  
 第一號倉庫棚架ニ三基第二號倉庫棚架ニ二基ノ昇降機ヲ設備シ昇降臺ノ大サハ  
 八呎平方ニシテ電力捲揚機ニ依リ最大荷重二英噸ノ貨物ヲ一分間六十呎乃至九  
 十呎ノ速度ヲ以テ倉庫各階ニ昇降セシメ得ルモノトス本機ハ米國おちす、えれづ  
 えいたゝ會社ノ製品ニシテ電動機ハ直流複捲十馬力廻轉數八百昇降臺ハかゝす  
 ゐちしすてむニ依リ運轉シ各種保安裝置ヲ完備ス  
 庫内ニ取付ケタル電燈ハ三十二燭光及十六燭光ノ二種ニシテ總テ之ヲ五個宛ノ  
 直列式ニ配置シ室内ニハ護謨被覆電線ヲ架シ壁又ハ鋼梁ニ沿ヒ架設スルニハこ  
 んぢゆつとちゆいぶ内ニ高等絶緣電線ヲ引入レ屋外ニハ被鉛高等絶緣電線ヲ使  
 用セリ又階下各室並ぶらつとほいむニ軌間二十吋輕便軌條ヲ敷設シ貨物運搬ノ  
 用ニ供シ棚架各階ニハ四吋配水管ヲ敷設シ水道幹線ト聯絡セシメ水倉、消火栓並  
 附屬具ヲ備ヘ庫内火災防備ノ用ニ供ス  
 第一號倉庫ハ明治四十一年四月起工大正二年三月竣功シ第二號倉庫ハ明治四十

州製切込棧瓦ヲ葺重ネ防火壁頂上ニハ避雷針ヲ設ケタリ  
 各出入口ニハ鋼製折戸又ハ引戸ヲ内外二重ニ設備シ外部出入口ハ別ニ腰付金網  
 張戸ヲ建入レ窓建具ハ鋼製扉ノ外金網張及硝子障子ヲ備ヘ階段ハ直進式ニシテ  
 其ノ中央部滑板幅五尺ハ鋼板張ノ斜面ト爲セリ  
 階下各室ノ床ハ割栗地形上ニ混凝土厚六寸五分ぐらのりしっく厚一寸五分ヲ施  
 シ二階及三階ノ床ハ第一號ニハ厚五寸二分鐵筋混凝土上ニ厚八分ノ瀝青ヲ塗り  
 第二號ハ十八番弧狀波形鐵板上ニ混凝土及瀝青ヲ施セリ此ノ階上床ノ構造ハ死  
 荷重ヲ除キ一平方呎ニ二百七十封度ノ活荷重ニ堪ヘシム  
 棚架ノ柱床梁小屋組等ハ總テ鋼材ヲ使用シ床ハ第二號倉庫ト同一構造ニシテ階  
 上床鋪料ハ瀝青ニ代ユルニ厚一寸五分ノぐらのりしっくヲ用ヒ屋根ハ二十三番  
 亞鉛鍍波形成板葺ト爲シ採光天窗ニハ金網入硝子板ヲ葺込タリ  
 起重機ハ臂徑七呎十一吋ニシテ四基宛各倉庫前面側壁ニ裝置シ電力捲揚機ニ依  
 リ最大荷重二英噸ヲ一分間百呎乃至百五十呎ノ速度ヲ以テ捲揚ケ手働ニ依リ該  
 臂ヲ左右約九十度ニ廻轉セシム捲揚機ハ英國すとっさあと、えんど、びつと會社第

二號及同國こゝわんしゑるどん會社第一號ノ製品ニシテ電動機ハ直流直卷三十  
 馬力第二號及二十馬力第一號準密閉式くれいん型トス  
 第一號倉庫棚架ニ三基第二號倉庫棚架ニ二基ノ昇降機ヲ設備シ昇降臺ノ大サハ  
 八呎平方ニシテ電力捲揚機ニ依リ最大荷重二英噸ノ貨物ヲ一分間六十呎乃至九  
 十呎ノ速度ヲ以テ倉庫各階ニ昇降セシメ得ルモノトス本機ハ米國おちす、えれぐ  
 えいたい會社ノ製品ニシテ電動機ハ直流複捲十馬力廻轉數八百昇降臺ハかゝす  
 ゐち、しすてむニ依リ、運轉シ各種保安裝置ヲ完備ス  
 庫内ニ取付ケタル電燈ハ三十二燭光及十六燭光ノ二種ニシテ總テ之ヲ五個宛ノ  
 直列式ニ配置シ室内ニハ護謨被覆電線ヲ架シ壁又ハ鋼梁ニ沿ヒ架設スルニハこ  
 んぢゆっとちゆいぶ内ニ高等絶緣電線ヲ引入レ屋外ニハ被鉛高等絶緣電線ヲ使  
 用セリ又階下各室並ぶらっとほいむニ軌間二十吋輕便軌條ヲ敷設シ貨物運搬ノ  
 用ニ供シ棚架各階ニハ四吋配水管ヲ敷設シ水道幹線ト聯絡セシメ水弁、消火栓並  
 附屬具ヲ備ヘ庫内火災防備ノ用ニ供ス  
 第一號倉庫ハ明治四十一年四月起工大正二年三月竣功シ第二號倉庫ハ明治四十

年十一月起工同四十四年五月竣功セリ總工費金百萬千八百八拾壹圓九錢參厘ニシテ倉庫建坪一坪ニ對スル平均單價ハ金四百五拾貳圓九拾錢五厘トス其ノ内譯左ノ如シ

倉庫工事費

名稱	第一號			第二號		
	建坪又ハ員數	工費	平均工費	建坪又ハ員數	工費	平均工費
倉庫及附屬設備	一、二九〇〇	四八、一七四〇	四三、三六九	一、〇八三、一二	五三、七三六	四七、四二九
基礎及排水	一、二九〇〇	九三、一七九九	八、五九三	一、〇八三、一二	九一、二六二	八四、二五八
石工及煉瓦積	九七、〇〇	八四、三五三	八六、二五〇	九四九六三	九八、三三四	一〇三、五四一
鐵骨	九六、〇〇	九八、七六九	一〇〇、九九〇	九四九六三	一三五、〇八五	一四二、三三三
屋根及鏝	九八、〇〇	二二、九二五	二二、四三八	九四九六三	二〇、三九八	二、四八一
鐵製間仕切及造作	九八、〇〇	五九、三七五	六〇、六六二	九四九六三	六一、三七三	六四、六二九
床凝土及瀝青	九八、〇〇	五〇、一六三	五、二九〇	九四九六三	三二、一六八	三三、八七六
泥工及塗師	九八、〇〇	六、六七六	六、八二一	九四九六三	六、四六五	六、五七八
棚架	一五、一〇〇	三、一八〇	二〇、六四九	一三、三五〇	三、三三七	二〇、七五六

起 重 機	第一號		第二號	
	昇 降 機	電燈軌條及水道	昇 降 機	電燈軌條及水道
四基	一、一五〇、九三三	二、八二七、七八	四基	一〇、七三九、一八六
三	一七五、二八三	五、八三七、六七	二	一四、三二二、二五
	一三八、九四〇	一、四二二		一、二四五、三九七
				七、一五六、〇六三
				一三、一四

第三節 道路及排水設備

第一款 道路

道路ハ鋪料ニ依リ之ニ鋪石道、碎石道、砂利道ノ三種ニ區分シ其ノ幅員六間乃至十二間ニシテ路面ハ中心ヨリ左右ニ傾斜セル拋物線形ト爲シ鋪石道ハ基礎凝土上ニ花崗石ヲ据付ケ碎石道ハ碎石ヲ上下二層ニ敷キ詰メ砂利道ハ山砂利及小砂利ヲ敷キ均シ汽力修路機ニ依リ充分轉壓シ完全ナル路面ヲ造リ幅員十間以上ノモノハ總テ左右各一間ノ人造石步道ヲ設ケ萬國橋及新港橋ニ通スル道路ハ勾配ヲ有スルモ其ノ他ハ全部水平トス

(一) 鋪石道 所要ノ幅員ニ應シ大體ノ地均シヲ施シ十噸汽力修路機ヲ以テ床固メヲ爲シ下水管据付後拋物線形ニ倣ヒテ道牀ヲ造リ砂利厚二寸ヲ敷キ均シ更ニ



轉壓床固メヲ了リ石灰入基礎混凝土厚六寸ヲ施シ長八寸乃至一尺五寸幅三寸高五寸ノ花崗石鋪石ヲ砂褥上ニ敷キ詰メ其ノ路面ヲシテ左右勾配四十分ノ一ノ拋物線形ヲ爲サシム此ノ鋪石ハ道路ノ延長ニ直角ノ方向ハ直線接合トシ道路延長ノ方向ニハ間隔三寸以上ノ互層接合トシ道路ノ交叉點及上屋入口ハ斜行列ニ敷キ詰メ鋪石ノ目地ハ六分ト爲シ瀝青小砂利及砂ヲ填充セリ又道路分歧點及暗渠設備上ニハ踏切用トシテ幅一尺五寸厚五寸長二尺以上ノ花崗石二列ヲ敷キ込ミタリ

歩道ハ砂利厚三寸ヲ敷キ固メ砂褥上ニ人造板石ヲ排列シ路面ハ雨水溝ニ向テ五十分ノ一ノ傾斜ヲ爲サシム

(二) 碎石道 基礎地均シ床固メヲ了リ縁石ヲ据付ケタル後下層ニハ徑一寸五分乃至二寸五分上層ニハ徑六分乃至一寸五分ノ碎石厚各六寸ヲ敷キ均シ十噸汽力修路機ヲ以テ仕上厚各四寸ニ轉壓セシメ更ニ十五噸汽力修路機ヲ運轉シ充分固定セシメ左右勾配三十分ノ一ノ拋物線形ニ路面ヲ完成セリ此ノ碎石ハ相州又ハ豆州産堅石ヲ碎石機ニテ破碎篩分ヲ爲セシカ路面仕上ノ爲メ最上層ニ使用セシ

モノハ細末ヲ混交シタル儘敷キ均シ適度ノ撒水ヲ爲シ沈壓セリ

道路交叉點其ノ他ニハ鋪石道ト同シク踏切用花崗板石ヲ敷キ込ミ又多數ノ鐵道ニ依リ横斷セラル、區域ニハ瀝青敷ヲ施行シ歩道ハ人造板石ヲ据付ケタリ

(三) 砂利道 地均シ床固メヲ爲シ徑四寸乃至六寸ノ割栗石ヲ敷キ列ヘ目潰砂利ヲ詰メ更ニ山砂利厚二寸ヲ敷キ均シ其ノ上面ニハ小砂利厚一寸衣土約一寸ヲ敷キ每層汽力修路機ニ依リ充分轉壓路面ヲ築造セシカ場所ニ依リ基礎割栗石ヲ省ケリ

各種道路ノ總延長ハ千八百四十五間四分二厘ニシテ明治四十年二月著手シ大正三年三月全部完成セリ總工費金參拾七萬七千五百六拾八圓貳拾錢七厘ニシテ其ノ内譯左ノ如シ

道路工事費

鋪石道	道路延長	工費	平均延長 一間當工費	車道平均 面坪當工費	歩道平均 面坪當工費
幅十二間	七三三〇	二八〇四六・一九五	三八二・六三	三三〇・九三	一三〇・一六
幅十間	九六七一・四	二九三・九三二・二二四	二九六・七四七		

計	碎石道		砂利道	
	幅十間	幅八間	幅八間	幅六間
外圍	三七三九五	一〇八〇〇	二六〇三〇	四二七三三
内	三八〇一五・一〇八	五、八〇七・五四〇	八、九一三・四六〇	四、四一七・六六七
計	一〇一、六五八	五三、七七四	三、八五四・六九〇	一、八四五・四三三
内	九一、七九	三、四二四・三	一、八七三・八	三、七七五・八二〇・七七
計	一三、〇一六	五〇三・一		

七八

第二款 構内石敷

(一) 岸壁沿石敷 岸壁及上屋間幅五間乃至六間半ハ排水ノ爲メ岸壁ニ向ヒ勾配四十分ノ一ノ斜面ヲ造リ床固メヲ爲シ徑二寸五分以下ノ碎石厚約六寸ヲ二層ニ敷キ詰メ各層修路機ヲ運轉シ沈壓固結セシメタル後厚一寸ノ砂褥上ニ長八寸乃至一尺五寸幅厚各五寸ノ花崗石ヲ岸壁ト直角ニ敷キ詰メ目地三分交差三寸以上ノ互層接合ト爲シ乾燥砂ヲ填充シ軌條ノ兩側ニハ幅四寸ノ縁石ヲ据付ケタリ

(二) 岸壁沿碎石敷 幅員五間乃至六間ニシテ床固メ及下層碎石敷ノ工法ハ碎石ノ厚ヲ八寸ト爲セシ外岸壁沿石敷ト同シク上層ニハ更ニ徑一寸五分以下ノ碎

清水公司

石仕上厚四寸ヲ敷キ十五噸汽力修路機ニ依リ充分轉壓シ碎石總厚ヲ一尺二寸ト爲セリ而シテ碎石敷ノ内起重機軌道間ハ全部幅一尺厚三寸ノ花崗板石ヲ敷キ詰メ目地四分交互間隔三寸以上ニ据付ケ目地及下敷ニハ膠泥ヲ使用セリ

(三) 上屋及倉庫沿石敷 上屋沿鐵道敷地内ノ石敷ハ上屋及道路ヲ聯絡スル幅五間乃至十間ノ踏切ハ碎石厚七寸ヲ沈壓シ幅厚各五寸ノ花崗鋪石ヲ据付ケ其ノ他ノ區域ハ道路側單線敷地ヲ除キ厚四寸碎石基礎上ニ幅一尺乃至一尺五寸厚五寸ノ花崗板石ヲ敷キ軌條ノ内側ニハ護輪用軌條又ハ山形鋼ヲ取付ケ枕木上ハ鋪石ノ厚ヲ各三寸ト爲セリ又倉庫前面幅一間ノ區域ハ岸壁沿ニ敷ヒ石敷ヲ施シ鋪石道ニ接續セシム

(四) 構内碎石敷及事務所通路 上屋外貨物置場ハ碎石敷ト爲シ岸壁沿碎石敷ノ工法ニ倣ヒ上下層各仕上厚三寸ノ碎石ヲ沈壓シ事務所通路ハ厚五寸石灰入混凝土基礎上ニ長七寸乃至十尺幅三寸厚三寸五分ノくれおそーと注入鋪木ヲ敷キ詰メ歩道ニハ人造板石ヲ据付ケタリ

石敷又ハ碎石敷ヲ施行セシ總面積ハ一萬二千三百八十八坪六合八勺ニシテ明治

四十年七月著手シ大正三年三月全部完成セリ總工費金拾九萬九百貳圓五拾五錢七厘ニシテ其ノ内譯左ノ如シ

構内石敷工事費

上野電氣株式會社  
南洋國貨會社

種別	坪數	工費	一坪當平均工費
岸壁沿石敷	二七二〇・六七	七六、一八・五八六	二七九七八
同碎石敷	五、九六四・六〇	五七、〇〇・一三七九	九五五七
上屋入口石敷	一、二八三・四	二四、五一〇・三三四	二一七二二
上屋沿石敷	一、五三一・〇〇	二二、二五三・六五四	一四・五三五
倉庫沿石敷	一、五五〇・〇	四、〇〇〇・六四二	二五八二一
構内碎石敷	七六一・九四	四、一一四・八八一	五、四〇一
事務所入口通路	一二七・一三	二、九〇三・〇九一	二二・八三六
計	一二、三八八・六八	一九〇、九〇二・五五七 内 一、三三三・一三〇九	

第三款 弧光燈

弧光燈ハ英國くろんぶとん會社製品ヲ用ヒ道路及繫船岸要所ニ三十九箇所發電所内ニ五箇所合計四十四箇所ヲ設備シ内三十四個ハ直流百ヴをると五あんべあ用えんくろゝずまるちぶる式ニシテ五個直列ニ連結シ十個ハ五十ヴをると十あんべあ用ふれゝむあゝく十個ヲ直列ニ連結シ橋梁及發電所以外ハ地上約三十尺ノ鐵柱又ハ上屋柱上ノ支柱ニ取付ケ自動開閉器及昇降裝置ヲ附屬セシメ地中電纜ハ地上約七尺マテ延長シ其上部ニハ二心入被鉛高等絶緣銅線ヲ用ヒ開閉器ニ導ケリ

本工程ハ明治四十一年十一月著手シ同四十五年六月全部完成セリ其ノ總工費金壹萬參千六拾圓六拾八錢五厘ニシテ鐵柱建設一箇所平均工費金貳百拾壹圓貳拾六錢貳厘電燈取付一箇所平均工費金百八拾參圓貳拾壹錢四厘トス

第四款 下水渠

下水工事ハ道路中央地下ニ下水本管ヲ据付ケ道路ノ左右ニハ雨水溝及集水樹上屋、倉庫等ニハ溜樹ヲ設ケ各支管ニヨリ本管ト聯絡セシメ埋立地ヲ三區域ニ分チ

兩突堤頭部及新港橋橋臺ニ各吐口ヲ設ケ構内ノ雨水及汚水ヲ海中ニ排出セシム而シテ本計畫ニ豫想セシ最大雨量ハ一時間一吋四分ノ一トス  
 下水本管ノ大サハ内徑七寸以上二尺五寸ニシテ勾配ハ三百分ノ一乃至六百分ノ一トシ支管ハ内徑四寸乃至六寸トス而シテ各管内徑一尺五寸以上ハ鐵筋混凝土管其ノ以下ハ常滑燒土管ヲ使用シ下水本管ノ方向ヲ轉スルカ又ハ二線ノ集合スル場所ニハ内徑三尺乃至四尺鐵筋混凝土製掃除柵ヲ設置シ其ノ距離大ナル場合ニハ中間ニ内徑六寸ノ燈孔ヲ設ケタリ雨水溝ハ路面排水ノ爲メ車道兩側ニ設ケ其縱勾配ハ百八十分ノ一以上トシ地形ニ應シ二十間内外ノ距離ニ鐵筋混凝土製内徑一尺二寸ノ集水柵ヲ設置セリ  
 下水本管基礎ハ碎石上ニ松材拾雙盤土臺ヲ据付ケ火山灰入混凝土ヲ施シ混凝土管ハ内周圓形外周馬蹄形底部水平ト爲シ其ノ厚ハ内徑ノ約十分ノ一長ハ各四尺トス混凝土ノ配合ハ一、二、四ニテ鐵筋ハ徑十六分ノ三吋軟鋼條ヲ使用セリ又支管ハ砂利基礎上ニ据付ケ本管トノ接續ハ直角又ハ下流ニ向ヒ四十五度ノ角度ヲ爲サシメ鐵道ト交叉スル箇所及覆土淺キ區域ハ厚燒土管ヲ用ヒ又ハ鐵筋混凝土ヲ

以テ並燒土管ヲ卷キ補強セリ  
 本工事ハ明治四十二年三月右突堤ヨリ著手シ順次道路工事ノ進捗ニ伴ヒ施行シ大正三年三月全部完成セリ總工費金四萬八千六百八拾圓參拾五錢壹厘ニシテ其ノ内譯左ノ如シ

下水工事費

種	別	數	量	工	費	平均	工	費
下	水	本管	一、六八四	四	四二、八二七	四	一六、二七四	
掃	除	柵	九	個	一、九三六	三	二一、五四五	
燈	孔	柵	二	個	三、四〇六	〇	一七、〇三〇	
集	水	溝	一、三三七	尺	二、七四三	四	二〇、〇二五	
雨	水	計	二、四二〇	尺	一、一三九	五	〇、四七一	
計	水	溝	一	尺	四八、六八〇	三	六九、〇〇〇	
				内	六九、〇〇〇	〇		

第四節 鐵道

埋立地内ニ於テハ構内經由ノ輸出入貨物ニ對シ操車線全部ヲ設クルノ餘地ナキヲ以テ兩突堤中間ニ平行セル四個ノ側線ヲ設ケ構内貨車配給ノ用ニ供ス鐵道幹線ハ鐵道院建設ノ海陸聯絡線ヲ延長シ複線ノ儘埋立地中央ヲ經テ右突堤ニ達シ別ニ一線ヲ分岐シテ稅關構内ノ鐵道ト聯絡セシメ支線トシテ繫船岸ニ單線上屋背面及倉庫前面ニ二線若ハ三線ヲ敷設シ第二號上屋背部第三號第四號第五號及第十四號上屋前面岸壁沿ヲ除クノ外全部轉轍器ニ依リ列車ノ儘交互入替ヲ爲サシム

列車用鐵道ハ軌間三呎六吋六十封度軌條ヲ用ヒ鐵道建設規程ニ依リ施行シ橋梁聯絡等己ムヲ得サル部分ニハ八十分ノ一乃至二百四十分ノ一ノ勾配ヲ付セシモ其ノ他ハ總テ水平トス曲線半徑ハ四鎖半曲線一箇所ヲ除クノ外五鎖乃至八鎖トシ分離線ハ八番及十番ヲ使用シ外ニ幹支線聯絡ノ爲メ九番ノだぶるすりっぶすゐち一個ヲ敷設ス又鐵道附屬設備トシテ内徑十五呎轉車臺及長十五呎遷車臺ヲ配置シ操車ノ便ヲ計リ上屋沿其ノ他ニ計重臺ヲ据付ケ貨車秤量ノ用ニ供シ線路ノ終端ニハ保安裝置トシラ車止ヲ設置セリ

鐵道敷地中央ニ沿ヒ水抜ヲ設ケ修路機ヲ以テ床固メノ後砂利又ハ碎石ヲ敷キ均シ道床ト爲シ枕木ハ長三十呎軌條ニ對シ十二挺遣トシ岸壁沿敷石區域ノミハ鐵筋混凝土枕木上ニ縱枕木ヲ配置セリ又道路及ヒ構内石敷橫斷箇所ニハ總テ防腐液注入松枕木ヲ使用シ護輪用トシテ軌條又ハ山形鋼ヲ軌條内側ニ取付ケ車馬ノ交通ニ便ナラシメ鋪石道ヲ橫斷スル箇所ハ枕木下特ニ鐵筋混凝土基礎ヲ設ケタリ

起重機用鐵道ハ七十五封度軌條ヲ用ヒ各岸壁ニ沿ヒ上屋前面ニ敷設シ電氣可動起重機運轉ノ用ニ供ス軌間ハ十三呎六吋ニシテ其中間ニ列車用鐵道單線ヲ敷設シ長十六尺三寸ノ鐵筋混凝土橫枕木ヲ約十尺ノ間隔ニ配置シ防腐液注入縱枕木ヲ据付ケ枕木下端ニハ石灰入混凝土ヲ施シ上屋側ニハ混凝土橫枕木間別ニ普通枕木三本ヲ配列シ列車用鐵道ト共用セシメ護輪用山形鋼ヲ軌條ノ兩側ニ取付ケタリ

本工事ハ明治四十一年六月著手シ大正三年三月全部完成セリ總工費金貳拾四萬參千八百參拾四圓八拾貳錢參厘ニシテ其ノ内譯左ノ如シ

鐵道工事費

工種	數量	工費	平均延長一鐵又ハ一箇所當工費	摘要
起重機用鐵道	七七六七	二八、五四二、七六四	三六七、四八八	
列車用鐵道	七四〇、九一	一七九、四九二、二四〇	二四二、二五九	外ニ延長一鐵九四節ハ鐵道橋ニ附屬ス
轉車臺	一三	一六、六八五、四九八	一、二八三、五〇〇	內徑十五呎十二臺
遷車臺	三	九五四、〇〇〇	三一八、〇〇〇	內徑十二呎二臺
計重臺	六	一七、一二六、三四六	二、八五四、三九一	五萬三百斤掛四臺
計止臺	四二	一、〇三四、〇七五	二四、六二一	四萬二百斤掛二臺
計		內一四、三三九、七四八 二四三、八三四、八二三		

第五節 發電及配電設置

貨物揚卸ニ要スル起重機動力ハ歐米ニ於ケル電力使用ノ結果良好ナルト上屋倉庫、道路等ノ點燈ニ電力ヲ要スルヲ以テ全部電力ヲ使用スルコト、爲シ構内ニ發

電所ヲ設ケ火力發電裝置ヲ設備シ直流電氣ヲ發生セシメ五百ゾゝるとノ電壓ニ於テ地中電纜ニ依リ必要ノ場所ニ送電シ又貨物出入ノ繁閑ニ伴ヒ動力使用量ノ増減甚シキヲ以テ發電費用ヲ節約スル爲メ蓄電裝置ヲ設ケタリ而シテ本設備ハ明治四十四年計畫變更ノ際起重機、轆轤及昇降機ノ數ヲ減セシヲ以テ現時發電力ニ餘裕ヲ存ス

第一款 發電所

煉瓦造M型切妻造ニシテ建坪三百坪六合二勺軒高三十六尺屋根ハ瓦葺トシ換氣用越屋根ヲ設ケ内部ハ汽機室、汽罐室、蓄電室及唧筒室ノ四室ニ區劃シ蓄電室ノ階上ヲ事務室ト爲セリ又凝汽器用循環水供給ノ爲メ汽機室內外ニ吸水井三個ヲ設ケ鐵筋混凝土管ヲ以テ相互間並海中ニ聯絡シ煙突ハ口徑八呎高百六十呎九吋鋼製耐震構造ト爲シ煉瓦造煙道ヲ以テ汽罐室ニ通セシメタリ  
側壁、汽機汽罐及煙道下ハ杭打混凝土地形壁體ハ煉瓦積ニシテ地覆石、巾木石、梁受石ニハ堅石ヲ使用シ壁體要部ニハ締聯鐵閉止金物ヲ積込ミ小屋組ハ鋼構造ト爲

シ間仕切壁上ニ於テ其伸縮ヲ自由ナラシメ屋根ハ二十番亞鉛鍍波形鐵板上ニシ  
 んだあ混泥土ヲ施シ切込椽瓦ヲ葺立テ柱、床梁等ハ鋼材ヲ用ヒ床ハ混泥土敲ニシ  
 テ事務室及廊下ノミハ板張ト爲セリ

煙突基礎ハ杭打地形ノ上ニ直徑三十八呎厚三呎ノ混泥土ヲ打固メ鐵身締付用  
 一と十二本ヲ植込ミ煙道及掃除口ト共ニ煉瓦ヲ積疊シ笠石ヲ繞ラシ煙突内徑  
 ハ頭部ニ於テ八呎底部ニ於テ二十二呎ト爲シ鐵身ハ軟鋼板ヲ組立テ基礎煉瓦積  
 ニ定置セル鑄鐵輪上ニ据付ケ内側ニ山形鋼製補強輪九個ヲ取付ケ其ノ最下部外  
 周ニハ十二個ノぶらけットヲ付シ之ヲ基礎ぼ一とニ緊結セシメ鐵身内部ニハ  
 煉瓦ヲ積疊シ煙突頂上ニ避雷針ヲ建設セリ

本工程ハ明治四十年六月起工同四十二年十二月全部完成セリ總工費金拾五萬參  
 千九百九拾七圓五拾壹錢五厘ニシテ其ノ内譯左ノ如シ

發電所工事費

名	稱	數量	基礎	吸水井及 水管	煉瓦積及 石積	鐵骨屋根 及雜作	其他	合計	工一坪 費
煉瓦造發電所		500坪	48,600圓	7,660圓	28,500圓	5,500圓	8,500圓	127,000圓	254圓

附屬煉瓦造便所	煙突	計
47.50	1.50	49.00
2,260圓	1,260圓	3,520圓
7,660圓	7,660圓	15,320圓
28,500圓	28,500圓	57,000圓
5,500圓	5,500圓	11,000圓
8,500圓	8,500圓	17,000圓
97,500圓	97,500圓	195,000圓
2,260圓	2,260圓	4,520圓
15,320圓	15,320圓	30,640圓
11,000圓	11,000圓	22,000圓
17,000圓	17,000圓	34,000圓
233,000圓	233,000圓	466,000圓

第二款 發電及蓄電裝置

(一) 發電裝置 汽罐六基、汽機直結發電機四臺及凝汽裝置四組ニシテ全發生電

力六百八十きろわット

汽罐ハばぶこく水管式ニシテ汽壓百六十封度ノ時ニ於テ一時間ノ蒸發量六千  
 七百封度ヲ有シ其ノ加熱面積ハ二千九百九十七平方呎火爐面積ハ四十四平方呎汽  
 罐ハ二個宛相並ヘテばってり式ニ据付ケ各徑三十六吋ノすちむ及うあた、  
 どちらむ二個並ニすゝばゝひたゝ一組ヲ有ス

汽機ハ英國ベリス、えんど、もるこひ會社C形二百四十馬力直立複働式凝結汽機ニ  
 シテ直流發電機ト直結シ其ノ使用汽壓百五十五封度回轉數一分間四百二十五ノ  
 トキ發電機ニ二百六十馬力ヲ傳動シ得ルモノトス

發電機ハ直流複捲式四極發電機ニシテ汽機ト直結セラレ其ノ最大電壓五百五十  
 ヲあると一分間ノ回轉數四百二十五容量百七十きろわつとトス  
 凝汽器ハ表面凝汽器ニシテ冷却面積八百平方呎ヲ有シゑどわいど式單働唧筒型  
 空氣唧筒せんとりふゆゝがる型循環唧筒ヲ具ヘ直立汽機ニ依リ運轉シ循環唧筒  
 ハ一時間ニ二萬五千英がろんヲ排出シ一時間ノ凝汽量六千五百封度ノモノトス  
 給水唧筒ハ直立單働複働式ノモノニ臺ニシテ各水管徑七吋汽管徑九吋半衝程二  
 十一吋一時間ニ四千英がろんヲ給水スルモノニシテ外ニ第二水給水加温器ニ臺  
 ヲ設備ス加温器ハ各一時間ニ一千がろんノ水ニ加温シ汽罐ニ給水スルニ支障ナ  
 カラシム

配電盤ハ汽機室ノ一端階段上ニ取付ケ低壓直流二線式ヲ以テ配電シ發電機盤四  
 枚電力主幹線盤一枚電力饋電線盤五枚電燈幹線盤二枚弧光燈幹線盤一枚ヲ設備  
 ス

發電裝置ニ要シタル總工費金貳拾四萬貳百九拾貳圓五錢參厘ニシテ主要機械ノ  
 數量價格及製造者左ノ如シ

發電裝置工事費

名	稱	數	量	單	價	金	額	製	造	者	名
汽	汽	六	臺	一	一、三六七、〇〇〇	六八、二〇二、〇〇〇		英國	ばぶこつく、えんど、う		
凝	汽	四	臺	一〇、一二二、五〇〇	四〇、四九〇、〇〇〇			英國	べりす、えんど、もる		
發	電	四	臺	七、二五五、〇〇〇	二九、〇二〇、〇〇〇			同	上		
配	電	二	臺	六、五四二、五〇〇	二六、一七〇、〇〇〇			英國	でいっかー會社		
給	水	二	臺	一、三四七、五〇〇	一六、一七〇、〇〇〇			同	上		
給	水	二	臺	一、三六〇、〇〇〇	二七、二〇〇、〇〇〇			英國	うゑーあ會社		
給	水	二	臺	一、七八九、〇〇〇	三、五七八、〇〇〇			英國	ばぶこつく、えんど、う		
据	付				五三、九四二、〇五三			英國	ばぶこつく、えんど、う		
計					二四〇、二九二、〇五三						

(二)蓄電裝置 發電機ト電池ト併列ニ連結シ昇壓機ノ補助ニ依リ電線路ノ荷  
 重ニ比シテ發電量ノ過不足アルニ應シ蓄電池ハ充電若ハ放電作用ヲ爲シテ發電



機ノ能率ヲ高メシメ又電力ノ使用僅少ナル場合ニハ發電機ノ運轉ヲ中止シ全部蓄電池ヨリ電力ヲ供給セシム

蓄電池ハちゆいどる式TS二十四型ニシテ其ノ總數二百三十四個放電容量八百七十あんぺあ放電時間ヲ十時間トシ其ノ充電及放電ヲ適當ニ調整セシムル爲メしーめんすしゅっけるとびらにー式反轉昇壓機一組ヲ据付ケ電池ト直列ニ連結シ荷重ノ増減ニ依リ充電及放電ヲ自動的ナラシム

昇壓機ノ電壓ハ併列ノ場合六十ヴあると直列ノ場合百三十乃至百六十ヴあるとニシテ其ノ容量普通ノ場合十六、六きろわつと均齊ノ場合三十四きろわつとトシ勵磁機ハ電壓百二十ヴあるとニシテ容量普通ノ場合二、七きろわつと均齊ノ場合三、五きろわつとトシ電動機ハ複捲ニシテ電壓五百ヴあると馬力數四十五トス又蓄電池ヨリ發生スル有臭瓦斯ヲ屋外ニ排出セシムル爲メ毎分二千立方呎ヲ排氣スル電氣扇風機ヲ裝置セリ  
蓄電裝置ニ要シタル總工費金參萬四百七拾七圓參拾五錢五厘ニシテ其ノ内譯左ノ如シ

金貳萬千七百參拾四圓四拾壹錢五厘  
金七千貳百八拾圓八拾七錢  
金千四百六拾貳圓七錢

蓄電池  
反轉昇壓機  
配電盤

### 第三款 電線路

配電線ハ全部地中線式ニシテ動力線、白熱燈線及弧光燈線ニ區分シ埋立地右半部岸壁沿ニ在リテハ岸壁暗渠ノ側壁ニ支柱金具ヲ取付ケ電纜ヲ併架シ其ノ他ハ地下三尺ニ埋込ミタル木函内ニ電纜ヲ敷設シ砂ヲ填充シ鐵道橫斷箇所ニハ鑄鐵管鋪石道橫斷區域ニハ鐵筋混凝土有蓋暗渠又ハU字形混凝土管ヲ据付ケ電線ノ増設修繕等ヲ容易ナラシム而シテ電纜ノ接續及分岐ニハじよいとぼくす及さーびすぼくすヲ使用シ地中電纜ト地上電線トノ接續ニハけーぶるへっどヲ用ヒ電線路ノ要所ニハ地中單極二方切換開閉器ヲ設置シ必要ニ應シテ電路ノ切換ヲ爲スニ便ナラシメ岸壁沿ニハ延長十間乃至十二間毎ニ可動起重機用れせぶてーくるヲ配置シさーびすぼくすヨリ分岐スル支線ニ聯絡セシメタリ電纜ハ獨

2a  
2ax3a  
13  
14  
15

國ふるるんうんど、ぎろ、む會社製ニシテ其ノ種別左ノ如シ

配電線種別表

線別	品質	形状	延尺	摘要
動力線 (主幹線用)	單心絕緣紙被覆鋼鐵裝地中電纜SWG十四番三十七本燃		三、五三〇三	五回線ニ區別シ各所要區域ニ配電ス
同 (起重機用)	同 SWG十六番十九本燃		九、三三〇	同上
同 (機軸及昇降機用)	同 SWG十六番七本燃		六、八六〇	同上
白熱燈線	共心鋼鐵裝地中電纜SWG十六番十九本燃		一、三六〇	六回線ニ區別シ各上屋、倉庫及事務所ニ點火ス
弧光燈線	單心鋼鐵裝地中電纜SWG十九番七本燃		三、七三八五	八回線ニ區別シ各上屋、倉庫及事務所ニ點火ス 直列シ點火スルモノ七線五十個おるとふれ む直列シ點火スルモノ一線

電線敷設ノ延長三千八百四間五分總工費金九萬貳千貳百五拾參圓九拾錢ニシテ平均一間當工費ハ金貳拾四圓貳拾四錢九厘トス其ノ内譯左ノ如シ

電線路工事費

名稱	數量	工費	一間當平均工費
電線路築造	三八〇四五	三〇、九八〇・一七三	八・二四三

名稱	數量	工費	一間當平均工費
電線及電線敷設	三八〇四五	六、二七三・七三八 九、二五三・九〇〇 一三、〇〇〇	一六・〇〇六 二四・二四九
計			

第六節 起重機及機軸

第一款 起重機

埠頭ニ定置起重機二臺可動起重機十八臺ヲ配置シ貨物揚卸用ニ供ス定置起重機ハ扛力五十噸及二十噸各一臺ニシテ可動起重機ハ扛力一噸半十二臺、五噸六臺トス而シテ二十噸定置起重機ハ汽力ニ依リ其ノ他ハ全部電力ヲ使用ス

(一) 五十噸定置電氣起重機 英國コゝわんす、せるどん會社製ニシテ左突堤頭部水深二十八尺繫船岸ニ据付ケ構造ハはんまゝ型ニシテ岸壁水平面ヨリ其ノ橫臂上軌條面迄ノ高ヲ八十六呎トス  
荷重ヲ釣揚クヘキ臂徑ハ最小二十二呎最大六十呎ニシテ最大臂徑ニ於テ優ニ五十英噸ヲ釣揚クル機能ヲ有シ試運轉ニ於テハ六十七噸迄ノ試驗ヲ行ヘリ其ノ電動機ハ直流直列捲ニシテ逆回轉ヲ爲シ得ル密閉式くれゝん型トス各種働作ノ速

度電動機實效馬力及一分間ノ回轉數左ノ如シ

區別	速度	馬力數		回轉數
		捲揚用	移動用	
捲揚用	七分間	七〇	四〇	五〇〇
移動用	四分間	三〇〇	一五〇	六〇〇
回轉用	四分間	一五〇	一五〇	六〇〇

本機基礎ハ潛水函ヲ使用シ海底岩盤上ニ高十六尺五寸ノ場所詰混凝土ヲ施シ其ノ上部ニ潛水函ヲ安置シ函内全部混凝土ヲ填充シ函上更ニ埋立地上五寸ニ達スル混凝土ヲ施シ内部ニハ軌條ヲ挿入シ四隅ニ起重機脚部取付用ぼゝるとヲ埋込ミタリ

(二)可動電氣起重機

各繫船岸ニ配置セラレ軌間十三呎六吋ノ軌道上ヲ移動シ其ノ中間鐵道上ヲ往復スル貨車及機關車ヲシテ起重機臺下ヲ通過セシム起重機主體ハ臺車上ニ取付ケラレ荷重ノ捲揚及回轉動作ニハ各獨立シタル電動機ヲ備ヘ荷重ヲ釣リタル儘全回轉ヲ爲シ得ヘク臺車ハ四輪ヲ有シ四人ノ手動力ニ依

リ軌道上ヲ容易ニ移動セシムルコトヲ得セシム各種動作ノ速度其ノ他ノ要項左ノ如シ

名稱	員數	抵抗力	速度		捲揚用		回轉用		動力機		製造所
			捲揚(一分間)	回轉(一分間)	馬力	回轉數	馬力	回轉數	馬力	回轉數	
一噸半可動起重機	二	一噸半	一五〇	四〇〇	二五〇	五三五	五〇	六三五	—	—	獨國べんらーたー、ましーねん、ふあぶりつ
同 上	同	同	一八〇	三三〇	二六五	四〇〇	五九	五四〇	—	—	東京 黑板工務所
五噸可動起重機	四	五噸	一〇〇	四〇〇	三五〇	五六五	八〇	七五〇	八	七五〇	獨國べんらーたー、ましーねん、ふあぶりつ
同 上	同	同	七五(副)	三五〇	四一五	三六五	九一	四五五	—	—	東京石川島造船所

備考 五噸可動起重機四臺ハ各動臂裝置ヲ有シ二臺ハ各抵抗力七噸半ノ副捲裝置ヲ備フ

電動機ハ總テ直流二極直列捲ニシテ逆回轉ヲ爲シ得ル密閉式くれーん型トシ之んとろーらーハ捲揚及回轉ヲ一ノ把手ニ依リテ同時ニ爲シ得ルゆにざあーさる型ヲ用ヒ夜間操業ノ爲メ白熱電燈ヲ取付ケ起重機内電線ノ接續ハ二心入特別可

撈鍍裝電纜ヲ用ヒ其ノ一端ニ取付ケラレタルぶらぐすゐちニ依リ繫船岸ニ配置セルれせぶてゝくるト聯絡シ他端ハ脚部ニ裝置スルすりっぶりんぐニ連ネ更ニ臺車上ノすりっぶりんぐヲ經テ配電盤ニ達セシム

(三) 二十噸定置汽力起重機 工事中混凝土方塊積卸ニ使用セシモノニシテ英國すとさーど、えんど、びつと會社ノ製造ニ係リ樞軸ヲ中心トシ自由ニ回轉シ且臂ヲ上下セシムル裝置ヲ備ヘ機ノ中心ヨリ二十呎ノ距離ニ於テ二十噸、三十噸ノ距離ニ於テ十噸ノ重量ヲ捲揚ルコトヲ得

電氣起重機工費總額金貳拾九萬六千貳百九拾四圓拾五錢參厘ニシテ其ノ内譯左ノ如シ

起重機工事費

區別	員數	工費	一臺當平均工費	摘	要
五十噸定置電氣起重機	一	內 一八、五三三〇 五、四八〇〇	一〇、八五五三〇	基礎工事ハ直營施工据付及組立ハ東京石川島造船所請負	
一噸半可動電氣起重機	二	內 九、三三三〇 一、七八七五	九、〇三二二〇	組立ハ直營施工	

同 五 同	噸 噸 噸	上 上 上	計
一	四	二	一
九、九六五〇〇〇	五、七〇三三三	二五、七二〇〇〇	內 二九六、二九四、一五三 五、六、一七五
九、九六五〇〇〇	一三、一七五五七八	一一、八六〇〇〇〇	一五三、五八三三三八
組立ハ東京黒板工務所請負	組立ハ直營施工	組立ハ東京石川島造船所請負	

備考 五十噸定置電氣起重機基礎工費中岸壁ヲ構成スル分ハ岸壁費ニ算入セルヲ以テ之ヲ含マス又二十噸定置汽力起重機ノ價格金壹萬六千九百貳拾五圓七拾六錢ハ工事用器械費ヨリ其ノ据付費ハ同雜工事費ヨリ支出セリ

第二款 豎軸轉轆

電氣豎軸轉轆ハ十噸二臺、一噸十五臺計十七臺ニシテ十噸ノモノハ船舶ノ繫留ニ際シ其ノ繫索ヲ捲キテ本船ノ運動ヲ補助シ一噸ノモノハ鐵道貨車操縱ノ用ニ供ス

十噸轆轤ハ英國すとさーど、えんど、びつと會社製ニシテ機械裝置ハ完全ナル防水的鑄鐵函内ニ納メテ地中ニ埋設シ地上ニハ突出スル二段構造ノ轆轤頭ヲ有シ電動機回轉數及齒車裝置速度ノ増減ニ依リ五種ノ働作ヲ爲サシム

區別	一分間ノ速度	索引力	電動機ノ回轉數
小徑頭ヲ使用スル場合	一五呎	一〇〇噸	三五〇
大徑頭ヲ使用スル場合	一五〇	一〇	五〇〇
	六〇	二五	五〇〇
	七〇	三〇	五〇〇
	三〇	五〇	五〇〇

一噸轆轤ハ英國あつぷるびーす會社製ニシテ一分間百五十乃至百八十呎ノ速度ニ於テ轆轤頭ヨリ直接鋼索上ニ一噸ノ索引力ヲ與フル機能ヲ有シ鐵函内機械裝置ハ地中ニ埋設シ地上ニハ轆轤頭部ノミヲ露出セシム  
電動機ハ孰レモ直流密閉式ニシテ十噸ノモノハ四極複捲二十馬力一噸ノモノハ

四極直捲十六馬力回轉數六百ニシテ總テ自動的電磁制動器ヲ備ヘ踏挺ニ依リ働作セシム  
工費總額ハ金四萬千九百五拾八圓五拾八錢四厘ニシテ十噸轆轤一臺當平均工費金四千七百五拾壹圓九拾壹錢五厘一噸轆轤一臺當平均工費金貳千百六拾參圓六拾五錢トス

### 第七節 雜設備

#### 第一款 事務所

新港諸般ノ事務ヲ處理スヘキ事務所ヲ萬國橋際及右突堤中央部ニ設ケ構造ハ實用ヲ主トシ一切ノ粉飾ヲ避ケタリ

右突堤中央事務所ハ煉瓦造すれいと葺三階建ニシテ建坪二百七十坪五合一勺軒高五十九尺六寸ト爲シ其平面ハ三角形敷地ノ形狀ニ倣ヒ建築様式ハ主トシテゴシック式ニ則リ居室ノ配置ハ一階ニ於テハ西側面ニ表玄関、東側面ニ裏玄関ヲ設

ケ中央部三角形ヲ公衆溜ト爲シ硝子張天井ニヨリ採光セシメ溜室ノ三方ハ主トシテ事務室ヲ配リ受付臺ヲ連設シ二階及三階ハ事務室、會議室、應接室等ヲ設ケ東側各事務室ハ外航船及荷扱關係者ノ爲メ貸事務室ト爲ス計畫ニシテ裏玄関ヨリ出入シ各室單獨ノ使用ニ便ナラシメ特別應接室ハ貴賓ノ休憩ニ充ツルヲ目的トシ質實ナル裝飾ヲ施シタリ

側壁及間仕切壁下ハ杭打混泥土地形ニシテ壁體ハ煉瓦積ト爲シ側壁五通、間仕切壁四通ノ締聯鐵ヲ積込ミ各窓及入口迫持中心ニハ開止メ金物ヲ積入レ玄関段石、同巾木石、地覆石等ニハ花崗石、窓臺石、窓入口楣石、蛇腹石等ニハ相州白丁場石ヲ用ヒ公衆溜周圍ハ列拱トシ煉瓦壁要部中心ニ鋼柱ヲ建込ミ鋼材ヲ架渡シ補強セシメ上部とらっすハ鋼材ヲ組立テ鋼柱上ニ架渡セリ

一階廣間、公衆溜、二階食堂、洗面所等ノ床ハ混泥土床ニシテ床面ヲ人造石又ハ敲床ト爲シ其ノ他各階各室ノ床ハ全部木造板張ト爲セリ又一般小屋組ハ木造ニシテ松又ハ米國松ヲ使用シ二雙束小屋ニ組立テ屋根平地ハ裏板張ノ上ニあすふあると、ふえるとヲ敷キすれいと茸ト爲シ各塔屋屋根、各屋根窓及公衆溜上部金網入硝

子板葺ノ周邊ノミハ銅板ヲ以テ被覆シ各塔屋頂上ニハ避雷針ヲ設ケタリ

表階段ハ樺材其ノ他ノ階段ハ鹽地材又ハ米松材ヲ用ヒ建具ハ重要部室ノミ樺材檜材ヲ使用シ其ノ他ハ總テ杉又ハ樺材製ト爲セリ又各室ノ天井及大壁等ハ白漆喰塗ニ仕上ケ特別應接室其ノ他重要ナル部分ニハぢすてむばあ若ハてゆれすこヲ塗り建具階段其ノ他ノ雜作類ニハ總テペンキ或ハわにす塗り施シ各室ニハ十六若ハ三十二燭光電燈ヲ配置シ採煖裝置ハけるん式瓦斯煖爐ヲ使用セリ

萬國橋事務所ハ煉瓦造すれいと茸二階建ニシテ建坪五十八坪二合五勺軒高二十三尺七寸餘ヲ有シ敷地地盤ノ高差ヲ利用シ建物正面ニ於テハ公道ヨリ直ニ階上床ニ交通セシメ階下ハ半地階ノ構造ト爲シ側壁周圍ニ乾濠ヲ廻ラシ階上ニ検査場、事務室等ヲ設ケタリ

本工事中右突堤中央事務所ハ明治四十四年八月起工大正三年五月竣功シ萬國橋際事務所ハ大正二年二月起工同三年三月全部完成セリ總工費金拾八萬千貳拾貳圓餘ニシテ建坪一坪ニ對スル工費ハ右突堤中央事務所金六百拾貳圓餘萬國橋際事務所金貳百六拾七圓餘トス其ノ内譯左ノ如シ

區別	坪數	基礎及水	煉瓦積工及鐵骨木組及屋根	建具雜作	泥工塗師	瓦斯供給裝置	電燈及給水其ノ他	合計	一坪當工費
右突堤中央事務所	二〇五坪	三、一〇、九七六	三、八五、五三三	三、〇四、四〇〇	七、五〇、一七〇	四、〇〇、七八〇	五、〇八、四〇八	二五、〇八、〇六四	一、二二〇
萬國橋際事務所	五、二五	三、四、三一九	三、五九、〇〇〇	三、〇四、四〇〇	八、一〇、〇〇〇	—	四、五、七九〇	一五、五、〇〇〇	二、九七六
計	三、八七六	六、五五〇、一七〇	七、四四、五三三	六、〇八、八〇〇	一五、六〇、一七〇	四、〇〇、七八〇	九、五四、一九八	四〇、〇二、〇六二	一〇、三三六

第二款 見張所其ノ他

構内所要ノ位置ニ見張所、便所、塵芥溜及燒棄竈ヲ設ケ木造又ハ煉瓦造トシ其ノ總建坪六十五坪六合三勺トス  
 本工程ハ明治四十三年九月起工大正三年九月全部完成セリ總工費金壹萬五千貳拾圓餘ニシテ其ノ内譯左ノ如シ

見張所其ノ他工費

名稱	棟數	建坪	工費
木造見張所	六棟	六・二六	一、七七七・九五二

名稱	棟數	建坪	工費
煉瓦造公衆便所	五	四五・九八	一、一八四・三一四
塵芥溜	三	八九・五	九三二・〇七八
燒棄竈	一	四・四四	一、二二六・〇九〇
計	九	一五〇・九六	一、五〇二・四三四

第三款 水道

水道ハ萬國橋際横濱市既設水道鐵管ヨリ左右兩突堤ニ分岐シ埋立地全般ニ亘リ埋設シ幹線ハ徑八吋及六吋各支線ハ徑四吋鐵管ヲ用ヒ岸壁繫留船舶ニ對シテハ各二個乃至四個ノ給水栓ヲ設ケ水弁並量水器ヲ配置シ隨時各船給水量ヲ計量シ得ルノ裝置ト爲シ上屋倉庫其ノ他各建物附近ニハ四十間乃至六十間毎ニ消火栓ヲ配置シ非常火災ノ用ニ供ヘ水道管ニハ適宜水弁ヲ配置シ水量ノ加減ヲ爲サシメ構内ノ要所ニハ公衆衛生ノ爲メ共用栓及牛馬用水槽ヲ設ケタリ  
 本工程ハ水道鐵管延長二千五百九十間給水栓三十六個量水器十四個消火栓十九

個、水弁四十三個、共用栓十基、牛馬用水槽二個、道路踏切用暗渠延長五十間ニシテ暗渠ヲ除クノ外全部横濱市役所ニ依囑施行シ明治四十一年十月著手同四十三年三月完成セリ其ノ總工費金四萬貳千四百貳拾八圓五拾九錢參厘ニシテ水道敷設延長一間ノ平均工費ハ金拾五圓六拾貳錢暗渠築造一間ノ平均工費ハ金參拾九圓四拾參錢貳厘トス

### 第八節 曳船用汽船

繫船岸ニ出入スル航洋船曳船用トシテ建造セシ鋼製雙螺旋汽船ハ造船規程ノ重構船ニ則リ第三級船トシテ曳船専用ニ適スル様製造セルモノニシテ重要寸法ヲ舉クレハ左ノ如シ

曳船重要寸法表

船名	長(垂線間)	幅(肋骨外面間)	深(もつと)	平均喫水	總噸數	機關
海王	一一〇呎	二五呎	一二呎	九五呎	二五二・三七噸	三聯成冷汽式八百馬力
海神	九四呎	二四呎	一一呎	八五呎	二〇五・六六噸	同 上六百馬力

船體ハ鋼製ニシテ四個ノ支水隔壁ヲ設ケ機關室ノ圍壁ハ甲板上高約六尺トシ海王ニハ圍壁後端、海神ニハ機關室中央通風筒ニ曳船用鈎ヲ鉤著シ適當ニ肋材ヲ配置シテ充分補強ヲ爲シ曳船ニ際シ其迫力ヲ船體ニ配布シ得ル構造トセリ  
 汽機ハ船用逆立併動三聯成表面冷汽機ニシテ三個ノ汽筒ヲ有スルモノ二臺ヲ据付ケ冷汽機ハ主汽機ノ側ニ各一個ヲ配備シ排氣唧筒、給水唧筒、排油唧筒ハ直接主汽機ニ依リ働作シ循環唧筒ハせんとりふゆゝがる式ノモノ各一臺ヲ具ヘ獨立ニ働作スル装置ト爲シ總テ機關檢査規程ニ則リ常用汽壓百八十封度ニ耐ヘ得ヘク回轉數百四十ノトキ海王ハ約八百馬力、海神ハ約六百馬力ヲ發生セシム  
 電燈用發電機ハ海王約五きろわつと海神約三きろわつとヲ有スル直流岐捲發電機電壓海王百ウゑると、海神百十ウゑるとニシテ直立單筒汽機ヲ直結シ獨立ニ運轉セシメ海王ニハ徑鏡十四吋二千燭光ノ探海燈一基ヲ附屬セシム又港内火災防備ノ爲メ消火用唧筒各一組ヲ具ヘ海王ハ水頭二百呎ノ壓力ニ對シ一時間二萬五千がろん、海神ハ水頭百五十呎ノ壓力ニ對シ一時間一萬二千がろんヲ送水セシム汽鐘ハ船用筒形多管式ニシテ海王ハ鐘徑十一呎半鐘長十呎トシ二個ノ爐及燃燒



室ヲ有スル汽罐二基ヲ具ヘ海神ハ罐徑十三呎罐長十呎半トシ三個ノ爐及燃燒室ヲ有スル主汽罐一基ト罐徑五呎罐長十呎ノ鑿形橫管副汽罐常用壓力百封度ニ基ヲ裝置セリ

海王ハ明治四十四年十一月浦賀船渠株式會社ニ於テ海神ハ大正二年四月橫濱船渠株式會社ニ於テ製作セリ其ノ工費總額金拾六萬貳千八百拾五圓五拾錢ニシテ内海王ハ金八萬八百六拾五圓五拾錢海神ハ金八萬九百五拾圓トス

## 第五章 棧橋改築

### 第一節 棧橋

稅關在來棧橋ノ總延長ハ千八百九十五呎ニシテ其ノ主體千五百呎ハ幅員六十二呎半兩側水深二十六尺ヲ有シ主トシテ旅客船繫留ノ用ニ供セラレ長三百四十五呎ノ棧橋及長五十呎ノ鐵橋ハ幅員三十九呎ヲ有シ陸地ニ接續シ棧橋通路トシテ使用セラレタリ

棧橋主體ノ構造ハ橫列五本建鐵柱上ニ十八吋工形展鐵ヲ載セ檜桁十五通ヲ架シ橋面ハ厚四吋檜板ヲ間隔一時ニ釘著シ棧橋通路ハ鐵柱三本建ニシテ鐵梁上十一通ノ檜桁ヲ架渡シ橋面ハ檜板ヲ張り詰メ各鐵柱ハ長四十七呎半乃至六十三呎直徑十二吋厚一時四分ノ一鑄鐵製ニシテ下部ニ直徑五呎ノ螺旋杓ヲ取付ケ間隔各十五呎毎ニ建込ミ繫鐸及綾構材ヲ以テ相互連結セリ

此ノ棧橋改築ノ計畫ニ當リ現在鐵柱ノ耐荷力ヲ試驗セシニ二十二噸乃至二十五

噸ヲ加フルトキハ下部螺旋杵ノ破損沈下スルモノアルヲ發見セリ然レトモ經費ノ關係上橋脚全部ヲ改築スルコト能ハサルヲ以テ其ノ試驗成績ヲ基礎トシ兩側擴築部ニ於テハ等布活荷重一平方呎ニ付百五十封度補修區域ハ同百封度ヲ限度トシ設計セリ

改築ノ概要ハ埋立區域内ノ鐵橋及棧橋ヲ撤去シ頭部鐵柱四列ハ棧橋主體ト絶縁シ防衝工用ニ供シ殘餘百十列延長千六百三十二呎ハ橋脚及上部ニ補修工事ヲ施シ棧橋通路橫列三本建ノ部分ハ兩側ニ鐵柱各一本ヲ増シテ五本建幅員十間半ト爲シ船舶繫留ニ使用スル延長二百二間ハ左右各二本宛ノ丸鋼柱又ハ鐵筋混凝土圓柱ヲ増設シ各列九本建幅員二十三間ニ擴メ上屋建設區域ノミハ舊鐵柱縱列中間ニ上屋柱下鋼柱ヲ建テ其ノ橫列線ニ擴築用鋼柱ヲ建設セリ繫船區域ノ増設橋脚ハ補強ノ爲メ鋼柱三本毎ニ混凝土圓柱二本ヲ配置シ鐵柱相互及混凝土圓柱トハ鋼製繫桿及綾構材ヲ以テ連結シ圓柱水面上ハ鐵筋混凝土支繫材ヲ用ヒ鐵筋相互ヲ緊結セシメタリ又上部橋面ノ構造ハ補修區域ニ在リテハ在來ノ鐵梁及桁木ヲ用ヒ敷板ハ二重張ト爲シ擴築區域ニ在リテハ鋼梁ヲ架渡シ工形鋼ヲ取付ケ舊

棧橋ニ接スル左右各十八呎ハ二重板張ト爲シ其ノ外側左右各二十呎半ハ鐵筋混凝土床ヲ設ケ厚一吋ノぐらのりしつゝヲ施シ橋面ハ棧橋中心ヨリ左右各二百分一ノ勾配ヲ保タシメ繫船柱ハ混凝土圓柱上ニ建設シ防舷工ハ繫船區域ノ兩側ニ設置シ鐵道ハ棧橋西側ニ敷設シ稅關構内既設線路ニ聯絡セシメタリ

### (一) 棧橋補修

埋立區域内ニ在ル鐵橋及棧橋橋脚十列ノ鐵柱ハ其ノ周圍ヲ必要ノ程度ニ浚深シ起重機ヲ用ヒ撤去シ増柱又ハ破損柱ノ補足用ニ充テ補修工事ハ棧橋通路ノ内三本建十二列ヲ五本建ト爲シ上屋兩側及二階家中央柱下ニ於テ在來鐵柱ノ中間新ニ直徑六吋長六十呎鋼柱ヲ増設シ直徑六吋ノ螺旋杵ヲ取付ケ其ノ他ノ橋脚ハ破損柱ノ取替ニ留メタリ鐵梁ハ棧橋通路兩側ニ十六呎三吋ノモノヲ架シ上屋建設區域ハ舊鐵柱上ノ兩側鐵梁ヲ二十二呎ト爲シ特ニ各七呎宛ノ張出ヲ設ケ其ノ他ハ全部十五呎鐵梁ヲ使用シ一列上ノ梁ハ鋼板ヲ添へ相連結セリ桁木ハ普通十三通ヲ配置シ上屋内及棧橋通路ハ十四通ニ増架シ敷板ハ全部二重張ニシテ下敷板ハ棧橋ノ方向ニ約三十三度ノ角度ヲ以テ二寸間隔ノ疎張ト爲シ上敷板ハ棧橋ト直角ニ密張ト爲セリ又各梁桁綾構材頭蓋敷板其ノ他ハ腐朽破

損セルモノヲ除キ修理加工ノ上全部使用セリ

### (二) 棧橋擴築

繫船區域延長二百二間ハ幅員取擴ノ爲メ縱十五呎横十八呎及十六呎ノ距離間隔ヲ存シ鋼柱百九十四本鐵筋混凝土圓柱百三十六本ヲ建設シ圓柱ハ四基ヲ一組ト爲シ約七十五呎毎ニ配置シ船舶ノ接觸ニ耐ヘシム鋼柱ハ直徑六吋半ニシテ外側長六十八呎内側長六十五呎ト爲シ各螺旋杵直徑ハ外側六吋三吋内側六吋ノモノヲ使用シ根入約二十七呎ヲ捻込ミ圓柱ハ所定ノ水深ニ壺掘ヲ爲シ松杭九本ヲ打込ミ鐵筋混凝土杵ヲ据付ケ底部ニ基礎混凝土ヲ施シ鐵筋混凝土圓筒ヲ建テ杵及圓筒内ニ混凝土ヲ填充シ古軌條ヲ埋込ミ基礎杭及圓筒ヲ接合セシメ圓筒上部八呎ノ間ハ鐵筋ヲ露出セシメ二尺角鐵筋混凝土支繫材ヲ取付ケ相互鐵筋ヲ結合シ場所詰混凝土ヲ施シ四基圓筒ノ結合ヲ完全ナラシメ上部ニ鑄鐵製梁受ヲ取付ケタリ此ノ混凝土杵ハ高十一呎厚六吋鈞鐘形ニシテ外徑上部八呎下部十一呎ヲ有シ鐵筋ハ丸鋼及平鋼ヲ縱横ニ組合セ混凝土圓筒ハ上部外徑四呎厚六吋下部外徑五呎厚一呎ニシテ徑一吋四分ノ一丸鋼十二本ヲ縱筋ト爲シ九時間隔ノ螺旋形ニ平鋼ヲ取付ケ棧橋外側ニ使用スルモノ長四十五呎内側ニ使用

スルモノ長四十三呎ト爲シ上部八呎ハ鐵筋ヲ露出セシメ現場据付後混凝土ヲ施工セリ

上部板敷區域ハ橋脚横列上ニ高二吋鋼板梁ヲ架シ鐵道敷設區域ハ五通其ノ他ハ四通ノ高十二吋工形鋼ヲ前後鋼梁ニ鈎綴シ受木ヲ取付ケ二重板張ヲ爲シ混凝土床ノ區域ハ高二十四吋鋼板梁ヲ棧橋外側四呎半掛出シニ架渡シ渡橋用軌道ヲ敷設スル區域ハ六通其ノ他ハ五通ノ高十二吋工形鋼ヲ鈎綴シ徑二分ノ一吋及四分ノ一吋丸鋼ヲ縱横ニ配列シ厚六吋鐵筋混凝土床ヲ作りぐらゝのりしつゝ厚一吋ヲ施シ長十五呎幅二十呎七吋ヲ一區劃トシ隣區トノ間隙ニハ瀝青ヲ填充シ外縁保護ノ爲メ棧橋外側ニ山形鋼ヲ取付ケタリ

本工事各部ニ使用セシ鐵筋混凝土及水中混凝土ハ全部一、二、四ノ配合ト爲セリ棧橋上ノ鐵道ハ第二號上屋前面ハ單線其ノ他ハ複線ニシテ棧橋西側ニ沿ヒ敷設シ渡橋移動用軌道ハ第一號上屋兩側及第二號上屋東側ニ敷設シ各軌條上端ハ橋面ト同高ト爲シ護輪用山形鋼ヲ取付ケ轉轍器及轍又四組車止二個ヲ設置セリ

### (三) 繫船設備

繫船直柱ハ棧橋外側ヨリ約十九呎ヲ距テ、鐵筋混凝土床上ニ十

四個頭部防衝工中ニ二個特設混凝土圓柱上ニ二個合計十八個ヲ設備シ繫船曲柱ハ東子形ニシテ距離約七十五呎毎ニ棧橋外側ニ沿ヒ混凝土床土上ニ三十四個ヲ配置セリ頭部防衝工ハ舊棧橋ノ前端鐵柱四列ヲ利用シ鑄鐵柱及鋼柱ヲ増設シ各柱相結合セシメ棧橋ヨリ十五呎ヲ距テ、獨立セシム

防舷工ハ擴築區域兩側各橋脚列ニ倣ヒ海底ニ鍔板ヲ据付ケ鐵筋混凝土抗ヲ建込ミ棧橋ニ沿ヒ杭ヲ挾ンテ上下二段縱通材ヲ架シ上段縱通材ハ棧橋ト鐵鎖ニテ結付ケ混凝土杭毎ニ棧橋鋼梁トノ間ニ包裝型緩衝彈器ヲ裝置シ混凝土圓柱前面ハ別ニ混凝土杭ニ二通ノ橫木ヲ取付ケ水中下部橫木ト圓柱トノ間ニ開放型彈器ヲ配置シ且兩圓柱間中央ニ縱木ヲ増シ上端ニ包裝型彈器一個ヲ増置シ杭ノ外側ニハ長十八尺松角材十本ヲ取付ケ防舷材ト爲セリ此ノ鐵筋混凝土杭ハ長六十呎幅十六吋厚十四吋ニシテ徑四分ノ三吋丸鋼十二本ヲ縱筋トシ四分ノ一時丸鋼ヲ螺旋形ニ取付ケ下端ヨリ九呎ノ位置ニ高四吋ノ凸起ヲ作り鍔板受ト爲シ鍔板ハ長五呎幅三呎厚八吋ノ鐵筋混凝土板ニシテ中央ニ長十六吋半幅十四吋半ノ孔ヲ存シ緩衝彈器ハ包裝型ニハ複卷發條四個又ハ二個開放型ニハ發條一個ヲ裝置セリ

本工事ノ内補修工事ハ大正元年八月擴築部工事ハ同二年六月著手シ同六年七月全部完成セリ總工費金九拾參萬五千八百貳拾七圓參拾壹錢七厘ニシテ橋面一坪ニ對シ金千七百參拾八圓八拾七錢四厘ニ相當ス其ノ内譯左ノ如シ

棧橋工事費

工種	細目	數量	工費	平均工費	摘要
棧橋橋脚	棧橋前面浚深	二、三三八〇 <small>面</small>	五、五七、六四〇 <small>円</small>	〇・五〇三 <small>円</small>	
	鐵橋及棧橋撤去	三、六一七 <small>冊</small>	一、一六七、九五六	七六・二九五	
	橋脚補修	二、七三 <small>冊</small>	一、三、九六六 <small>冊</small>	四八八・八九六	
	鋼柱	一、九六 <small>本</small>	一、九、六〇一 <small>冊</small>	九八二・七〇五	
	混凝土圓柱	一、四四	三、八、二七、四八三	一、五八五・一九一	
	曳船費		三、三、四、四六		
			一、三、三、七、一六六		
			二、〇、〇、七、〇三九		
			四、一、六、〇〇〇		
			八、二、四、二八四		
棧橋上部	上部補修	二、七、六、八二 <small>面</small>	二、五、七、五、四〇	二、九、七、七、二	

合計	繫船設備					
	曳船費	防衝工	防舷工	繫船柱	曳船費	軌條敷設
五、三八一・八				直柱一八個 曲柱三十四個 四〇個	五七一九	一、三九五・〇
				内		内
				一、四六六・三六	六、五六一・八七一	六、四三三・五六
				六、四一六・七三	五、八五〇・三〇	七、一八〇
				八、八七三・六〇	六、二二二	五、六一二・七
				三、〇四〇・〇〇	一一、四七四	六、三三三
				六、〇三九・七		
				九、〇二九・七		
				二、〇九八・七		
				三、四七五・四〇		
				二、七七八・〇		
				二、六八五・二五		
				九、五八三・三三		
				四、五九六・九四		
				一、七三六・二八		
				一九三・三四		
				一、七三八・八四		
					軌條ハ在來品	
					内直柱十六個ハ在來品	
						一一六

第二節 上屋

上屋ハ木造二階建二棟總延坪千六百六十八坪三合ニシテ兩上屋ノ間隔ヲ四十一間ト爲シ棧橋ノ外端ヨリ各六間半ヲ距テ、棧橋中央部ニ建設シ桁行各五十六間

餘梁間各十間ニシテ階下ヲ貨物置場ニ階上ヲ旅客及送迎者ノ待合室ニ充テ階下正面ニ車寄ヲ設ケ大入口ニ接シ表階段ヲ設ケ背部ニ裏階段、便所洗面所ヲ配置シ階上便宜ノ場所ヲ區劃シ事務室、電信電話室及酒場ヲ設ケ第二號上屋ニハ階下表階段ニ面シ左右ニ旅具検査室及事務室ヲ設ケタリ建坪ハ第一號上屋階上二百七十八坪餘階下五百五十六坪餘第二號上屋階上三百七十七坪餘階下五百五十五坪餘ニシテ其ノ載貨耐力ハ階上床等布荷重每平方尺八十封度階下床同百封度トス

上屋ハ一部二階建ニシテ軒高棧橋床面ヨリ軒桁上端迄二十八尺八寸木骨切妻造西洋小屋組ト爲シ中央ニ裸柱ヲ建テ屋根ハ第一號亞鉛鍍波形成鐵板葺勾酌三寸第二號淺野すれト葺勾配四寸採光天窗ハ金網入硝子板ヲ嵌込ミ屋上ニ四個ノ避雷針ヲ建設シ外部出入口ニハ木製扉ヲ釣込ミ欄間明取り窓ヲ設ケ内外ベんき塗ヲ施シ階下床ハ棧橋床面ヲ利用シ中心線ニ於テ三寸ヲ高メ緩斜面ヲ付シ橋面ニ接続セシメタリ

上屋兩側ニハ可動式鐵製渡橋又ハ木製昇降臺ヲ備ヘ任意ノ位置ニ於テ待合室ト

本船トノ交通ヲ便ナラシメ上屋内外ニハ白熱電燈ヲ配置セリ  
 側壁間仕切壁及車寄柱下ハ棧橋桁上ニ土臺ヲ架設シ中央荷持柱下ハ棧橋鐵柱頭  
 蓋上ニ鐵杏ヲ据ヘ木組用材ハ土臺檜軸部及小屋組松又ハ米國松ヲ用ヒ土臺又ハ  
 鐵杏上ニ軸柱ヲ建テ入口欄間窓上下ノ差物ハ左右柱毎ニ柄指シ短冊鐵物ヲ以  
 テ蔭止ト爲シ枕梁及二階梁架設後階上床根太間柱筋違及地廻桁ヲ取付ケ階上中  
 心線ニ沿ヒ二階梁ヲ通シテ階下荷持柱當リヘ小屋荷受柱ヲ建テ小屋材ヲ架渡シ  
 待合室大廣間ハ兩側全部ヲ出入口ト爲シ天井ハ小屋裏ニテ中央部ヲ高ク丸形ト  
 爲シ床ハ二重板張ニシテ便所及洗面所ニハ鐵筋混凝土床ヲ設ケタリ  
 電燈用地中電纜ハ棧橋床下ヨリ引キ登セ屋内架空電線ニ接續シ適當ノ開閉器及  
 安全器ヲ取付ケ又水道管ヲ分岐シテ便所其他ニ導キ消火栓用消防具各一組ヲ屋  
 外ニ設備セリ  
 鐵製渡橋ハ有蓋可動構及架橋ヨリ成リ手働移動裝置ニ依リ可動構ハ軌間十四呎  
 八吋四分ノ一ノ軌道上ヲ架橋ハ可動構上ヲ滑動シ本家ト繋留船トノ交通ヲ便ナ  
 ラシメ木製昇降臺ハ可動木製臺ニ階段ヲ付シ適當ノ位置ニ於テ本船トノ間ニ渡

橋ヲ架シ棧橋ヨリノ昇降ニ便ナラシム

本工事ノ内第二號上屋ハ大正四年七月第一號上屋ハ同五年五月起工シ同六年十  
 一月全部完成セリ總工費金拾四萬九千九百八拾九圓餘内上屋ニ要シタル工費金  
 拾參萬九百拾壹圓六拾六錢ニシテ延一坪ニ對スル平均工費金七拾八圓四拾七錢  
 トス其ノ内譯左ノ如シ

上屋工事費

種別	第一號			第二號		
	建坪又ハ員數	工費	平均工費	建坪又ハ員數	工費	平均工費
上屋	八三三・六三	八、四七九・三〇四	九七・六二四	八三三・六三	四九、四三三・三五六	五九・二九四
基礎木組及屋根	八三三・六三	六六、一三九・四七三	七九・二四五	八三三・六三	三八、九八・三二二	四六・七三一
建具	八三三・六三	九、八九〇・四〇二	一一・八五〇	八三三・六三	五、九四四・一七一	七・一三〇
塗師及泥工	八三三・六三	三、一六〇・九三九	三・七八七	八三三・六三	二、七六五・六一〇	三・三二七
電燈其他附屬設備	八三三・六三	二、二八八・四九三	二・七四三	八三三・六三	一、七六四・二六三	二・一六
渡橋及昇降臺	二	一一、八五二・六四三	六、四二五・八二三	一	六、二二六・二〇八	一

合	計	内 九四、三三〇・九四七	内 五五、六五八・四四四
---	---	--------------	--------------

一一〇

### 第三節 埋立及陸上雜設備

#### 第一款 埋立、護岸及浮棧橋

埋立區域ハ舊棧橋ノ陸接部長幅各三十六間及稅關監視部前面長三十二間幅十二間餘面積千九百六十坪餘ニシテ高ハ朔望干潮面以上十二尺五寸海底ノ深ハ干潮面以下平均十一尺餘ナルヲ以テ埋立實積七千八百四十四坪運搬土量九千四百餘立坪ニ達セリ

本工程ハ明治四十五年七月著手護岸工事ノ進捗ニ伴ヒ順次施行シ埋立地ノ下層ハ港内浚渫土砂ヲ利用シ上層ハ土砂及土丹岩ヲ購入埋築シ大正二年七月全部完成セリ總工費金壹萬貳千七百六拾參圓壹錢參厘ニシテ其ノ内譯左ノ如シ

種別	數	量	工費	面坪又立一坪當工費
埋立面積		一、九六〇・九五 <sup>坪</sup>		六・五一〇 <sup>円</sup>

埋立實積	七、八四四・〇 <sup>立坪</sup>	内 一、二七六・三〇一 <sup>円</sup>	一・六二七
埋立土量	九四八四・五	内 一、二〇〇	一・三四四

**護岸石垣** 埋立地周圍護岸石垣延長百四十七間二分ニシテ東側ニ三箇所ノ階段ヲ設ケ浮棧橋ニ聯絡セシメ西側ニハ一箇所ノ階段ト長二十間ノ物揚場ヲ設ケ

浮船ノ荷揚並汽艇乗降者ノ便ニ供ス

施工區域海底ハ泥土ニシテ水深干潮面以下七尺乃至十四尺ニ達スルヲ以テ護岸石垣ハ割栗石ヲ以テ厚四尺ヲ被覆セル土丹岩堤ヲ基礎トシ袋詰混凝土ヲ敷キ方塊一段若ハ二段ヲ積重ネ面一尺四寸五分乃至一尺二寸控一尺八寸乃至一尺二寸ノ間知石ヲ八層布積ト爲シ笠石ヲ据付ケ長六間乃至十二間毎ニ區劃ヲ設ケ隣區ト絶縁セシメタリ物揚場ハ方塊上ニ間知石七層布積ノ石垣ヲ築キ干潮面上八尺八寸ノ點ニ於テ屈折シ幅十六尺勾配六ニ對スル一ノ緩斜面ヲ造リ面一尺五寸控一尺ノ張石ヲ爲シ繫船石柱ヲ配置ス又西側階段ハ物揚場ニ接續シ幅一尺厚六寸ノ切石ヲ用キ方塊上ヨリ積上リ二十一一段トシ内部ハ混凝土ヲ施シ中間ニ二箇所

ノ踊場ヲ設ケ東側階段ハ方塊上ニ六層布積ノ石垣ヲ設ケ干潮面上約九尺ニ達セシメ其ノ上部ニハ同心半圓形切石積七段ノ階段ヲ設ケタリ而シテ此ノ各種石積ノ背部ハ孰レモ場所詰混凝土ヲ施シ裏詰ハ割栗石ヲ施セリ  
 棧橋ニ接續スル部分ハ橋臺ニ兼用シ松杭二列ヲ打込ミ周圍ニ捨石ヲ爲シ杭上ニ幅七尺厚三尺ノ場所詰混凝土ヲ施シ其ノ上端ヲ干潮面上二尺四寸ニ止メ間知石面一尺四寸控一尺四寸ヲ布積ニ築キ頂點ニ笠石ヲ据付ケタリ  
 浮棧橋ハ東側階段三箇所前面ニ木造函船ヲ繫留シ四隅四本ノ杭木及二個ノ錘ヲ付シ其ノ位置ヲ定メ長四十八尺幅員九尺ノ鋼製構桁ヲ架シ階段ト聯絡セシム臺船ノ内一隻ハ稅關所屬在來品長十二間幅四間深五尺五寸喫水一尺七寸ヲ用ヒ二隻ハ長六十呎半幅十八呎半深五呎半喫水二呎半ニシテ潛水函用臺船ヲ改造使用セリ

本工程ハ明治四十五年七月著手シ大正二年七月全部完成セリ總工費金七萬四百七拾五圓參拾七錢五厘ニシテ其ノ内驛左ノ如シ

護岸及浮棧橋工事費

名稱	數量	工費	平均工費	摘要
護岸石垣	一四七二	內 五六、九〇三、三七三 九〇一、四五〇	三八六、五七二	
浮棧橋	三	內 一三、五七二、〇〇二 五、八二五、〇〇七 七〇、四七五、三三七 六、七二六、四七七	六、七八六、〇〇一	內一箇所ハ在來設備ヲ移轉セリ
合計				

第二款 道路、鐵道、弧光燈及水道

道路ハ稅關監視部前面ヨリ棧橋ニ至ル延長七十八間ニシテ在來鋪石ト接續スル爲メ鋪石及混凝土敷ノ混成路面ト爲シ片側ニ步道及雨水溝ヲ設ケ棧橋上ノ鐵道ニ聯絡スル複線軌道ヲ敷設シ物揚場附近ハ砂利敷ヲ施セリ  
 道路及鐵道敷設區域ハ十噸汽力修路機ヲ以テ大體ノ地固ヲ爲シ鋪石及混凝土敷ニハ砂利厚二寸ヲ敷キ再ヒ修路機ヲ以テ轉壓セシメ火山灰入混凝土厚四寸ヲ施シ鋪石敷ハ厚一寸ノ砂褥上ニ幅五寸厚四寸ノ花崗鋪石ヲ目地五分ニ配列シ膠泥ヲ填充シ混凝土敷ハ別ニ配合一、二、四ノ混凝土厚二寸ヲ打固メ既定ノ勾配ニ路面



ヲ築造セリ

上陸場通路ノ内中央ニ在ルモノハ幅員八間ノ花崗石敷其ノ他ハ幅員六間ノ混凝土敷トス歩道ハ厚三寸ノ砂利基礎上ニ砂褥ヲ設ケ道路ニ平行シテ煉瓦敷ヲ爲シ目地二分ノ間隙ニハ砂利ヲ填充シ綠石ハ花崗石及人造石ヲ据付ケタリ  
鐵道ハ税關構内既設線路ヲ延長シテ棧橋ニ接續セシムルモノニシテ床固ノ後碎石ヲ敷キ軌條ヲ敷設シ軌條間ハ幅一尺乃至一尺五寸厚三寸及五寸ノ花崗板石ヲ据付ケ軌條内側一部ニハ護輪用山形鋼ヲ取付ケタリ

本工程ハ大正五年十二月著手シ同六年九月全部完成セリ總工費金壹萬千五百八拾七圓四拾四錢六厘ニシテ其ノ内譯左ノ如シ

道路及鐵道工事費

名稱	數量	工費	面一坪又ハ間口當平均工費	摘要
道路	七五三三	內 一〇、一五九二七 九四七、七三一	一三四二九	
歩道	九〇二	內 六八四、四二五 二九〇、二〇〇	七五九六	

軌條敷設	數量	工費	摘要
計	七二六	七八七〇九四 內 一、五八七、四四六 九七六、七五一	一〇八四二 軌條ハ在來品

弧光燈ハ直流百ゾあると五あんべあ用えんくろすまるちぶる式ニシテ東京あ  
く燈製造所GE型ヲ用ヒ五個直列ニ連結シ棧橋陸端ニ五個棧橋上ニ十二個ヲ  
配置シ地上高三十尺ノ鑄鐵製圓柱ニ取付ケ自動開閉器及昇降裝置ヲ附屬セシメ  
地中電纜ハ地上約七尺ニ延長シ其ノ上部ハ二心入護謨被覆電纜ヲ用キ開閉器ニ  
導ケリ

配電線ハ全部地中線式ニシテ發電所ヨリ棧橋上屋ニ達スル幹線ハ白熱燈線、弧光  
燈線ノ共用ト爲シ上屋内ニ於テ各別ニ區分シ電纜敷設ノ爲メ埋立地内ハ鐵筋混  
准土函ヲ地下三尺ニ埋込ミ橋梁及棧橋下ニハ外徑三吋二分ノ一乃至四吋ノ鋼管  
ヲ使用シ電纜ノ接續分岐其ノ他ノ方法ハ埋立地陸上設備ト同一方法ニ依レリ  
本工程ハ大正四年五月著手シ同六年三月全部完成セリ總工費金貳萬五千六百九  
拾七圓六拾八錢ニシテ其ノ内譯左ノ如シ

弧光燈及配電線工事費

名稱	數量	工費	一箇所若ハ一間當平均工費
弧光燈及鐵柱	一七 <small>箇所</small>	六六〇四・三七三	三八八・四九二 <small>円</small>
電線路築造	五七三・〇四	四四七五・五一〇	七八一・〇
電線及電線敷設	一、四三一・〇〇	一四六一七・七九七	一〇・二二五
合計		內 二五、六九七・六八〇 二六六・九九〇	

水道幹線ハ税關東門既設水管ヨリ分岐シ棧橋第二號上屋ニ達シ兩上屋左右及棧橋先端ニ支線ヲ敷設ス水管内徑ハ幹線六吋支線四吋ニシテ埋立地内ハ地下約二尺五寸ニ鑄鐵管ヲ埋設シ棧橋ニ於テハ全部鋼鐵管ヲ用ヒ十呎乃至十五呎毎ニ鐵管鈎金物ヲ棧橋床下ニ裝置ス又橋上ニハ給水栓及量水器ヲ備ヘ船舶給水ノ用ニ供シ上屋附近ニハ消火栓ヲ設ケ阻水弁共用栓等ヲ配置ス  
本工事ハ水道管延長七百七十三間給水栓十六個量水器四個消火栓七個水弁六個

共用栓一個ニシテ全部橫濱市水道局ニ依囑シ大正四年九月著手棧橋上部工事ノ進捗ニ伴ヒ順次敷設シ同五年三月全部完成セリ其ノ總工費金壹萬四百參拾六圓四錢ニシテ水道管敷設延長一間當平均工費ハ金拾參圓五拾錢ニ相當ス

第六章 工事用機械船舶

海面埋立陸上設備及棧橋改築工事ニ使用セシ器具機械船舶ノ主要ナルモノヲ列  
舉スレハ左ノ如シ

器具機械船舶一覽表

名稱	摘要	製造者名	數量	代價	備註
浚 渫 機	ぶりーすとまんD型附屬 臺船共	機械 かりーすとまん會社 臺船 緒明 菊三郎	三 臺	五〇,一〇〇,〇〇〇	内一隻維持費へ組替
碎 岩 機	ろぶにつつ式碎岩重 十噸附屬臺船共	機械 ろぶにつつ會社 臺船 浦賀船渠株式會社	二 臺	九九,五六〇,五九三	同 上
潛 水 函	浮裝可動式附屬臺船諸機 械共	株式會社 東京石川島造船所	一 組	七八,六六八,一八五	函體ハ岸壁基礎ニ埋 設臺船二隻ハ浮橋 ニ使用
混 凝 土 混 合 機	めっせん式容量半立方 碼	すときーと、えんど、 びつと會社	三 臺	三,七二一,六七二	内一臺ハ維持費へ組 替
定 置 起 重 機	扛力二十噸	同 上	一 臺	一六,九二五,七六〇	陸上設備ニ使用
浮 裝 起 重 機	扛力二十噸附屬臺船共	機械 せそぶ、えんどあ つぶるびー會社 臺船 緒明 菊三郎 株式會社 東京石川島造船所	二 臺	七八,三五〇,三五四	内一隻横濱稅關へ保 管轉換
汽 艇	總噸(東雲丸十七噸三五 旭丸二十五噸〇四)	株式會社 東京石川島造船所	二 隻	二二,八五〇,〇〇〇	東雲丸維持費ニ組替

側 屏 土 運 船	積載量百噸	浦賀船渠株式會社	二 隻	三三,三〇〇,〇〇〇	
方 塊 運 搬 船	長五十三呎幅十六呎六吋 深四呎六吋	せそぶ、えんど、 あつぶるびー會社	五 隻	八,六二四,四六〇	内一隻維持費へ組替
方 塊 移 動 用 起 重 機	扛力二十噸軌間十三呎	えっち、げーぼーたー會社	三 臺	一八,三三〇,六四	内一臺神戸出張所へ 組替
小 機 關 車	重量約九千五百封度軌間 三呎六吋	かーねぎー會社	一 臺	五,五八八,三七〇	
六 十 封 度 軌 條	附屬品共	どこーびーる會社其他	二三五,七二	二二,九七四,七九八	鐵道敷設其他ニ使用 内四三、七四、四工事 材料ニ使用二〇、〇〇
經 便 軌 條	軌間五十「さんちめーと る」附屬品共	どこーびーる會社其他	一三八,四七	三三,六三八,六四五	維持費ニ組替
材 料 運 搬 車	各 種	どこーびーる會社其他 株式會社 東京石川島造船所	一七七,七臺	六,八九九,〇〇〇	内九臺維持費へ組替
混 合 機 用 發 動 機 關	指 示 三 十 馬 力	株式會社 東京石川島造船所	一 組	五,二九五,二七	
碎 石 機	ぶれーく 式	ふれざー、えんど、しやー るまー會社	三 臺	三,六〇〇,〇〇〇	二臺横濱稅關へ保管 轉換
修 路 機	重量十五噸	あがふりんぐ、えんど、ば ーたー會社	四 臺	一八,九〇三,〇〇〇	二臺神戸出張所へ組 替
杭 打 機	同 重 量 十 五 噸		八 臺	四,五九〇,四一〇	
雜 器 具 機 械 船 舶 新 調				一五二,五一,五三二	
器 具 機 械 船 舶 修 繕				二八四,二八一,〇四九	
計				九二八,四九七,〇九七	

備考 保管轉換及組替以外ノモノハ總テ賣却品トス  
各主要機械船舶構造及能力概約左ノ如シ

(一) ぶりーすとまん式浚渫機 容量二噸ノ掘土器ヲ以テ水深四十呎迄ノ浚渫ニ適セシメ長五十四呎幅二十二呎深六呎ノ木造臺船上ニ裝置シ汽機ハ徑九吋衝程十二吋ノ直立式汽筒二個ヲ有シ汽鐘ハ徑四呎高九呎ノ直立圓形くろっすちゆーぶ式トス本機臂長ハ二十二呎ニシテ中心ヨリ十八呎ノ距離ニ於テ浚渫スルヲ得

(二) ろぶにつつ式碎岩機 重量十噸ノ碎岩錐ヲ以テ水深四十尺迄ノ岩石破碎ニ適セシメ其ノ臺船ハ木造ニシテ第一號ハ二隻ノ臺船ヲ梁材ニテ連結シ外側寸法長八十呎六吋幅四十呎六吋深八呎七吋ノモノト爲シ第二號ハ長七十五呎幅三十六呎深七呎六吋ノモノ一隻トシ中央部ニ八呎角ノ井及高四十六呎ノ鋼製三脚ノ架構支柱ヲ設ケ碎岩錐ハ長四十二呎徑十六吋及長三十八呎六吋徑十七吋ノ二種トシ先端ニハ特別鋼製ノぼいんとヲ付シ捲揚用鋼索ハ周五吋トス又捲揚機ハ徑十吋衝程十五吋橫置式聯成汽筒ヲ有シ繩捲筒ニハこいるくらちヲ備ヘ臺

船ノ操縦ハ徑六吋衝程十吋ノ直立式汽筒二個ヲ有スルまぬーばりんぐういんちヲ用ヒ汽鐘ハ徑八呎長八呎六吋常用汽壓一時平方八寸封度ノ船用圓形火管式トス

(三) 潜水函 長三十六呎幅二十四呎高十三呎六吋ノ軟鋼製立方形ノ無底函ニシテ其ノ天井ハ二重ト爲シ上下兩室ニ區劃セラレ各室隨意ニ壓縮空氣若ハ海水ヲ容ル、ヲ得ヘク下室ハ高六呎半ニシテ直ニ海底ヲ蓋ヒ操業室ヲ構成シ上室ハ高七呎ニシテ其ノ床上及下室周圍ニ約百八十四噸ノ混凝土ヲ填充シ函ノ浮沈ニ際シ其ノ傾斜ヲ防キ且其ノ操作ヲ容易ナラシム操業室ト水面上トノ交通聯絡ニハ二個ノ圓塔ヲ用キ一ハ内徑二呎半高四十五呎ニシテ勞働者出入ノ用ニ供シ一ハ内徑三呎四吋高約四十四呎ニシテ材料揚卸ニ專用シ各其ノ上部ニ氣閘室ヲ備フ又海面ニハ長六十呎半幅十八呎半深八呎半ノ木造臺船ヲ二隻並ヘ鋼製繫梁ヲ以テ潛水函ヲ挾ンテ互ニ固着セシメ函ノ釣上ニ當リ其ノ荷重ヲ均一ニシテ兩臺船ノ傾斜ヲ避ケシメ海上不穩ノ虞アルトキハ鋼柱ヲ撤去シ繫梁ヲ兩斷シ各臺船ヲシテ別々ニ安全ナル錨地ニ避難セシム而シテ臺船上ニハ空氣壓縮機發電機及潛

水函釣上ケ用汽力巻揚機ヲ備ヘ諸機關共通ニ汽罐一個ヲ臈裝ス  
空氣壓縮機用汽關ハ横置たんでむ式ニシテ汽筒ノ前部ニ壓縮空氣筒ヲ備ヘタル  
別個機關二臺ヲ並列シ各別ニ運轉シ得ルノ裝置ト爲シ汽筒ハ直徑七吋半空氣筒  
ハ直徑十二吋半衝程十二吋一分間ノ回轉數百二十ト爲シ二臺ヲ以テ一時平方面  
九封度ノ氣壓ヲ有スル壓縮空氣ヲ一分間ニ百二十立方呎以上ヲ供給シ得ルモノ  
トス又發電機用汽關ハ徑六吋衝程六吋ノ直立船用形ニシテ其ノ實效馬力數二十  
トシ發電機ハ電壓百五フゝると電流百三十あひべあノ直流電氣ヲ發生シ材料捲  
揚用八馬力電動機ヲ運轉シ且十六燭光白熱燈三十餘個ヲ點火スルノ用ニ供シ汽  
罐ハ直徑七呎長八呎常用壓力一時平方面百封度ニ適スル有管船用形トス  
潛水函ノ總重量ハ二百四十七噸ナルモ之ヲ海底ニ沈置セシムレハ約百五拾五噸  
トナリ本函操業ノ場合即下室ノミニ空氣ヲ充タシタルトキニハ約二十三噸乃至  
二十九噸ニ減シ又上室並下室ノ上部一呎ト兩圓塔内ニ空氣ヲ充タシタルトキハ  
更ニ排水量ヲ加ヘ重量僅ニ十二噸以内ニ止マルヘシ而シテ此ノ場合ニ於テ本函  
ヲ移動セシム移搬ノ方法ハ函内ノ操業終了シ労働者ノ氣閘室ニ昇リタル後下室

ニ通スル空氣輸送管ノ三方嘴子ヲ開キ下室天井ヨリ下一呎通りマテ空氣ヲ逸出  
セシメ海水ヲ充タシ次ニ上室ニ壓縮空氣ヲ送り全部海水ヲ排除シ兩臺船前後ニ  
在ル各汽力捲揚機ニ依リ八筋ノ潛水函釣揚用鋼索ヲ均一ニ巻揚ケ潛水函ノ海底  
ヨリ二尺乃至三尺離ル、ヲ俟テ各索繩ヲ緊定シタル後臺船ノ碇繫錨鎖ヲ巻舒シ  
隣工區ニ移動シ臺船ヲ固定シテ更ニ汽力捲揚機ニ依リ徐々ニ各索繩ヲ均一ニ弛  
メテ所定ノ海底ニ沈定シタル後上室ニ在ル空氣ハ三方嘴子ヲ開キテ放出シ全部  
浸水シ下室ヲシテ代リテ空氣室タラシムルモノニシテ其ノ移搬ニハ平均三時間  
ヲ要ス

潛水函ヲ所定ノ位置ニ沈置シ操業室内ノ海水ヲ排除シタル後ハ労働者ヲシテ海  
底ニ降ラシメ直接基礎工事ニ從事セシム函内作業ハ晝夜間斷ナク操業ヲ繼續セ  
シメ函内労働者ハ工夫及人夫一組平均九人トシ一晝夜ヲ四組ニ分擔セシメ函内  
ニテ交替セシメ諸機械運轉其ノ他ニ要スル臺船上ノ勤務者ハ機關士二人水、火夫  
及人夫十八人ヲ一組トシ一晝夜毎ニ交替セシム

#### (四) 浮裝起重機

舷側ヨリ三十呎ノ距離ニ於テ重量二十噸ヲ扛舉シ得ルモノ

ニシテ長六十六呎幅三十呎深八呎三吋ノ木造臺船上ニ裝置シ臂ハ長五十二呎軟鋼製構桁ニシテ其ノ最上端甲板ヨリ三十呎十吋ノ高ニ二重滑車ヲ備ヘ臺船四隅ニ各一個ノ汽力絞盤ヲ据付ケ船體操縦ノ便ニ供シ汽機ハ横置複式ニシテ徑九吋衝程十二吋ノ汽筒ヲ有シ汽鐘ハ徑四呎三吋高九呎六吋常用汽壓一時平方面六十封度ニ耐ユル直立式トス又甲板上ニハ平衡用トシテ重量三十二噸ノ混凝土方塊ヲ鐵軌上ノ臺車ニ載セ荷重揚卸ニ際シ其ノ位置ヲ變シテ船體ニ對スル加重ヲ平均セシメ荷重釣上用鋼索繩ハ周三吋四分ノ三ニシテ其ノ長ハ水深三十六呎ニ於テ自由ニ荷重ヲ揚卸シ得ルモノトス

(五)修路機 重量十噸及十五噸ノ二種トシ複式汽機ノ機關車形ニシテ常用汽壓ハ每平方吋面百六十封度トス十五噸修路機ハ全長十八呎四吋全幅七呎九吋十噸修路機ハ全長十八呎四吋全幅六呎八吋ニシテ三個ノ動輪ヲ有シ前部車輪(直徑及幅ハ十五噸ノモノ各四呎六吋半十噸ノモノ各三呎八吋)ノ兩側ニ鐵鎖ヲ通シ車臺上ノ把手ニ依リ方向轉換ヲ爲サシメ後部車輪二個(十五噸ノモノ直徑六呎幅一呎八吋十噸ノモノ直徑五呎五吋半幅一呎四吋)ハ機械ノ主要部ヲ爲ス動輪ヨリ直ニ

働カヲ受ケテ前後ニ回轉シ得ル裝置トス







橫濱市長

橫濱市會議長

橫濱商業會議所會頭

橫濱市會選出

橫濱市會選出

橫濱商業會議所選出

現在幹事

大藏事務官

元委員長

大藏次官

大藏次官

大藏次官心得

大藏次官

大藏次官

安藤謙介

大濱忠三

大谷嘉兵衛

渡邊福三郎

小野光景

增田增藏

木本房太郎

若槻禮次郎

水町袈裟六郎

櫻井鐵太郎

橋本圭三郎

勝田圭三郎

大藏次官

元委員

內務省地方官

大藏省主計局長

大藏省主計局長

大藏省主計局長

大藏省主計局長

大藏省主計局長

大藏省主計局長

大藏省主計局長

大藏省主計局長

大藏省主計局長

大藏省主計局長

大藏省主計局長

工學博士

濱口雄幸

菅原通敬

床次竹二郎

荒井賢太郎

櫻井鐵太郎

妻木賴黃

橋本圭三郎

市來乙彦

山崎四男

菅原通敬

森田茂吉

大久保利武

內田嘉吉

遞信技師	工學博士	三好晉六郎
遞信省管船局長		
遞信技師	工學博士	湯河元臣
鐵道院副總裁	工學博士	今岡純一郎
鐵道院副總裁	工學博士	平井晴二郎
鐵道院副總裁	工學博士	野村龍太郎
鐵道院副總裁	工學博士	古川阪次郎
神奈川縣知事	男爵	周布公平
神奈川縣知事		大島久滿次
神奈川縣知事		石原健三
橫濱稅關長		嘉納德三郎
橫濱市長		三橋信方
橫濱市長		荒川義太郎
橫濱市長代理助役		齊藤松三
橫濱市會議長		朝田又七

橫濱市會議長  
 橫濱市會議選出  
 橫濱商業會議所選出

元幹事

大藏書記官

金子政吉  
 平沼專藏  
 來栖壯兵衛  
 山崎四男

### 第八章 設備ノ利用

外國貿易ノ盛衰ハ一國隆替ノ繫ル所ナルヲ以テ本港設備ノ如キ其ノ經費ニ比較シ直接ニ生スル利益ノ厚薄ノミヲ以テ直ニ之カ得失ヲ論スヘキニアラス要ハ設備其モノ、效果カ直接ナルト間接ナルトヲ問ハス一國貿易ノ増進發達ニ資スル所アルヲ以テ足レリトスヘシ本工事ハ計畫ノ始ニ當リ本港ノ發展及竣功後ニ於ケル設備利用ノ狀況ニ關シ之カ豫想ヲ試ミタルコトアリ今現狀ト對照シ其ノ消長ヲ示サムトス

外航船及外國貿易貨物噸數比較 (△印ハ減)

入港外航船	明治三十四年調		大正二年調		大正五年調	
	總登簿噸數	一隻平均噸數	總登簿噸數	一隻平均噸數	總登簿噸數	一隻平均噸數
平均一年增進率(總登簿噸數)	八二五	二、〇三六、二一八	一、四四六	二、〇三六、二一八	一、四四六	二、〇三六、二一八
	二、四六八	二、四六八	三、一五四	二、四六八	三、一五四	二、四六八
	一、三二〇、五五五	一、三二〇、五五五	二、五〇、一六四	一、三二〇、五五五	二、五〇、一六四	一、三二〇、五五五

外國貿易貨物	平均一年增進率(輸出噸數合計)		平均一年增進率(輸入噸數合計)		外國貿易總量ニ對スル歩合	
	輸出噸數	輸入噸數	輸出噸數	輸入噸數	輸出噸數	輸入噸數
輸出噸數	二、三三、八七七	七二二、八三二	九四五、九一三	一、〇二、九九九	〇・六九	〇・三二
輸入噸數	六七七、〇五三	一、八五〇、四三一	一、二六三、六八五	一、〇二、九九九	〇・三二	〇・三二
合計	九一〇、九三〇	二、五七四、二六三	二、二〇九、五九八	一、〇二、九九九	〇・六九	〇・三二
輸出噸數	一、五三、五四七	三三三、五七一	四二九、二六四	一、〇二、九九九	〇・六九	〇・三二
輸入噸數	三八七、二四五	三四五、三四二	三五八、九二二	一、〇二、九九九	〇・六九	〇・三二
合計	五四〇、七九二	六七八、九一三	七八八、一八六	一、〇二、九九九	〇・六九	〇・三二

備考 外航船登簿噸數及外國貿易貨物總噸數(石炭、石油揮發物ヲ除ク)ニ對スル平均一箇年增進率ハ各調査當時ニ於ケル既往十年ノ平均數ヲ示シ稅關波止場取扱貨物ノ外國貿易貨物ニ對スル歩合ハ明治三十四年調ハ既往四年大正二年調ハ既往七年大正五年調ハ既往十年ノ平均數トス現時ニ於ケル横濱港ノ貿易ハ豫想ノ増進ヲ爲シタルモ貨物ニ對スル輸送陸揚ノ徑路並商取引上ノ變遷ニ依リ沖扱貨物ノ増加一層大ナルヲ以テ波止場取扱貨物ノ

割合ヲ減シ加フルニ私設上屋及私設倉庫ノ發展ハ其ノ取扱數量ヲ増加シタル爲メ著シク税關波止場取扱數量ヲ減シ一方ニハ新舊荷役方法ノ變更ニ伴ヒ船業者其ノ他ニ及ホス利害ノ影響大ナルニ依リ多年ノ慣習ハ容易ニ改メ難キト未ダ設備ノ全能力ヲ發揮スル場合ニ至ラサルトニ依リ新港設備利用ノ現況ハ僅ニ調査當時ニ於ケル竣功期豫想額ト大差ナキヲ得シノミ而シテ大正二年ハ工事施行中ニ屬シ其ノ下半年ニ至リ新設備ノ大部分漸ク其ノ使用ニ供セラレタルニ過キス又大正五年ハ歐洲戰亂ノ爲メ平時狀態ト異ナルモノアリ從テ竣功期ニ對スル當初ノ豫想ト之ヲ比較スルハ稍其ノ當ヲ得スト雖亦以テ其ノ利用ノ一斑ヲ窺フニ足ルヘク新港設備ハ逐年其ノ利用ヲ増進シ新港取扱貨物ハ波止場經由貨物總數ニ比シ明治四十三年僅ニ其ノ一割七分ナルニ對シ大正二年ハ其ノ三割一分大正五年ハ其ノ四割九分ニ達シ岸壁繫留船ノ隻數及其ノ噸數モ亦著シク増加セリ然ルニ貨物船ニ比シ發著ヲ急ケル旅客船ノ多數ヲ占ムルノ結果一方ニハ平均繫留日數ヲ減縮シ他方岸壁取扱貨物ノ噸數モ亦豫想以上ニ達セスト雖輸出貨物ノ如キハ既ニ本港全輸出額ノ三割二分ヲ取扱フノ狀況ヲ見ルニ至レリ

茲ニ設備利用ニ關スル重要事項ノ比較ヲ擧ケ更ニ數表ノ統計ヲ掲ケテ其ノ進歩ノ狀況ヲ示サムトス

名	稱	明治三十五年調査竣功期ニ於ケル見込高	大正二年實績	大正五年實績
岸壁繫留船隻數	四二六	四四三	五〇八	一、七五六、九〇五
同登簿總噸數	一、三六三、二〇〇	一、六三三、六八四	一、七五六、九〇五	三、四九九
同平均一隻ノ噸數	三、二〇〇	三、六八八	三、四九九	二日五分
同平均繫留日數	六日	二日三分	二日五分	七八八、一九三
税關陸揚場取扱貨物總噸數	九五七、七六九	六七八、九七八	七八八、一九三	五七四、三一四
新港取扱貨物總噸數	五三〇、七〇〇	四四七、七九七	四六二、六六三	四八九
岸壁取扱貨物總噸數	四七五、七五〇	三五一、八〇四	四六二、六六三	
岸壁一間當リ取扱貨物噸數	五〇〇	三七〇		

輸出入貨物通關徑路區分

區分	年次	明治十三年	四十四年	大正元年	二年	三年	四年	五年
輸出		四七、三三三	五〇、六八七	五七、一五三	七三、八三三	六三、六〇九	七九、三七八	九四、六一六

總噸數	波止場經由噸數		本船又ハ解扱噸數		揮發物揚場經由噸數	
	輸	入	輸	入	輸	入
	計	計	計	計	計	計
一,二八,八〇〇	一,一八,三,五〇八	一,〇五,四	一,〇四,九	一,〇四,九	〇	〇
一,五九〇,一三三	一,四八,三,〇二五	〇,五五,四	〇,四九,九	〇,四九,九	〇	〇
三三〇,三三〇	三三〇,三三〇	〇	〇	〇	〇	〇
五五,七三〇	五五,七三〇	〇	〇	〇	〇	〇
八五,六一〇	八五,六一〇	〇	〇	〇	〇	〇
一四〇,九五三	一四〇,九五三	〇	〇	〇	〇	〇
五四,四三七	五四,四三七	〇	〇	〇	〇	〇
六八,三九〇	六八,三九〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇,四三三	〇,四三三	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
五,六三三	五,六三三	〇	〇	〇	〇	〇
五,六三三	五,六三三	〇	〇	〇	〇	〇
〇,〇三三	〇,〇三三	〇	〇	〇	〇	〇

波止場經由輸出入貨物ニ對スル波止場區分

區分	波止場經由總噸數		新港經由噸數		舊稅關構內經由噸數	
	輸	入	輸	入	輸	入
	計	計	計	計	計	計
明治十三年	三三〇,三八〇	三三〇,三八〇	一四九,五九一	一四九,五九一	〇,一七	〇,一七
十四年	三四四,〇二五	三四四,〇二五	二〇八,七八六	二〇八,七八六	〇,三三	〇,三三
大正元年	四三一,九三八	四三一,九三八	四二六,〇〇一	四二六,〇〇一	〇,三五	〇,三五
二年	四八〇,一三三	四八〇,一三三	四四七,七七七	四四七,七七七	〇,三三	〇,三三
三年	三二七,一四三	三二七,一四三	三三〇,〇九九	三三〇,〇九九	〇,三七	〇,三七
四年	四〇一,一三三	四〇一,一三三	四一三,四七八	四一三,四七八	〇,四四	〇,四四
五年	四三七,三二八	四三七,三二八	五七四,三一四	五七四,三一四	〇,四九	〇,四九

私設物揚場其他 經由噸數	輸 入		輸 出		合 計
	噸	歩合	噸	歩合	
	三八、一七六	〇・四九	三六、六九一	〇・四五	一五〇
	四一八、二二五	〇・四九	四六八、三九七	〇・四五	三三三、七〇〇
	三六、六九一	〇・四九	四六八、三九七	〇・四五	三七五、六九八
	四六、〇〇九	〇・四五	五八六、五四一	〇・五二	三三三、三〇六
	四六八、三九七	〇・四五	七三三、〇二二	〇・五二	三八三、七五三
	五八六、五四一	〇・五二	四四六、七七三	〇・四四	〇・三六
	四三三、九七五	〇・四四	三三三、三〇六	〇・三六	〇・三三
	四四六、七七三	〇・四四	三三三、三〇六	〇・三六	〇・三三
	三三三、三〇六	〇・三六	三三三、三〇六	〇・三六	〇・三三
	三八三、七五三	〇・三三			

備考 私設物揚場其ノ他ハ横濱港所在並東京税關支署管内各私設陸揚場其ノ他臨時陸揚場ヲ含ム

税關取扱方法別輸出貨物噸數

年 次	通關方法		稅關上屋扱	私設上屋扱	解 中 扱	他地方ヨリ直 接本船積込	合 計
	噸	歩合					
明治四十年	一四三、一五一	〇・四二	三九、二七三	一〇・一一	一四九、四二二	四一、三五七	三四四、二六四
同四十一年	一六三、五六八	〇・三八	四一、七〇二	〇・〇九	一四九、四二二	七五、三二一	四三〇、〇一四
同四十二年	一六三、五〇一	〇・四〇	五〇、七九四	〇・一三	一二二、二八五	六八、〇〇五	四〇四、五八五

年 次	通關方法		稅關上屋扱	私設上屋扱	解 中 扱	他地方ヨリ直 接本船積込	合 計
	噸	歩合					
同四十三年	二二〇、三三一	〇・四九	四三、四一六	〇・〇九	一四〇、九五三	五六、六二三	四七一、三三三
同四十四年	二四四、九三五	〇・四八	一七、七四二	〇・〇四	一六二、八四八	八一、三四八	五〇六、八七三
大正元年	三五四、九九五	〇・六二	五、八七七	〇・〇一	一四五、二二四	七一、〇六六	五七七、一五二
同二年	三三六、五三八	〇・四七	一五、六一四	〇・〇二	二四三、七〇〇	一二七、九八〇	七二三、八三二
同三年	三一七、七七二	〇・五一	九、三七二	〇・〇一	一九一、四七四	一〇四、九九三	六二三、六〇九
同四年	三九一、五一七	〇・四九	六、二二九	〇・〇一	二七六、一〇八	一二五、五二四	七九九、三七八
同五年	四二九、二六四	〇・四五	四、九九二	〇・〇一	三一四、九三七	一九六、九二三	九四六、一一六

平均歩合 〇・四七 〇・〇五 〇・三二 〇・一六 一・〇〇

税關取扱方法別輸入貨物噸數

年次	通關方法		官設陸揚場	私設陸揚場	官設保稅倉庫	私設保稅倉庫	稅關假置場	不定各所陸揚場	本船扱	舢舨扱	合計
	噸數	歩合									
明治四十年	三七九,一〇九	〇・三二	一五〇,四三〇	〇・二二	一,六六〇	八五,三四四	三〇,五〇〇	—	三六二,九八七	二三〇,二九九	一,三三九,八一九
同四十一年	四三二,一〇三	〇・三三	二〇六,八三七	〇・二六	四,一一〇	一〇〇,七六〇	二七,七六一	四,〇〇一	三〇〇,一九五	二五三,八九三	一,三三五,九五〇
同四十二年	二四四,六四四	〇・二二	二六六,四四五	〇・二二	四七八	一一九,一七七	五,五三九	八,九二一	二八四,六七二	二五二,四九六	一,二八二,三六一
同四十三年	二六,二四五	〇・一九	二五九,五九八	〇・三三	七九六	九六,六九〇	三,九二八	一〇六	二六九,二三八	二七二,二〇九	一,一一八,八〇〇
同四十四年	二五三,〇五七	〇・一八	二三三,九三六	〇・二二	六〇六	一一三,一五一	三,三八九	五,一四八	四〇〇,六四三	三六六,七〇五	一,三七六,三三五

年次	通關方法		官設陸揚場	私設陸揚場	官設保稅倉庫	私設保稅倉庫	稅關假置場	不定各所陸揚場	本船扱	舢舨扱	合計
	噸數	歩合									
大正元年	三三九,三二二	〇・二二	三〇六,三三四	〇・一九	九四七	一八九,一一五	二,四六五	五,七四四	四〇一,四二一	三六九,一四五	一,六〇四,一八三
同二年	三五九,二二二	〇・二七	二〇八,八二〇	〇・〇九	一,六三九	三三八,一三八	三四,八八二	二四,三七六	六三八,八九六	五五八,一三一	二,一五四,〇八四
同三年	二五二,四一一	〇・一五	一八,一三三	〇・〇一	一,一七九	二二,三五五	二七,五六五	一,一七六	五七〇,六七九	三九九,四〇四	一,六六六,一一三
同四年	二六三,五四四	〇・一六	一三三,二六九	〇・一〇	一,〇二八	一三〇,三八五	六六,二〇五	一,四五八	四七六,九七七	三〇一,四三五	一,三三七,一〇一
同五年	三五九,四六七	〇・二五	一七四,一八八	〇・一三	一,七四六	一〇三,五九三	九八,三五三	五,六四〇	四三二,〇六三	二七九,六〇七	一,四五四,六五六
平均歩合	〇・二三	〇・一五	〇・〇〇八	〇・一〇	〇・一〇	〇・〇七	〇・〇三	〇・〇〇三	〇・二八	〇・二三	一・〇〇

新港繫船岸壁ノ利用ハ其ノ開始以來漸次増進シ歐洲戰亂ニ際シ一時的頓挫ヲ見シモ大正五年下半年期ヨリ更ニ一段ノ進歩ヲ爲シ船舶ノ繫留著シク増加シ上屋内外ニハ貨物堆積シ其ノ整理ノ爲メ往々船舶ノ繫留ヲ中斷セシムルノ必要アルニ

至レリ而シテ本年上半期ニ於テハ貨物船モ亦比較的增加シ繫船總數ニ對シ約二割ニ達セリ

新港上屋ニ於テハ雜貨ノ取扱ヲ主トシ大量貨物即チ棉花、砂糖、米、大豆、鐵類等ノ如キハ各營業者間ニ於ケル取引上因襲的關係存スルヲ以テ私設上屋又ハ私設倉庫ヲ經由スルモノトナシタルニ依リ此ノ種貨物ヲ吸收スルハ當初ヨリ多ク期待セサリシ所ナリ而シテ目下ノ狀況ハ是等大量貨物ヲ除クモ尙貨物堆積シテ此ノ種貨物ヲ取扱フノ餘地ナキニ至レリ

新港上屋經由貨物搬出入ノ徑路ヲ見ルニ輸出貨物ノ搬入ハ一部鐵道ヲ利用スルノ外全部車馬輸送ニ依リ水路輸送ノモノハ普通直接本船ニ積込ミ新港上屋ヲ經由セス輸入貨物ノ搬出ハ舢舨船ニ依ル水路輸送比較的多量ニシテ車馬輸送鐵道輸送相匹敵セリ元來橫濱港ニ於ケル輸出貨物ノ大部分ハ生産地ヨリ橫濱市内ニ搬致セラレ一旦市場ヲ經テ更ニ稅關構内ニ搬入スルヲ常トシ從テ車馬輸送ヲ主トスルハ當然ナリ然レトモ輸入貨物全數量ノ約七割ト稱セラル、東京行貨物ノ大部分ハ未タ水路ニ依リ輸送セラレ鐵道ヲ利用スルモノ比較的多キハ運賃其ノ他

ノ關係上尙水運ヲ有利トスルモノアルヲ以テナリ而シテ目下ノ輸送狀態ニ於テ東京市場經由貨物ノ多數カ當分ノ内水運ニ依ルハ已ムヲ得ストスルモ地方集散ノ貨物ニシテ取引ノ關係上東京ヲ經由シ又ハ單ニ東京ヲ通過スル多數ノ貨物ハ鐵道輸送ヲ便利トスルコト勿論ナレハ今後鐵道直輸ノ便ト商慣習ノ變遷ニ依リ改善セララルヘキハ蓋疑ナカルヘシ

岸壁繫留船隻數及噸數

年次	區分	岸壁利		旅客船		貨物船	
		用延長	隻數	登簿噸數	隻數	登簿噸數	
明治四十三年		三九三	一七〇	五一九、七七六	一六一	二九、五一〇	
同 四十四年		六六二	二九七	八七一、五三五	二七三	五六、八九八	
大正元年		九四六	四一八	一、四二七、四六八	三六八	一、二八、九三一	
同 二年		九四六	四四三	一、六三三、六八四	三九二	一、四七、〇五二	
同 三年		九四六	四二九	一、五五七、八三一	三八一	一、〇六、〇二四	
同 四年		九四六	三九一	一、二八一、五五三	三六一	七六、四〇四	



同 五 年	九四六	五〇八	一、七五六、九〇五	四三六	一、五三五、五七一	七二	二二一、三三四
同 六 年 上 半 期	九四六	二九九	一、〇一五、四一〇	二三六	八四四、二九四	六三	一七一、一六

新港上屋經由貨物噸數

年次	區分	岸壁沿上屋			物揚場沿上屋		總計	
		利用棟數	面積	噸數	利用棟數	面積		
明治四十三年	同 四十四年	五	三、〇六六、五	五四、五一五	一	九六	四八、五三八	一四九五九一
大正元年	同 二年	八	五、二八八、〇	九一、三三七	二	一、六二〇	六八、三八七	二〇八、七八六
同 三年	同 四年	一三	八、〇〇四、〇	一九四、六四四	二	一、六二〇	九五、九九三	四四七、七七七
同 五年	同 六年 上 半 期	一三	八、〇〇四、〇	一九六、七九七	二	一、六二〇	七四、六五四	三七〇、〇九九
同 六年 上 半 期		一三	八、〇〇四、〇	二六九、五九九	二	一、六二〇	七七、〇九七	四一三、四七八
		一三	八、〇〇四、〇	三〇七、〇四〇	二	一、六二〇	一一、六五一	五七四、三二四
		一三	八、〇〇四、〇	一六三、五五三	二	一、六二〇	五六、九九八	三四一、三〇一

備考 大正五年ニ於ケル一箇年上屋面一坪ニ對スル貨物取扱量ハ五十九噸

ニ相當ス又物揚場沿上屋ハ輸入貨物専用ニシテ輸出貨物ニ使用セス  
新港經由總貨物搬出入徑路別

年次	區分	輸出入總噸數	鐵道輸送		車馬輸送		水路輸送	
			噸數	歩合	噸數	歩合	噸數	歩合
明治四十三年	同 四十四年	一四九五九一	〇	〇	一〇三、五一〇	〇・六九	四六、〇八一	〇・三一
大正元年	同 二年	二〇八七八六	一二、七九七	〇・〇六	一三八、五〇五	〇・六六	五七、四八四	〇・二八
同 三年	同 四年	四二六、〇〇一	七〇〇、六五	〇・一六	二六八、〇八二	〇・六三	八七、八五四	〇・二一
同 五年	同 六年 上 半 期	四四七、七九七	一〇〇、七二七	〇・二二	二五四、四四〇	〇・五七	九二、六三〇	〇・二一
同 六年 上 半 期		三七〇、〇九九	八〇、〇八五	〇・二二	二二〇、〇〇六	〇・五九	七〇、〇〇八	〇・一九
同 六年 上 半 期		四一三、四七八	六七、一七五	〇・一六	二七七、四〇四	〇・六七	六八、八九九	〇・一七
同 六年 上 半 期		五七四、三一四	七五、五六〇	〇・一三	三四八、六二二	〇・六一	一五〇、一三二	〇・二六
同 六年 上 半 期		三四一、二〇一	四八、〇二三	〇・一四	一八〇、一五六	〇・五三	一一三、〇二二	〇・三三

備考 明治四十四年九月鐵道ノ聯絡輸送ヲ開始ス  
新港經由輸出貨物搬入徑路別

年次区分	輸出總噸數	鐵道輸送		車馬輸送		水路輸送	
		噸數	歩合	噸數	歩合	噸數	歩合
明治四十三年	五四、五一五	〇	〇	五四、五一五	一〇〇	〇	〇
同 四十四年	九一、二二七	三、一八六	〇〇三	八八、〇四一	〇九七	〇	〇
大正元年	二〇三、〇九四	一五、八二七	〇〇八	一八七、二六七	〇九二	〇	〇
同 二年	一九四、六四四	一八、九八四	〇一〇	一七五、六六〇	〇九〇	〇	〇
同 三年	一九六、七九七	二六、三二四	〇一三	一七〇、四七三	〇八七	〇	〇
同 四年	二六九、五九九	三二、二六五	〇一二	二三七、三三四	〇八八	〇	〇
同 五年	三〇七、〇四〇	二四、〇四八	〇〇八	二八二、四三九	〇九二	五五三	〇〇〇一
同 六年上半年	一六三、五五三	一二、七〇六	〇〇八	一四八、八二五	〇九一	二〇二	〇〇〇一

新港經由輸入貨物搬出徑路別

年次区分	輸入總噸數	鐵道輸送		車馬輸送		水路輸送	
		噸數	歩合	噸數	歩合	噸數	歩合
明治四十三年	九五、〇七六	〇	〇	四八、九九五	〇五二	四六、〇八一	〇四八

同 四十四年	一一七、五五九	九六一一	〇〇八	五〇、四六四	〇四三	五七、四八四	〇四九
大正元年	二二二、九〇七	五四、二三八	〇二四	八〇、八一五	〇三六	八七、八五四	〇四〇
同 二年	二五三、一五三	八一、七四三	〇三二	七八、七八〇	〇三一	九二、六三〇	〇三七
同 三年	一七三、三〇二	五三、七六一	〇三一	四九、五三三	〇二九	七〇、〇〇八	〇四〇
同 四年	一四三、八七九	三四、九一〇	〇二四	四〇、〇七〇	〇二八	六八、八九九	〇四八
同 五年	二六七、二七四	五一、五一二	〇一九	六六、一八三	〇二五	一四九、五七九	〇五六
同 六年上半年	一七七、六四八	三五、三一七	〇二〇	三一、三三一	〇一八	一一一、〇〇〇	〇六二

新港設備ニ屬スル倉庫二棟ハ一階二階及三階ヲ通シ合計六十戸前ニシテ其ノ一部十八戸前ハ官設假置場一戸前ハ收容貨物置場六戸前ハ官設保税倉庫ニ充當シ他ノ三十五戸前ハ坪貸又ハ戸前貸ノ方法ニ依リ貿易當業者ノ使用ニ供シ内十戸前ハ私設保税倉庫ニ二十五戸前ハ輸出入貨物長期置場トシテ使用中ナリト雖尙不足ヲ告クルノ狀況ナレハ目下埋立地内豫定倉庫敷地全部ハ民設倉庫建設ノ目的ヲ以テ當業者ニ貸付交渉中ニ屬ス

新港設備利用ニ伴フ收支計算ノ概要左ノ如シ

收入ノ部

區分	年次	明治四十四年	同三十四年	同四十四年	同五十四年	大正元年度	同二年度	同三年度	同四年度	同五年度	同六年度
土地使用料		1,500,000	760,000	2,000,000	9,700,000	1,111,000	1,111,000	1,111,000	1,111,000	1,111,000	1,111,000
上屋使用料		9,350,000	2,270,000	2,950,000	2,180,000	2,180,000	2,180,000	2,180,000	2,180,000	2,180,000	2,180,000
收容敷料		5,100,000	2,000,000	2,200,000	7,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000
繫船料		3,100,000	1,700,000	1,900,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000
保税倉庫敷料											
專用倉庫使用料											
假置場建物使用料											
假置場使用料											
起重機使用料											
電燈使用料											
雜收入		3,100,000	1,900,000	2,700,000	9,900,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
計		23,100,000	11,900,000	14,750,000	27,680,000	22,000,000	22,000,000	22,000,000	22,000,000	22,000,000	22,000,000

支出ノ部

區分	年次	明治四十四年	同三十四年	同四十四年	同五十四年	大正元年度	同二年度	同三年度	同四年度	同五年度	同六年度
營業費		5,000,000	6,110,000	5,000,000	10,000,000	10,000,000	7,000,000	9,900,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000
應給費		2,900,000	9,320,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
雜給及雜費			8,530,000	10,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000
俸給				1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
旅費				1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
收容貨物運搬費				700,000	700,000	700,000	700,000	700,000	700,000	700,000	700,000
其他諸費											
計		6,000,000	18,960,000	20,900,000	23,600,000	23,600,000	20,900,000	23,600,000	25,800,000	25,800,000	25,800,000

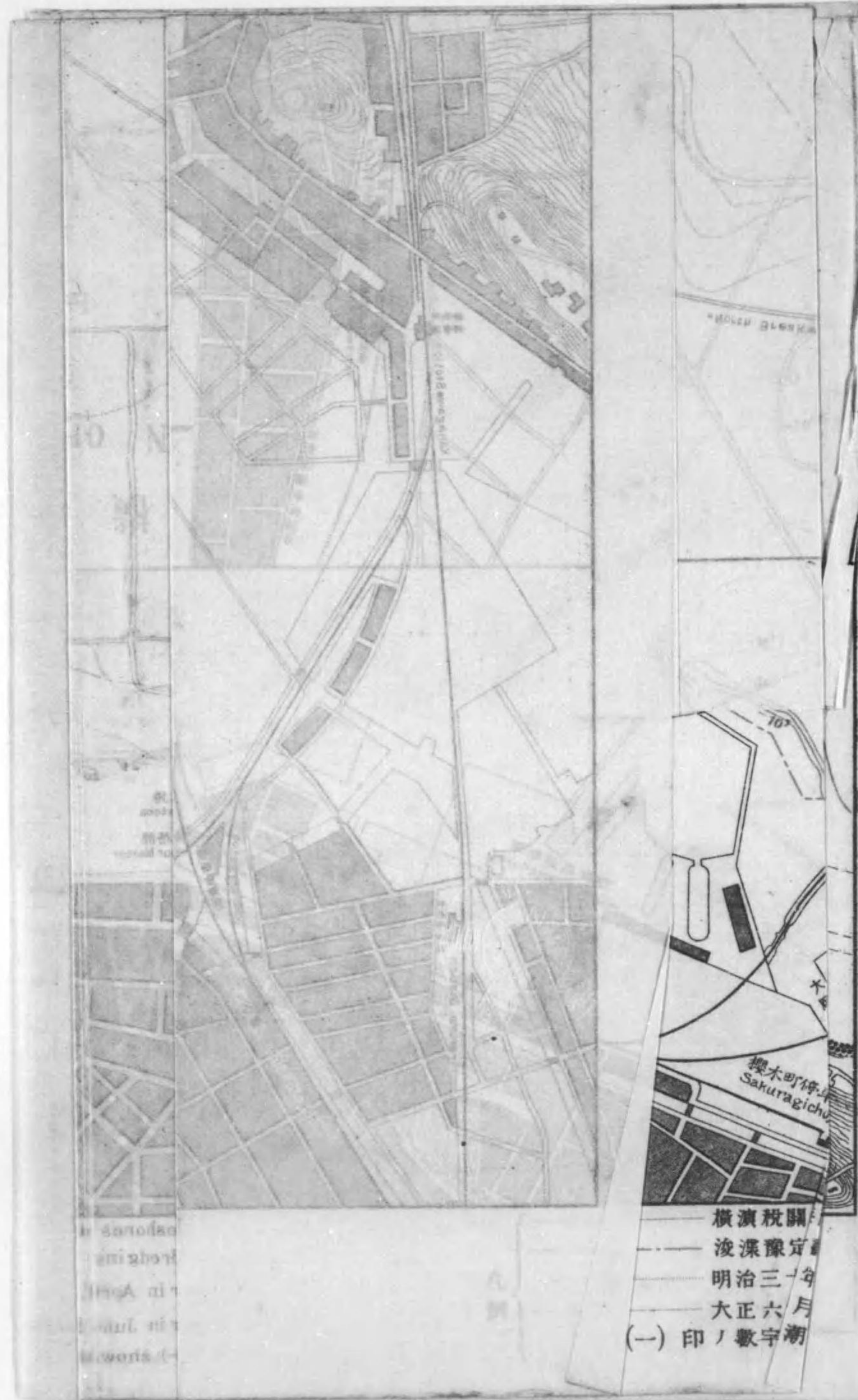
備考 五年度其他諸費中ニハ災害復舊費金壹萬六百五拾壹圓六拾四錢ヲ包含ス

收支對照計算

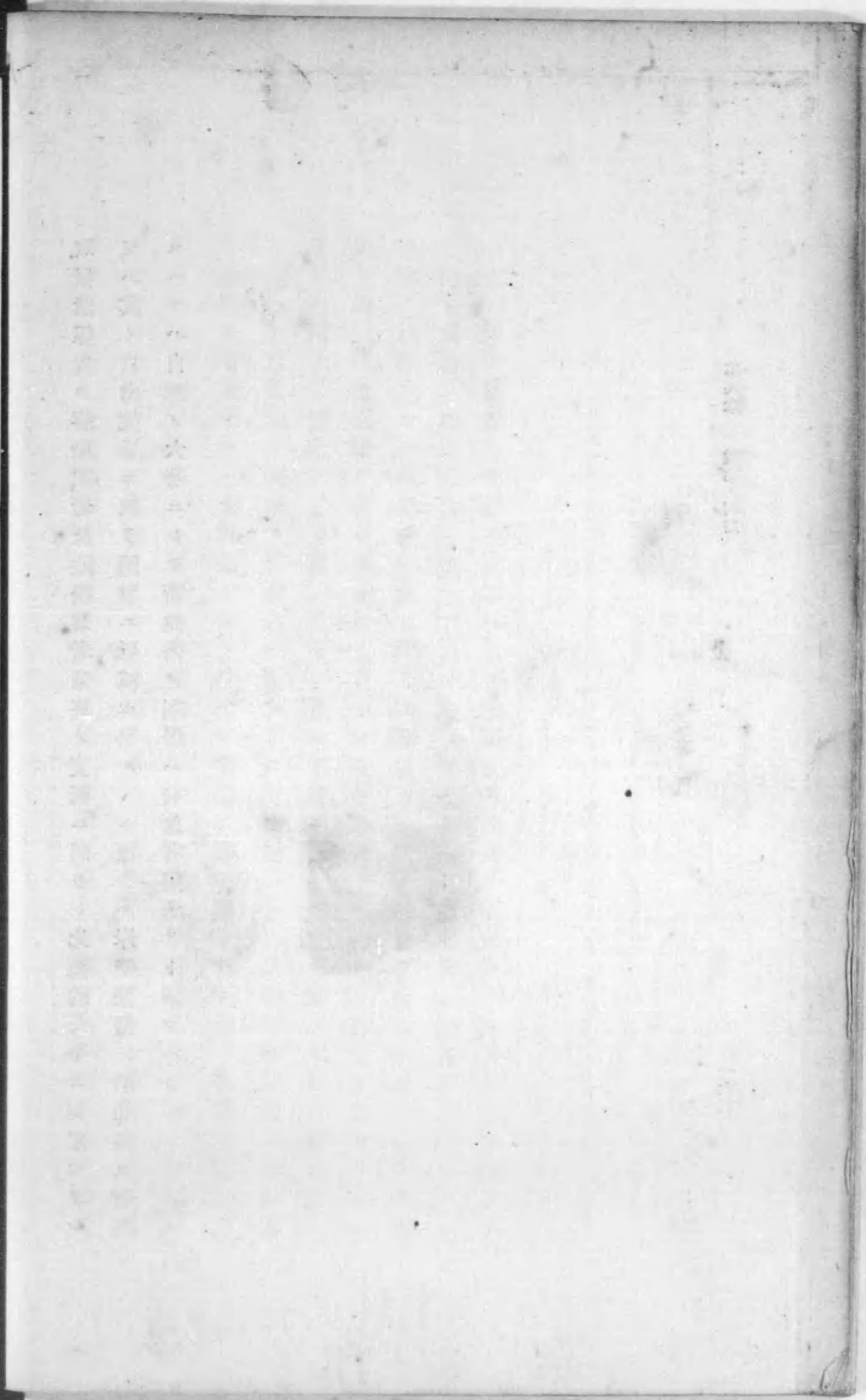
區別	年次	
	明治四十二年	同三十四年
收入	一三、一〇〇、〇〇〇 円	四一、八九九、九〇〇 円
支出	六、〇〇〇、〇〇〇 円	一八、八九九、〇〇〇 円
收入超過	七、一〇〇、〇〇〇 円	二三、〇〇〇、九〇〇 円
	同四十四年	同四十六年
收入	六、七〇七、七九四 円	二九、五九六、三〇〇 円
支出	二、九三三、六三〇 円	一〇、三三三、八〇〇 円
收入超過	三、七七四、一六四 円	一九、二六二、五〇〇 円
	大正元年度	同二年度
收入	九、九三三、八〇〇 円	一四、三三〇、〇〇〇 円
支出	四、〇三三、〇〇〇 円	四、三三三、七五〇 円
收入超過	五、九〇〇、八〇〇 円	一〇、〇〇〇、二五〇 円
	同三年度	同四年度
收入	八、五三三、八〇〇 円	六、四一〇、〇〇〇 円
支出	四、六二九、七九〇 円	三、三三三、八〇〇 円
收入超過	三、九〇四、〇一〇 円	三、〇七六、二〇〇 円
	同五年度	同六年度
收入	一六、三三三、八〇〇 円	一三、三三三、八〇〇 円
支出	七、四三三、八〇〇 円	六、三三三、八〇〇 円
收入超過	八、九〇〇、〇〇〇 円	七、〇〇〇、〇〇〇 円

新港利用ノ概況ハ前數項ニ述ヘタリ元來港内設備ノ不完全ナル貿易港ニ在リテハ出入貨物ハ舢船荷役ニ依ルヲ要シ之ニ伴フ各種附帶事業ノ經營者ヲ生スルハ自然ノ狀勢ニシテ汽船會社若ハ其ノ代理店カ多數ノ舢船ヲ用ヒ副業トシテ沖繋船ニ對スル陸揚業ヲ營ミ又ハ船主貨主カ舢船業者ト特約シテ荷役ヲ獨占セシムル等取引上ノ慣行ヲ存シ粹ニ改廢シ難キ事情アリ横濱港ニ於テモ其ノ數ニ漏ル、能ハス新設備ノ利用上影響スル所少シトセス然レトモ繋船岸壁利用ノ逐年其ノ效果ヲ増進セルハ新設備ニ依ル荷役ノ實益カ漸ク貨主其ノ他ノ當業者間ニ認識セラレシモノト見ルヘク若夫岸接荷役ニ於ケル貨物積卸其ノ他取扱ノ簡捷ニシテ時間ト勞力トヲ節減スルコト船舶ノ滯港日數ヲ節約スルコト貨物破損ヲ輕減シ得ルコト等ノ利益カ一層詳密ニ且廣ク當業者間ニ認知セラレ殊ニ岸壁積卸

取扱諸係費カ舢船業者及陸揚業者業務ノ實際ニ照ラシ比較的公平ニ制定セラレ又ハ其ノ自由競争ニ依リ適當ニ低減セラル、ニ至ラハ岸壁繋留ノ船舶益々増加スヘキハ自然ノ大勢ニシテ新設備ノ利用ハ前途有望ナリト謂フヘシ



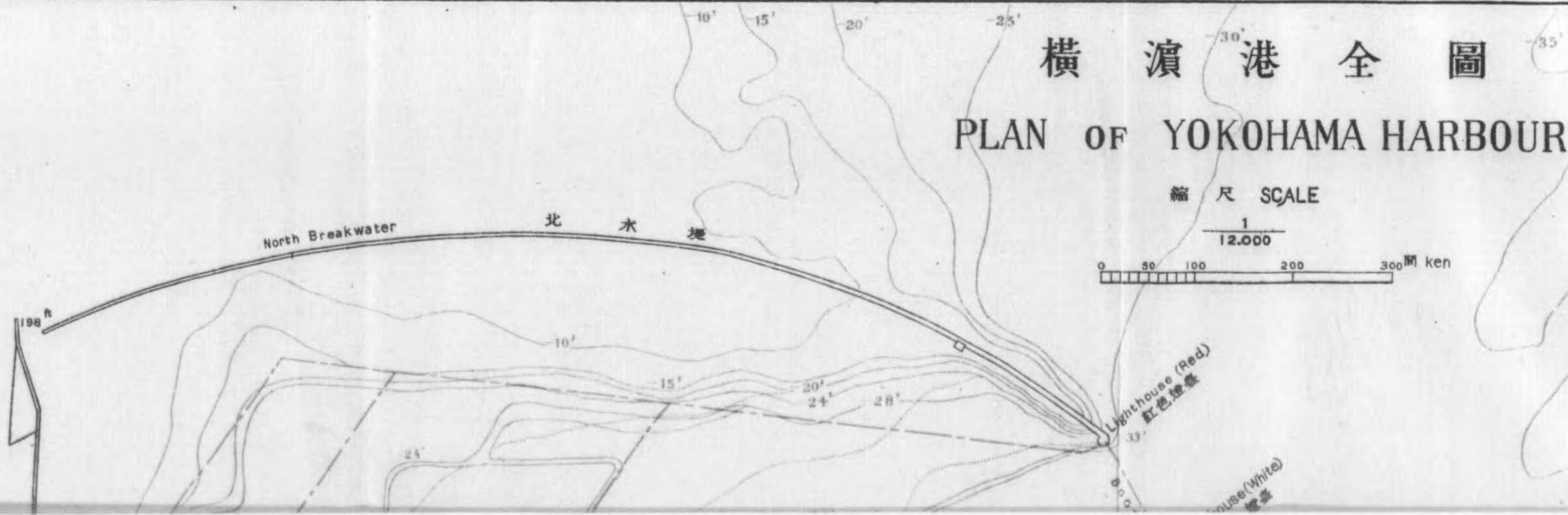
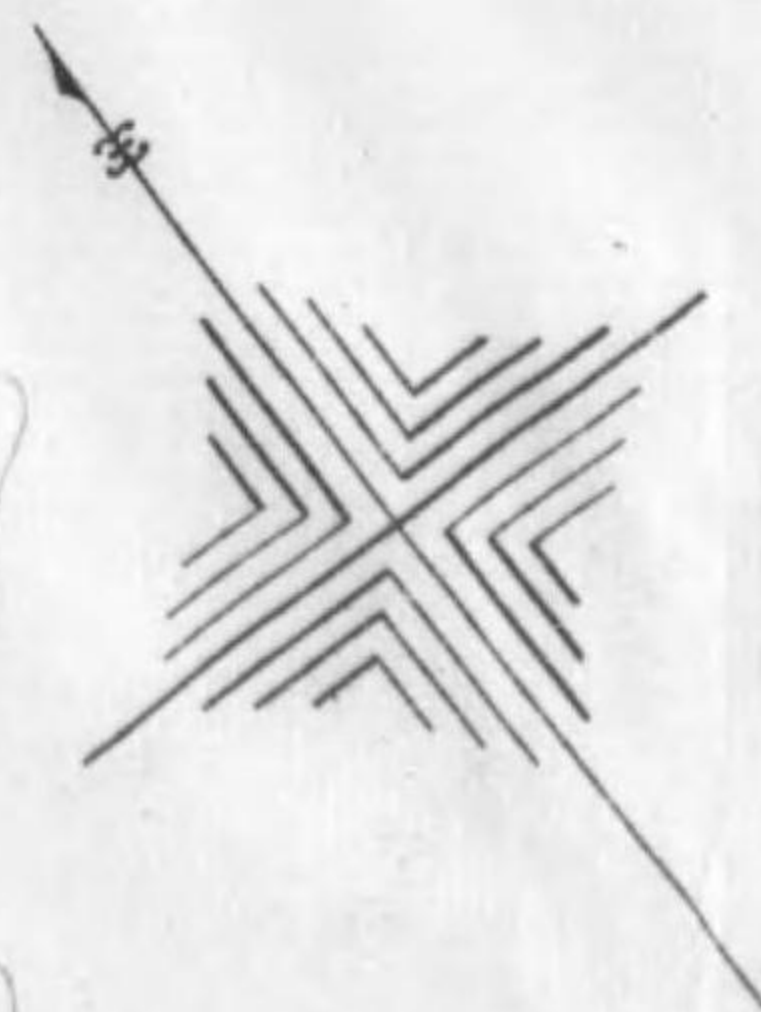
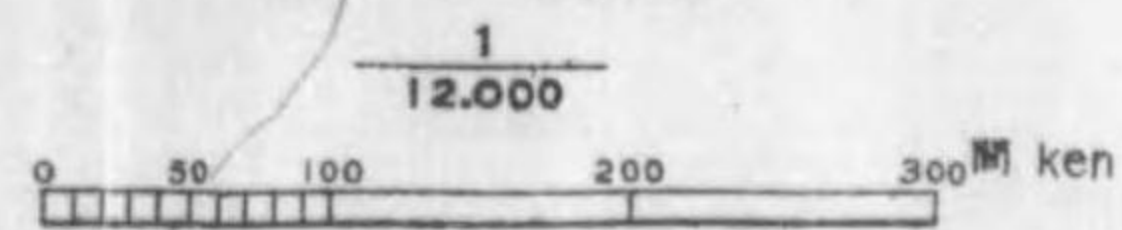
横濱税關  
 渡瀬豫定  
 明治三一年  
 大正六月  
 (一) 印ノ數字潮



橫濱港全圖

PLAN OF YOKOHAMA HARBOUR

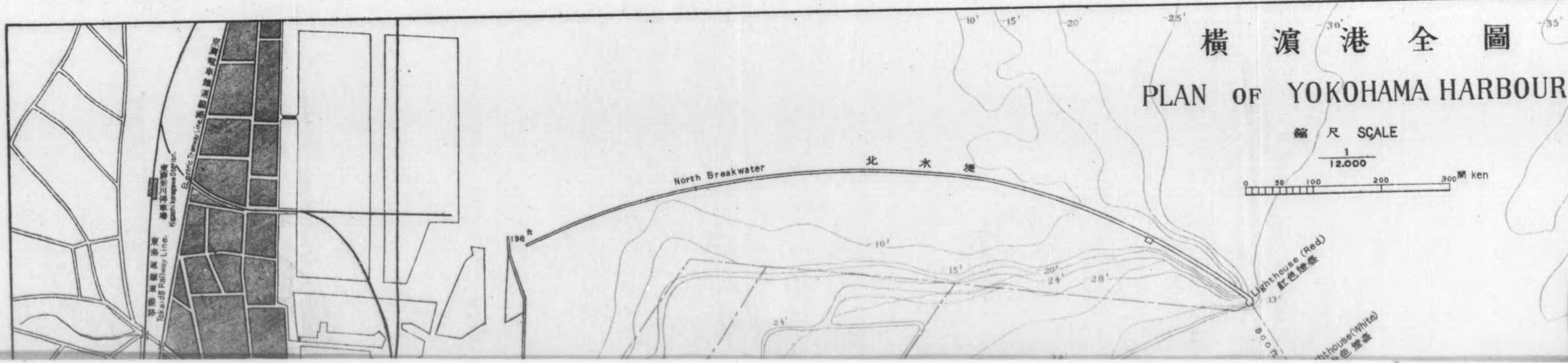
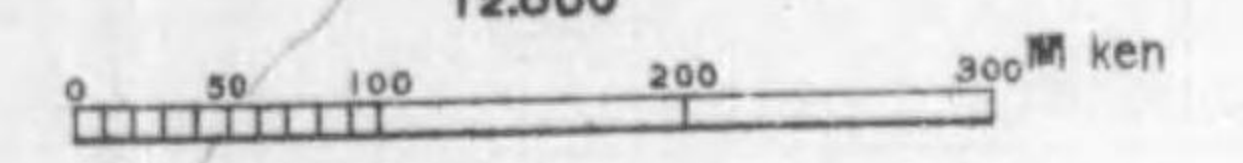
縮尺 SCALE

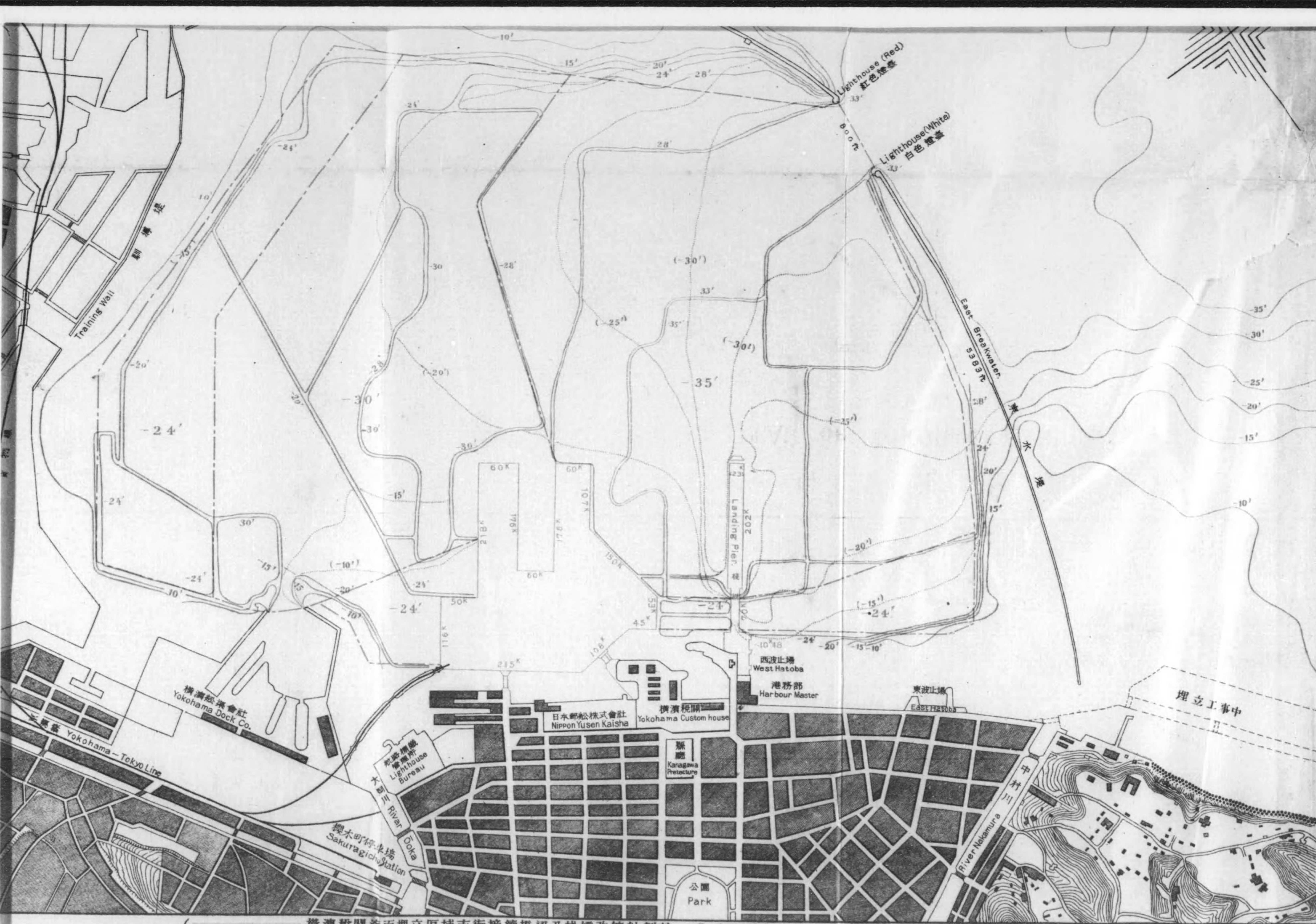


橫濱港全圖  
 PLAN OF YOKOHAMA HARBOUR

縮尺 SCALE

1  
 12,000



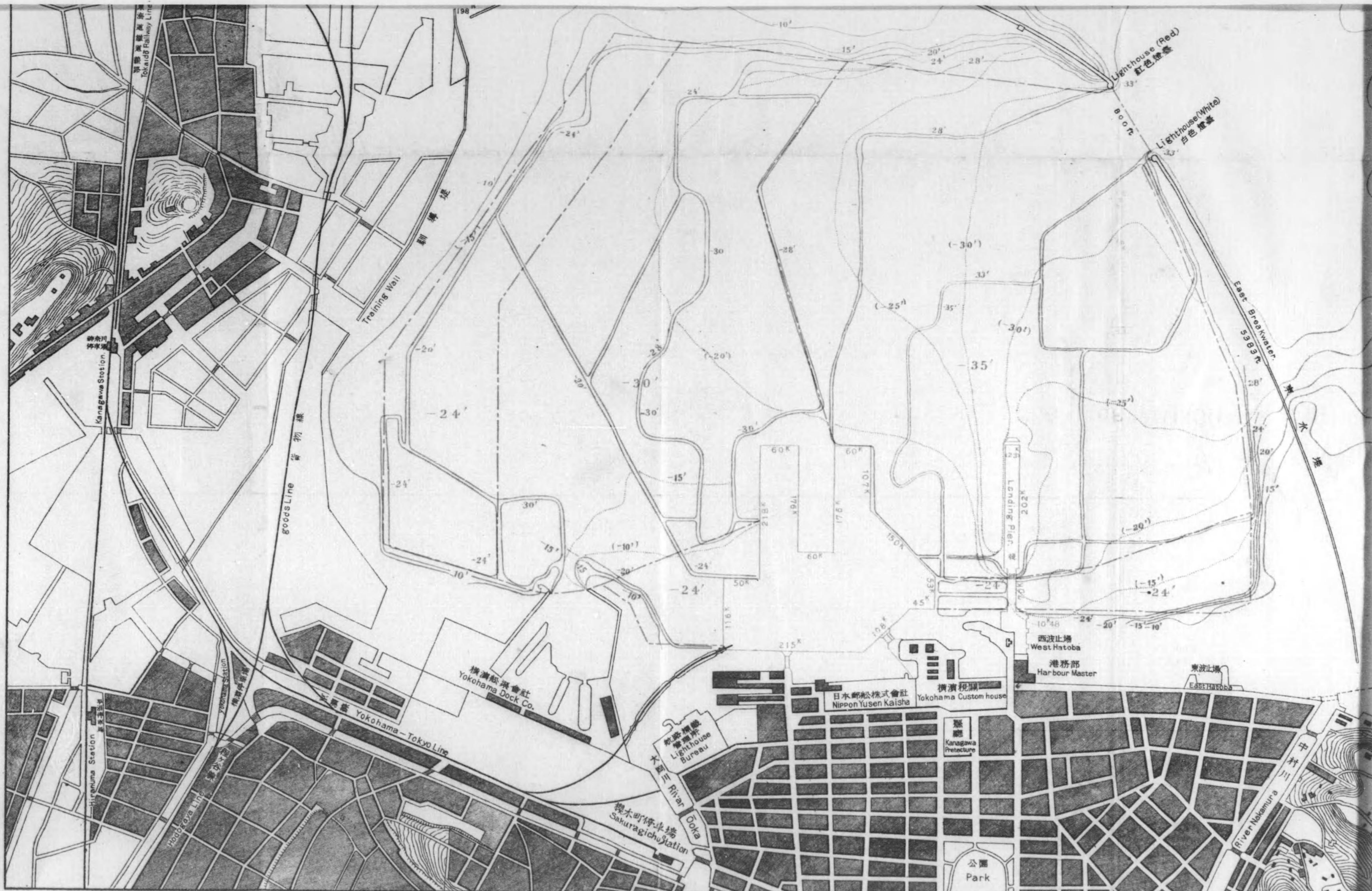


凡例

———— 横濱税關海面埋立區域市街接續橋梁及棧橋改築計劃線  
 - - - - - 浚渫豫定計劃線  
 ———— 明治三十七年四月調査ノ水深  
 - - - - - 大正六年七月調査ノ水深  
 (一) 印ノ數字ハ干潮面以下ノ水深ヲ示ス

Reclaimed foreshores and the landing pier to be reconstructed.  
 extension of dredging  
 Depths of water in April, 1904.  
 Depths of water in June 1917.  
 Figures with (-) show the depths below the spring low water level in feet.





横濱税關海面埋立區域市街接續橋梁及棧橋改築計劃線  
 浚渫豫定計劃線  
 明治三十七年四月調査ノ水深  
 大正六年七月調査ノ水深  
 (一) 印ノ數字ハ干潮面以下ノ水深ヲ示ス

Reclaimed foreshores and the landing pier to be reconstructed.  
 extension of dredging  
 Depths of water in April, 1904.  
 Depths of water in June 1917.  
 Figures with (-) show the depths below the spring low water level





圖面斷壁岸及堤突

